

# 講義概要

---

## 正課科目

2025年2月25日時点の情報です。

五十音順に掲載しております。

※人間教育学部の科目は「人間教育学部科目シラバス」をご覧ください。

[https://www.andrew.ac.jp/extension-center/society\\_auditor/#anc03](https://www.andrew.ac.jp/extension-center/society_auditor/#anc03)

講義名称	曜日
アジア産業論Ⅰ <春>	火2

【教員名称】

江川 暁夫

【講義概要】

本講義は、アジア(特に ASEAN)の主要各国の産業構造の状況を概観し、その形成過程と、アジア各国自身が目指す今後の産業構造転換の方向性を学ぶことを主眼とする。  
 具体的には、(1)ASEANという地域全体における産業の現状とその成り立ちを簡潔に俯瞰した後、(2)アジア各国の農業、製造業、サービス業の現状について、経済発展段階との関係を考えていく。これらで得た知識を用いて、(3)将来の ASEAN の産業の変化を予想・分析できるようにするために必要となる外的環境の変化について把握し、今後の日本と ASEAN の産業の関係性について考察する。

【学習目標】

- (1)アジア各国の経済をけん引する産業とその状況は千差万別であり、成長に貢献する産業の姿も、過去・現在・未来で変わっていくということを、具体的にかつ大局的に理解できるようになる。
- (2)実社会に出た後にも、アジアでのビジネスをより上手に企画できるようになるために必要な最低限の知識を得ることができる。

【講義計画】

- 第1回：講義概要の説明(イントロダクション)/アジアの各国経済の世界における位置付け
- 第2回：ASEAN 各国の産業構造の特徴
- 第3回：ASEAN 経済のダイナミズムと産業発展の国際的展開/ペティ＝クラーク法則
- 第4回：ASEAN 各国の産業構造の特徴と所得水準との関係
- 第5回：農業部門：過去から現在までの動きと、将来の農業・農村の発展と衰退
- 第6回：ASEAN で農業を守る重要性和農家を守る非効率性
- 第7回：ASEAN の工業化の変遷：雁行形態型経済発展論の第2モデル
- 第8回：ASEAN の工業化の変遷：雁行形態型経済発展論の第1モデル
- 第9回：中間まとめ：これまでの産業発展のモデルとこれからの産業発展のモデル(時代の変化についての SWOT 分析)
- 第10回：ASEAN における「日系企業」：サプライチェーンとして位置づけられる ASEAN の製造業
- 第11回：ASEAN は今後も「サプライチェーン」の一角なのか?
- 第12回：ASEAN 主要国の第三次産業(特にサービス産業化)の状況と「日本ブーム」
- 第13回：ASEAN の「日本ブーム」は今後も続くか
- 第14回：ASEAN の「4.0 産業」と産業高度化を実現する上でのチャンスと制約
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

- 事前学習：日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句を理解するとともに、どのような日本企業がアジアのどの国に進出しようとしているかを把握し、傾向を掴むことが有益である。
- 事後学習：授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、参考文献なども頼りに、事後に十分に確認しておくことが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】

- 『アジア経済読本』第4版 渡辺利夫編 東洋経済新報社  
 『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』未廣昭著 名古屋大学出版会  
 『タイでのビジネスプロトコル』今井宏著 パンコク日本人商工会議所発行  
 『新興アジア経済論—キャッチアップを超えて』未廣昭著 岩波書店  
 その他、各回講義に関連する参考文献等は、その都度紹介する。

【コメント】

- (1)試験は、定期試験が実施されないため、試験と同等の内容の出題を短期間で解くもので代替し、最終回の講義時に出題する。
- (2)レポートの59点については、①毎回、授業の途中ないし終了時に10分程度の小テスト(1回あたり2~4点満点)に取り組み、その点数をレポート点として付加(全体で総合点の39%)、②1,300字程度のレポートが1本(20点満点)。
- (3)毎回、授業内で、ブレインストーミング的な「練習問題」を出題する。これへの解答をもって、授業に積極的に臨む取組の表明とみなし、その他点を適宜配分する。なお、上記(1)の「試験と同等の内容の出題を短期間で解くもの」の提出がない者については、それまでの取組状況にかかわらず、その他点の評点は0点とする。
- (4)公欠や病欠、就職活動を理由とする欠席の場合は、大学ないし就職活動先が発行する何らかの書類を提示した場合に限り、その他点について配慮する。

【留意事項】

アジアで経済担当の外交官の経験を踏まえた授業内容  
 経済官庁でアジア経済分析や対アジア経済協力等を経験した者による実践的な授業内容

社会人の方へ(聴講に際して)

授業時間内に、QRコードを読み込んで解答する設問が出題されるので、スマートフォン等を毎回持参してください。

講義名称	曜日
アジア文化研究-韓国・朝鮮文化A <春>	火2

【教員名称】

青野 正明

【講義概要】

近年、日本と韓国との交流が様々な分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的な問題が原因で政治的には安定しない状態がまだ続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、時事問題に重点を置きながら歴史や政治、社会の分野に焦点を絞って概説していく。  
 具体的には、歴史・地理・社会制度などの諸項目について、パワーポイントを用いて視聴覚資料を多用しながら学んでいく。また、終盤では北朝鮮事情や在日コリアンについて学び、日本社会におけるナショナリズム問題を考察することで締めくくる。

【学習目標】

日常生活では正確な情報を得ることが難しいため、ネット情報に誤りが多いことはわかっていても、ついついそれらに頼ってしまう人が多いと思われる。そこで、この講義では日韓関係についての客観的な情報をベースに、韓国の置かれた状況を文化的な視点から理解していく。その過程で日韓関係を多面的に見つめ直すことにより、各回で学ぶ基本的な知識を修得する。そして、多文化共生について自分の考えをもち、ナショナリズムを突出させないで、それを克服することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：講義の流れや成績評価等の説明、韓国・北朝鮮についての概説
- 第2回：歴史1(ナショナリズム教育の問題、渡来人と仏教文化の伝来)
- 第3回：歴史2(秀吉の侵略、家康以降の友好関係)
- 第4回：歴史3(日本による植民地支配、南北分断後の政権)
- 第5回：地理1(ソウル：王朝時代の面影)
- 第6回：地理2(ソウル：植民地期の残影)
- 第7回：地理3(南北分断と朝鮮戦争)
- 第8回：植民地期の日本人1(白衣と白磁、朝鮮民族美術館と柳宗悦、浅川巧)
- 第9回：植民地期の日本人2(青磁、文化財の流出問題と保存の努力、浅川伯教)
- 第10回：社会制度1(姓と本貫、創氏改名)
- 第11回：社会制度2(社会的な差別、伝統的な結婚)
- 第12回：日韓での大衆文化受け入れ(韓流ブーム・K-POP 人気までの道のり)
- 第13回：北朝鮮事情(支配体制など、ドラマ「愛の不時着」も少し参考に)
- 第14回：在日コリアン1(在日は？：民族教育、映画「パッチギ！」)
- 第15回：在日コリアン2(日本人とは？：アイデンティティをもつこと)

【事前および事後学習の指示】

たとえば、歴史1・2・3のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解する。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット(適切なサイトを選ぶ)で調べておき、事後学習では各回の授業資料をよく読み、掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

- 配布プリント  
 金岡基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社  
 他にも必要に応じて授業で紹介する。

【コメント】

「その他」は毎回の課題テストと受講態度の評価である。  
 また、授業に出席することは当然であるため、出席が70%以下の者は成績評価の対象外とする。

【留意事項】

講義名称	曜日
アジア文化史 A <春>	月 2

【教員名称】

辻 高広

【講義概要】

本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。

なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。

なお、この授業では M-Port や各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどは M-Port を通じて pdf で配布する予定であり、受講時には PC やタブレット端末などの持参を推奨する。

【学習目標】

現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】

- 第 1 回： ガイダンス
- 第 2 回： 中国史概説 1—古代～中世
- 第 3 回： 中国史概説 2—近世～近現代
- 第 4 回： 漢字の歴史 1—漢字の誕生
- 第 5 回： 漢字の歴史 2—漢字の成立
- 第 6 回： 漢字の歴史 3—漢字の伝播
- 第 7 回： 漢字の歴史 4—漢字の変容
- 第 8 回： 漢字の歴史 5—漢字の現在
- 第 9 回： 女性の歴史 1—神話のなかの女性
- 第 10 回： 女性の歴史 2—漢代の女性
- 第 11 回： 女性の歴史 3—唐代の女性
- 第 12 回： 女性の歴史 4—宋代の女性
- 第 13 回： 女性の歴史 5—明清代の女性
- 第 14 回： 女性の歴史 6—チャイナドレスと近代女性
- 第 15 回： まとめ—東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】

授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】

尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998 年  
講談社『中国の歴史』シリーズ(全 12 巻)、2004 年～2005 年

【コメント】

期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】

本講義はアジア文化史 B とあわせて受講することが望ましい。

社会人の方へ(聴講に際して)

レジュメは全て M-Port を通じて pdf 形式で配布します。受講時には印刷するか、PC・タブレット端末など pdf ファイルを閲覧できる環境をご準備下さい。

講義名称	曜日
アジア文化史 B <春>	水 2

【教員名称】

辻 高広

【講義概要】

本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。

なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。

なお、この授業では M-Port や各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどは M-Port を通じて pdf で配布する予定であり、受講時には PC やタブレット端末などの持参を推奨する。

【学習目標】

現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】

- 第 1 回： ガイダンス
- 第 2 回： 中国史概説 1—古代～中世
- 第 3 回： 中国史概説 2—近世～近現代
- 第 4 回： 日中交流の歴史 1—日中交流のはじまり
- 第 5 回： 日中交流の歴史 2—遣隋使
- 第 6 回： 日中交流の歴史 3—遣唐使
- 第 7 回： 日中交流の歴史 4—倭寇
- 第 8 回： 日中交流の歴史 5—居留地と雑居地
- 第 9 回： 神になった人々 1—歴史のなかの関羽
- 第 10 回： 神になった人々 2—世界に広がる関帝廟
- 第 11 回： 神になった人々 3—歴史のなかの楊貴妃
- 第 12 回： 神になった人々 4—楊貴妃渡来伝説
- 第 13 回： 食の歴史 1—主食の歴史
- 第 14 回： 食の歴史 2—食卓の歴史
- 第 15 回： まとめ—東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】

授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】

尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998 年  
講談社『中国の歴史』シリーズ(全 12 巻)、2004 年～2005 年

【コメント】

期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】

本講義はアジア文化史 A とあわせて履修することが望ましい。

社会人の方へ(聴講に際して)

レジュメは全て M-Port を通じて pdf 形式で配布します。受講時には印刷するか、PC・タブレット端末など pdf ファイルを閲覧できる環境をご準備下さい。

講義名称	曜日
映像メディア論 A <春>	火 3

【教員名称】

森田 良成

【講義概要】

「異文化」が描かれた多様な映像作品(ドキュメンタリー映画、民族誌映画、企業広告、広報映像など)を取り上げる。それらの作品には、われわれにとっては非日常的であるが「彼ら」にとっては当たり前のものにすぎない風景や、われわれが想像するものとは違った歴史が描かれている。またしばしばそこには、異文化を理解しようとする実践の過程そのものが記録されている。

映像メディアは、異文化をどのように描くことができるのか、異文化に対するより深い理解に貢献することができるのか。また映像メディアが何かを描こうとする際に、政治的、経済的な利害や反感がどのように関係してくるのか。映像メディアには、活字などのメディアとは異なるどのような特性(危険性を含む)があるのか。異文化とのコミュニケーションのあり方について理解を深めながら、映像メディアの問題と可能性を学ぶ。

【学習目標】

映像メディアを多角的に検討し、その特性を学ぶ。  
映像メディアが「異文化」をどのように描きうるのかについて理解を深める。

【講義計画】

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 広告映像から見る消費と暮らし(1)
- 第3回: 広告映像から見る消費と暮らし(2)
- 第4回: 広告映像から見る消費と暮らし(3)
- 第5回: 映画作品から見る宗教生活(1)
- 第6回: 映画作品から見る宗教生活(2)
- 第7回: 映画作品から見る宗教生活(3)
- 第8回: 選挙映像から見るナショナリズム(1)
- 第9回: 選挙映像から見るナショナリズム(2)
- 第10回: 選挙映像から見るナショナリズム(3)
- 第11回: ドキュメンタリー映像から見る社会のあり方(1)
- 第12回: ドキュメンタリー映像から見る社会のあり方(2)
- 第13回: ドキュメンタリー映像から見る社会のあり方(3)
- 第14回: ドキュメンタリー映像から見る社会のあり方(4)
- 第15回: まとめ

【事前および事後学習の指示】

講義中に紹介する文献資料を読み、資料映像を視聴すること。  
課題に積極的に取り組むこと。

【テキスト】

【参考文献】

村尾静二、久保正敏、筋内匡・編(2014)  
『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)―人類学の新たな実践へ』セリカ書房  
南出和余、木島由晶・編(2018)  
『メディアの内と外を読み解く―大学におけるメディア教育実践』セリカ書房  
ほか、授業において指示する。

【コメント】

[その他 40%]  
平常点を評価するために、到達目標に対応する小レポートを複数回実施する。論述の内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうか」を評価する(提出回数だけでは評価せず、記述内容に応じて採点をする)。  
[レポート 60%]  
1000字程度を予定。出題・作文の条件・評価基準などについて、授業内で詳しく説明する。

【留意事項】

講義名称	曜日
会計史 <春>	水 2

【教員名称】

中村 恒彦

【講義概要】

会計史は、会計と会計学の発展からその原理を歴史的に学びます。会計の起源は、簿記が成立する15世紀以前と古く、18世紀以降には株式会社に関連する会計が発展し、20世紀以降には資本市場に関連する会計が発展しました。こうした一連の歴史の流れから会計の原理に広く学びます。会計がどのように現在までになりたってきたかを通じて、知識を深めます。結果としての会計の原理原則を覚えるのではなく、原因としての当時の背景に目を向けてもらえると思います。その意味では、「会計」というよりも「経営」の数字のことを学習するつもりで受講するとよいでしょう。

【学習目標】

この授業の到達目標は、会計問題と歴史的な背景を関連付けることにより、会計技術・帳簿法・会計技法に対する深い知識を醸成することです。たとえば減価償却と取替法と減損などのように技術的にはよく似ているにもかかわらず、会計処理が異なるものがあります。こうした違いは、歴史的な経緯を踏まえれば容易に理解することができます。

【講義計画】

- 第1回: アカデミックスキルについて  
アカデミックなエッセイを作成する
- 第2回: 会計のイメージ、会計はなぜ「ダルい」のか???
- 第3回: 制度会計と企業会計原則
- 第4回: 費用の期間配分
- 第5回: 収益の期間配分
- 第6回: 複式簿記と起源
- 第7回: 資産・負債の認識・測定
- 第8回: 中間総括と会計ダイナミズム
- 第9回: 商品会計
- 第10回: 減価償却、減損
- 第11回: 引当金、準備金、積立金
- 第12回: 資本金
- 第13回: 経営分析と歴史
- 第14回: 管理会計と歴史
- 第15回: 最終総括と個別論点

【事前および事後学習の指示】

財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できる。

【テキスト】

会計のヒストリー 野口昌良ほか編著編著  
978-4502336713 中央経済社  
はじめて出会う会計学 第三版 川本 淳, 野口 昌良, 勝尾 裕子, 山田 純平, 荒田 映子  
978-4-641-22197-0 有斐閣アルマ

【参考文献】

【コメント】

成績評価は以下のとおりの方で行う予定にしています。本講義では①および②で主に評価する。  
①レポート課題  
②期末試験  
講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

【留意事項】

講義名称	曜日
外国史 01<通期>	火 2

## 【教員名称】

村上 司樹

## 【講義概要】

この授業ではイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインなどの国々からなるヨーロッパ(正確には西ヨーロッパ)の歴史を講義します。なお、歴史を学ぶことは、過去をただ暗記することではありません。そんなつまらない一夜漬けの課題ではなく、現在を深く知り、未来を見通すための知恵を磨くことだと思います。遠い昔を分かろうとすることで、自分たちが生きている今についても、だんだんよく分かるようになります。つまり一種の異文化理解です(異文化の理解は自文化の理解につながる)。だから必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。自分たちと異なる未知なるもの(ふつう「異常」に見える)を否定しなくなる感情に、理性でブレーキをかけて自分を変えていくことです。受講生の皆さんには、単位が取れるよう頑張ってください、合わせて単位以上の何かも手に入れてほしいと思います。

## 【学習目標】

イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインなど、西ヨーロッパ諸国の歴史をグローバルな視野で説明できるようになる。歴史的視野をもって現在を見、未来を考えられるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に付ける。

## 【講義計画】

- 第1回: 「歴史を学ぶにあたって」 歴史は異文化理解 / 手で食べる文化は劣っている? / 知らないうちは否定から入るな
- 第2回: 「01 歴史を学ぶにあたって」 恋愛結婚が主流になったのは最近 200 年間のこと / 赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常 / 女性にとつての出産と男性にとつての戦争
- 第3回: 「01 歴史を学ぶにあたって」 さらに社会的圧力(嘲笑や非難)がかかる / 親心が「なかった」のではなく「形が違った」 / 就活や通勤がない日常
- 第4回: 「01 歴史を学ぶにあたって」 「優しい父母」というだけでは務まらなかった / 家庭が職場だから結婚は仕事 / 恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方
- 第5回: 「01 歴史を学ぶにあたって」 童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難 / 構造的に生み出される男尊女卑の状況 / それでも、一言で片づけられる人生などない
- 第6回: 「01 歴史を学ぶにあたって」 27 世紀の学生が 21 世紀の歴史を学んだら… / 具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題 / 古来のマジカルナンバ-3
- 第7回: 「02 3つの源流」 3つの要素が1つに融合してヨーロッパになった / 例えば洋食(ヨーロッパ的服飾文化) / ローマ帝国がもたらしたパンとワイン
- 第8回: 「02 3つの源流」 ゲルマン人が広めた肉とビール / キリスト教が両者を取り持った / フランス料理が美味しい理由
- 第9回: 「03 ローマの遺産」 ヨーロッパにとって、古代ローマは「偉大さ」の代名詞 / 都市ローマの異名は「永遠の都」
- 第10回: 「03 ローマの遺産」 ロンドンもパリもウィーンもバルセロナもローマ都市 / ローマの文字が西欧に文化的一体感を与える / 独裁も、使いようによっては便利な、政治的道具の1つにすぎない
- 第11回: 「03 ローマの遺産」 どんな王よりも強くて危うい、ローマ皇帝と言う地位 / わが町をローマになぞらえる / 民主国家がローマを引き合いに出す
- 第12回: 「03 ローマの遺産」 独裁国家もローマにあやからうとする / 伝統は、受け継ぐ側に主体性がある / ローマだけがヨーロッパをつくったのではない
- 第13回: 「04 ゲルマン人」 偉大な文明の模範ローマ、素朴な文化の源ゲルマン人 / 例えば洋服(ヨーロッパ的服飾文化) / 洋服の原点はステップの遊牧民
- 第14回: 「04 ゲルマン人」 イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国 / ヨーロッパの王侯貴族はゲルマン人英雄の名を受け継ぐ / 王侯貴族はゲルマンの戦士の文化も受け継いでいる
- 第15回: 「04 ゲルマン人」 ローマ帝国はゲルマン人によって滅ばされたのではない / ローマは移民・難民問題を抱えて自滅した / 遠くの他者には寛容でいられるが目の前に迫られると
- 第16回: 「05 キリスト教」 キリスト教(または教会)がローマとゲルマンを仲立ちした / 都市と書物(または文字)の宗教キリスト教 / 教会聖職者の食文化が魚料理や卵料理を発展させた
- 第17回: 「05 キリスト教」 キリスト教が洋服に残したローマの伝統 / 欧米の個人名は大半がキリスト教系 / 日曜日を節目とする1週間、クリスマスと節目とする1年間
- 第18回: 「05 キリスト教」 ゴールがある歴史と言う思想 / 政教分離と教会離れが進んだ近現代においてもなお / 本来は中東生まれの宗教
- 第19回: 「06 遠くて近い西欧と日本」 現在は共に先進国グループ / あまり接点がなかった前近代 / 急速に接近した近現代
- 第20回: 「07 古代」 場所としては存在していたシルーツもあつたけれど / 先進文明・原初的な民・世界宗教
- 第21回: 「07 古代」 先進文明・原初的な民・世界宗教 / ユーラシア大陸の片すみで
- 第22回: 「08 中世」 無理した背伸びから等身大の歩みへ / 国家の分裂は地方の自立
- 第23回: 「08 中世」 侵略と留学で海外にアクセスする / 信仰が咀嚼されて定着する
- 第24回: 「09 近世」 グローバル化が始まって日欧が出会う / 地方分権と中央集権のシーソーゲーム
- 第25回: 「09 近世」 宗教戦争から世俗化へ / 武人領主が宮廷官吏に
- 第26回: 「10 近代」 市民革命、産業革命、植民地支配 / 国民意識の形成
- 第27回: 「10 近代」 かがやきとうぬぼれ / 世界大戦と共に終わる
- 第28回: 「11 現代」 帝国を失って冷戦体制下に組み込まれる / 平和と豊かさとの民主主義
- 第29回: 「11 現代」 統合への長い道と一国で続ける歩み
- 第30回: 「12 まとめ」 外国史を学ぶことは日本史を見つめ直すこと

## 【事前および事後学習の指示】

事前学習として、前回までのプリントの読み直しと次回分の先読み(1時間)。事後学習として、授業内容の読み返しとレスポンス・ペーパーの作成(1時間)。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

フレデリック・ドリューシュ(木村尚三朗監修・花上克己訳)『ヨーロッパの歴史 欧州共通教科書』東京書籍、1988年。  
服部良久・南川高志・山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006年。  
小山哲・山田史郎・杉本淑彦・上垣豊編著 『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』ミネルヴァ書房、2011年。

## 【コメント】

(1)レポート、(2)レスポンス・ペーパー、(3)授業前後の直接質問、の3つで成績評価します。「課題が多い」と感じるかもしれませんが、「選択肢(or チャンス)が多い」と考えてください。「何もしないで(例えば出席だけで)点が取れる」授業ではないですが、「自分に合ったやり方で点が取れる(=努力の種類は選べる)」授業です。

## 【留意事項】

講義名称	曜日
外国史 02<通期>	木 1

【教員名称】

鈴木 康文

【講義概要】

古代から第二次世界大戦後までのヨーロッパとアメリカの歴史を概観します。講義は政治史を軸とした構成ですが、各時代の文化にも触れます。

【学習目標】

古代から現代までの欧米各国における政治・文化の歴史を学び理解する。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：古代ギリシア①—アテナイ・スパルタ
- 第3回：古代ギリシア②—マケドニア、文化
- 第4回：古代ローマ①—王政・共和政
- 第5回：古代ローマ②—元首政・帝政、文化
- 第6回：フランク王国、ビザンツ帝国
- 第7回：十字軍、商業の発展、中世都市の成立
- 第8回：中世における英仏独伊の動向、中世文化
- 第9回：大航海時代
- 第10回：ルネサンス、宗教改革
- 第11回：近世ヨーロッパ諸国の抗争、主権国家体制
- 第12回：イギリス革命
- 第13回：プロイセンとオーストリア、17～18世紀の文化
- 第14回：産業革命
- 第15回：アメリカ独立戦争
- 第16回：フランス革命
- 第17回：ナポレオンの登場
- 第18回：ウィーン体制
- 第19回：19世紀後半のヨーロッパ①—英仏独の動向
- 第20回：19世紀後半のヨーロッパ②—独露の動向
- 第21回：アメリカ南北戦争
- 第22回：19世紀の文化
- 第23回：帝国主義①—英仏独の動向
- 第24回：帝国主義②—米露の動向
- 第25回：第1次世界大戦
- 第26回：ヴェルサイユ体制
- 第27回：世界恐慌、ファシズム
- 第28回：第2次世界大戦
- 第29回：戦後のヨーロッパ
- 第30回：米ソの冷戦

【事前および事後学習の指示】

事前学習：授業資料に目を通しておいてください  
事後学習：授業資料を使って復習してください。

【テキスト】

【参考文献】

木村靖二ほか『詳説世界史B』（山川出版社）。授業はこれに準拠します。

【コメント】

毎回の小テストなど：100% ※点数を合算して成績を評価します。  
※課題の詳細については第1回のガイダンスで説明します。

【留意事項】

講義名称	曜日
会社法A <春>	木 2

【教員名称】

大川 清植

【講義概要】

【会社法A 講義の目的】

現代のビジネス社会において、株式会社は経済活動の中心的な存在です。2005年に制定された会社法は、株式会社の運営や管理に関するルールを定め、会社とそのステークホルダー（株主、経営者、債権者、従業員など）の利益を調整するための重要な法律です。この講義では、以下のポイントについて学びます。

＜会社法Aの重要性について＞

1. 会社法の遵守の必要性

会社は、会社法の定めるルールに従って事業活動を行わなければなりません。この法律は、会社の経営透明性や公正性を確保し、ステークホルダーの権利を守るために不可欠です。

2. 実践的な学習としての会社法

会社法は単なる理論ではなく、ビジネスパーソンとして必要不可欠な実践的な学習です。会社法の知識は、会社内での意思決定や戦略立案において重要な役割を果たします。

＜会社法Aの提供内容＞

1. 会社の法実務に直結する知識

会社法を学ぶことで、実際のビジネスシーンでどのように法が適用されるのかを理解し、将来のキャリアに役立てることができます。法的リスクを認識し、それに対処するためのスキルを身につけることで、受講生は会社内での意思決定に自信を持って臨むことができます。

2. 視覚的な学習

単元ごとに図表を用いて、複雑な法的概念や法制度をわかりやすく解説します。視覚的に理解することで、記憶に残りやすく、受講生は法律の流れや関係性を視覚的に把握でき、より深い理解が得られます。

3. 具体的な事例研究

各単元の最初に会社ビジネスに関する法実務上の具体例を提示し、受講生がイメージしやすいようにします。実際の会社のケーススタディを通じて、法的な問題がどのように解決されたのかを学ぶことで、受講生は実務に活かせる洞察を得ることができます。

4. 設問を通じた考察

単元ごとに設けられた設問を通じて、受講生が自ら考え、理解を深める授業を行います。設問を設けることで、会社法の原則や適用方法をより深く理解できるようになります。

5. 講義レジュメの提供

講義のレジュメを1週間前までに提供し、予習ができるようにします。これにより、受講生は事前に内容を把握し、より深い理解を得ることができます。

6. オンデマンド形式の復習

講義内容を録音したオンデマンド形式のファイルをOneDriveにアップロードし、いつでも復習できるようにします。これにより、自宅での復習や、忙しい合間を利用した学習が可能となり、理解を深める助けになります。

＜学習方法＞

受講生の理解を深めるために、以下のアプローチを採用します。

法制度論：会社のビジネスに関連する法律の全体像を概観し、法律の枠組みを理解します。これにより、受講生は法律の背景や目的を把握し、学びを深めることができます。

法規範論：会社のビジネスに係る具体的なルールについて学び、実務にどう適用されるかを探ります。受講生は、法律の条文や解釈を通じて、実務に必要な知識を身につけます。

法解釈論：判例や学説を通じて、法律の解釈方法を学び、実際の事例にどのように適用されるかを考察します。これにより、受講生は法律の実務的な側面を理解し、問題解決能力を高めることができます。

この講義では、受講生が会社法の基本を理解し、実務に役立つ知識を得ることを目指します。具体的な事例を交え、初心者にもわかりやすく進めますので、ぜひ積極的に参加してください。

【学習目標】

国家三大資格試験（司法試験・公認会計士）やその他の資格試験（司法書士・行政書士）、さらに東京商工会議所が主催するビジネス実務法務検定試験などにおいて必須科目とされる会社法は、取り扱いが難しい法律科目とされています。これは、法的な用語や制度が複雑であるためです。

しかし、本講義では、株式会社の事業活動に関連する会社法制度や法規について、受講生が全体像を理解できるように、分かりやすく図解しながら進めていきます。このアプローチにより、受講生は実務に役立つ知識を習得できることを目指します。ぜひ積極的に参加し、知識を深めてください。

【講義計画】

- 第1回：「会社とは何か？」というテーマを取り上げます。  
具体的には、会社の法的性質を分析し、重要な論点として「法人格否認の法理」を検討します。  
この講義を通じて、受講生が会社の基本的な理解を深め、法人格の重要性について考える機会を提供します。
- 第2回：「会社設立」を中心に「公開会社」と「非公開会社」の定義や特徴、相違点を概説します。また、会社法上の機関設計の多様化についても触れ、受講生の理解を深めることを目指します。
- 第3回：「会社設立」に関連する事案を中心に、「公開会社」と「非公開会社」の定義や特徴、相違点を概説します。また、会社法上の機関設計の多様化についても説明し、受講生の理解を深めることを目指します。
- 第4回：株主総会①  
→会社の機関分化の特質と株主総会の形骸化の現象を踏まえ、株主総会の権限一般について検討します。
- 第5回：株主総会②  
→株主総会の総会権限の具体的な例として、⑦株主の提案権、⑧議決権行使、⑨代理人による議決権行使の例外的事項について検討します。
- 第6回：株主総会③  
→株主総会の総会権限の具体的な例として、⑦株主の提案権、⑧議決権行使、

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

◎代理人による議決権行使の例外的事項について検討します。	
第7回：株主総会④	→株主総会の総会権限の具体的な例として、②総会の議事、①総会決議の種類類と、決議の取消し・不存在・無効の法的効力について検討します。
第8回：会社経営に関する法律関係①	→取締役・執行役(以下、「取締役等」といいます)の権限、員数、資格、選任、任期、終任、解任について検討します。
第9回：会社経営に関する法律関係②	→取締役等の権限、員数・資格・選任・任期・終任、解任について検討します。
第10回：会社経営に関する法律関係③	→代表取締役等の意義および選定・解職、権限、表見代表取締役の責任について検討します。
第11回：会社経営に関する法律関係④	→代表取締役等の意義および選定・解職、権限、表見代表取締役の責任について検討します。
第12回：会社経営に関する法律関係⑤	→取締役等の競業取引、利益相反取引の規制、及び報酬に関する法的諸問題について検討します。
第13回：会社経営に関する法律関係⑥	→取締役等の競業取引、利益相反取引の規制、及び報酬に関する法的諸問題について検討します。
第14回：会社経営に関する法律関係⑦	→取締役等の競業取引、利益相反取引の規制、及び報酬に関する法的諸問題について検討します。
第15回：会社経営に関する法律関係⑧	→取締役等の競業取引、利益相反取引の規制、及び報酬に関する法的諸問題について検討します。
<b>【事前および事後学習の指示】</b>	
限られた授業時間内において、「会社法A」のすべての内容を網羅的に詳説することは物理的に不可能です。そこで、以下の2点に振り分けることで授業の効率化を図ります。	
1. 授業で講述すべき内容	
2. 受講生の自学自修に委ねるべき内容	
本講義では、受講生が事前学習を行う際にテキスト等を読むだけで理解できる内容や、説明しなくてもよい内容については省略します。その代わりに、「会社法A」の基本的事項に焦点を当て、受講生が問題意識を持って具体的に考える授業を進めます。	
受講生には、「会社法A」の主要内容から選別した重要論点を中心に授業内容を理解していただくため、テキストや予習(復習)用レジュメ、復習資料(オンデマンド形式の録音ファイル)、参考文献などを活用し、授業で詳説しない内容や取り扱わない内容についても幅広く学習していただきたいと思っております。	
<b>【テキスト】</b>	
プリンシプル会社法 編著(高橋英治)著者(大川清植ほか) 978-4-335-35837-1 弘文堂	
ポケット六法 令和7年版 編集代表(佐伯仁志=大村敦志) 978-4-641-00924-0 有斐閣	
<b>【参考文献】</b>	
龍田 節=前田雅弘『会社法大要〔第3版〕』(有斐閣、2022年)	
<b>【コメント】</b>	
会社法Aの成績評価は、①授業への参加度や春学期理解力小テスト(配点:40点)、②レポート課題提出(配点:60点)を基に決定します。春学期理解力小テストは課題の形で実施され、成績評価の具体的な方法については、3回目の対面授業で詳しく説明します。	
<b>【留意事項】</b>	

講義名称	曜時
科学技術史 <通期>	水2

**【教員名称】**

本間 栄男

**【講義概要】**

西洋科学技術史の流れを概観する。その際、西洋科学技術の出発点としての古代ギリシャ、近代科学の考え方が生まれたルネサンス近代初頭、現代の科学の直接の起源である19世紀、及び現代科学の特徴を際立たせる20世紀前半の科学の流れに沿って考察する。

**【学習目標】**

世界の市民として必要な教養として科学の発展の大筋を理解し、現代文明の基盤を理解する素養を持つことが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：科学という言葉の歴史
- 第3回：古代(1)ピュタゴラス
- 第4回：古代(2)アリストテレス
- 第5回：古代(3)古代ギリシャの医術
- 第6回：古代(4)古代アレクサンドリアの科学技術
- 第7回：中世イスラム圏とヨーロッパの科学
- 第8回：近世(1)ルネサンスの三大発明(1)羅針盤と印刷
- 第9回：近世(2)ルネサンスの三大発明(2)火薬
- 第10回：近世(3)絵画芸術
- 第11回：近世(4)天文学の革命(1)コペルニクス
- 第12回：近世(5)天文学の革命(2)ティコとケプラー
- 第13回：17世紀(1)ガリレオ(1)機械学と運動学
- 第14回：17世紀(2)ガリレオ(2)望遠鏡と宗教裁判
- 第15回：17世紀(3)科学革命論
- 第16回：17世紀(4)ニュートン
- 第17回：18世紀(1)啓蒙思想と博物学
- 第18回：18世紀(2)江戸時代の日本の科学技術
- 第19回：19世紀(1)19世紀の医学
- 第20回：19世紀(2)医療技術
- 第21回：19世紀(3)ファラデー
- 第22回：19世紀(4)ダーウィン(1)博物学者ダーウィン
- 第23回：19世紀(5)ダーウィン(2)進化論
- 第24回：19世紀(6)ノーベルとノーベル賞
- 第25回：20世紀(1)アインシュタイン(1)特殊相対性理論
- 第26回：20世紀(2)アインシュタイン(2)一般相対性理論
- 第27回：20世紀(3)寺田寅彦
- 第28回：20世紀(4)マリー・キュリー
- 第29回：まとめ
- 第30回：テストと解説

**【事前および事後学習の指示】**

科学的な話題に敏感であるように、ネットニュースや新聞での科学記事に注目すること。

講義に使用したパワーポイント画像は講義後にオンラインで提示されるので、復習に利用すること。

**【テキスト】****【参考文献】**

全体を通じての参考図書は、橋本毅彦『図説科学史入門』(ちくま新書 2016)。各回にその回の話題についての参考図書を提示する。

**【コメント】**

可否判定は、複数回行われる小テストで決定される。状況に応じてテストの形態は変化するので確認すること。

**【留意事項】**

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
科学思想史 <春集>	月 4/木 3

## 【教員名称】

本間 栄男

## 【講義概要】

西欧近代を成功させ、今日の我々の文化にも重大な影響を与えているが、まだ十分に理解し、使用されているとはいえない「科学的な考え方」を歴史的事例を挙げて解説する。

## 【学習目標】

個々の科学に関する事実を暗記するのではなく、「科学的な考え方」を身につけることを目標とする。そのために、「科学的な考え方」とは何かを十分に理解し、それを応用して自ら問題を解くことができるようになることが目的である。

## 【講義計画】

- 第1回： イントロダクション
- 第2回： 科学と神話
- 第3回： 文字と思想
- 第4回： デカルトと方法
- 第5回： 仮説演繹法概説(1)歴史的概観
- 第6回： 仮説演繹法概説(2)実例
- 第7回： 原理(1)はじまり
- 第8回： 原理(2)原理の性質
- 第9回： 命題
- 第10回： 定義
- 第11回： 演繹推論
- 第12回： 数学の公理系
- 第13回： 懐疑(1)古代懐疑論
- 第14回： 懐疑(2)近代懐疑論
- 第15回： コペルニクス革命
- 第16回： 進化論革命
- 第17回： 仮説
- 第18回： 帰納推論
- 第19回： 観察
- 第20回： アナロジー(1)アナロジーの意味
- 第21回： アナロジー(2)アナロジーの応用
- 第22回： 組み合わせ
- 第23回： セレンディビティ
- 第24回： 実験
- 第25回： 検証
- 第26回： 仮説実験演繹法(1)概論
- 第27回： 仮説実験演繹法(2)具体例
- 第28回： 革命
- 第29回： 科学的な考え方と日常的な考え方
- 第30回： まとめ

## 【事前および事後学習の指示】

科学的なものの考え方に鋭敏になるために、TVの科学番組などを積極的に視聴する。講義で使用するスライド等は事前あるいは事後に掲示するので、予習復習に利用すること。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- 伊勢田哲治『科学哲学の源流をたどる』ミネルヴァ書房 2018年  
 金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社 2000年  
 内井惣七『科学哲学入門』世界思想社 1995年

## 【コメント】

複数回のテストの結果で成績を決めます。

## 【留意事項】

講義名称	曜日
格差社会論 <春>	火 1

## 【教員名称】

中西 啓喜

## 【講義概要】

日本社会は、今日では社会のさまざまな領域において不平等の拡大が報告されており、「格差社会」と呼ばれている。本講義では、社会階層の基礎的な視点を理解しつつ、社会経済的格差、男女間格差、世代間格差、教育格差、結婚格差の実態とその原因、社会的メカニズムを説明し、現代の日本社会における格差問題について理解を深め、その是正策について考えることを目的とする。

## 【学習目標】

- ①社会階層についての基本的な理論を修得する
- ②現代日本社会の格差の現状について理解する
- ③格差は正の社会的方策を考える視野を得る

## 【講義計画】

- 第1回： イントロダクション：授業の進め方や授業内容について
- 第2回： 就活における学歴社会は不平等なのか 1
- 第3回： 就活における学歴社会は不平等なのか 2
- 第4回： 就活における学歴社会は不平等なのか 3
- 第5回： 格差をどう考えるか：社会階層の見え方と階層論の基本的諸概念
- 第6回： 「女性」の社会階層をどう定義・測定するか
- 第7回： 社会階層の開放性の測定から移動
- 第8回： 家族形成の格差：結婚格差
- 第9回： 家族形成の格差：家事分担
- 第10回： 家族形成の格差：女性の就業継続
- 第11回： 家族形成の格差：子育ての不平等、シングルマザー
- 第12回： 貧困と社会的排除
- 第13回： 格差の是正を考える：公教育費
- 第14回： 格差の是正を考える：雇用をどう保障するのか
- 第15回： まとめ

## 【事前および事後学習の指示】

自分自身にとって関心があり、知りたいテーマについて考えておくこと。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね(2024)『大学生からみるライフコースの社会学』ミネルヴァ書房。

## 【コメント】

その他 30%：授業内での M-Port を通じたコメントシートへの回答

## 【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
 受講生には毎週課題を課すが、聴講の場合には提出不要です。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
学科特殊講義-宮崎アニメの世界Ⅰ 01<春集>	水3/水4

英語による

#### 【教員名称】

取屋 淳子

#### 【講義概要】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki's movies, including “My Neighbor Totoro,” “Princess Mononoke,” and “Spirited Away,” from various angles. In addition to Miyazaki's works, other Japanese animated movies will also be taken up. The history of Japanese animation will also be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.

#### 【学習目標】

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.

The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

○ Miyazaki's Works: “Nausica of the Valley of the Wind,” “My Neighbor Totoro,” “Princess Mononoke,” “Spirited Away,” etc...

○ Other Anime Productions: “Haku-jū den,” “Akira,” “GHOST IN THE SHELL” etc.

#### 【講義計画】

第1回: Introduction of the lectures

第2回: Introduction of the lectures

第3回: Starting point of Miyazaki Hayao①

第4回: Starting point of Miyazaki Hayao①

第5回: Starting point of Miyazaki Hayao②

第6回: Starting point of Miyazaki Hayao②

第7回: History of Japanese Anime①

第8回: History of Japanese Anime①

第9回: History of Japanese Anime②

第10回: History of Japanese Anime②

第11回: History of Japanese Anime③

第12回: History of Japanese Anime③

第13回: Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第14回: Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①

第15回: Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第16回: Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第17回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第18回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime①

第19回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第20回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第21回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第22回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime③

第23回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第24回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime④

第25回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤

第26回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤

第27回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥

第28回: Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥

第29回: Review

第30回: Review

#### 【事前および事後学習の指示】

詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。

#### 【テキスト】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

#### 【参考文献】

Hayao Miyazaki: Starting Point 1979~1996 (2014)

#### 【コメント】

Reaction paper and Term paper(in English).

#### 【留意事項】

授業は英語で行われます。コメント表(毎回の課題)、期末レポート、すべて英語で書いてもらいます。

社会人の方へ(聴講に際して)

基本、英語での講義となりますが、英語を学ぶのではなく、英語で宮崎アニメを考察していく講義となります。映像作品(英語字幕)を視聴する時間が多いです。

講義名称	曜日
環境問題概論[2] <春>	土5

遠隔授業(オンデマンド型)

#### 【教員名称】

巖 圭介

#### 【講義概要】

気候変動、リサイクル、化学物質・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、それをもとに論理的に思考してこれからの自分の行動を決めていかねばならない。この講義では、世界の市民としてこれからの時代に責任をもって生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらう。

なお、この講義は完全オンデマンド形式で行うが、毎週公開される講義動画を視聴しながら資料の空欄を埋めていく必要があり、その都度出題される小テストや小課題等を期限までに回答し、また不定期に課される課題も期限内に提出することが求められる。課題はできるだけ自分の生活を振り返る内容を考えている。質問や感想、リクエスト等には M-Port 上で随時回答する他、授業動画内でも取り上げていくことでできるだけ双方向性を確保していきます。

#### 【学習目標】

主要な環境問題(気候変動、エネルギー問題、大気汚染、ゴミ問題、人工化学物質汚染、食糧問題)について、起きている問題の内容とその原因を説明できるようになる。

#### 【講義計画】

第1回: イントロダクション: 持続不可能な地球

第2回: 気候変動1: 現状と原因

第3回: 気候変動2: 国際取り組み

第4回: 気候変動3: エネルギー問題

第5回: 大気汚染と酸性雨

第6回: ゴミ問題1: 基本の枠組みと現状

第7回: ゴミ問題2: 産業廃棄物

第8回: ゴミ問題3: リサイクル

第9回: 化学物質汚染1: 負の遺産

第10回: 化学物質汚染2: ダイオキシン

第11回: 水質汚染

第12回: 生態系の破壊

第13回: 食糧問題

第14回: 気候変動4: 私たちの生活と気候変動

第15回: まとめ: 地球の限界と持続可能性

#### 【事前および事後学習の指示】

動画視聴の退屈を軽減するため穴埋め資料(Word ファイル)を用意するので、授業前にダウンロードしておき空欄を埋めながら視聴してもらい、随時疑問に思うことなどノートを取り、授業後に復習すること。期末のテストでは全範囲にわたる出題をするので、資料を完成させ整理しておくことが大切である。日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれるとともに授業内容との関連などについて考え、必要に応じて質問や情報提供をしてほしい。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

環境省編 『令和5年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』(Web版)、東京商工会議所『ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 2023、遠山益 『人間環境学』裳華房 2001、安井至 『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー 1998、他、適宜紹介する。

#### 【コメント】

受講確認を兼ねた小テストや小課題を毎回 M-Port 機能を使って課す(提出期限は基本的に翌週の授業まで)。さらに期末には全範囲について理解度確認テストを行うので、毎回配布される資料の空欄をすべて埋めて整理しておくことを勧める。また気候変動とゴミ問題については簡単なまとめ課題を課す。

双方向性を確保するため、情報提供を歓迎する。内容によってボーナスポイントを付与する。

#### 【留意事項】

農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。

この講義では現状の問題を紹介することとまがるが、解決策などについては姉妹科目である「サステナビリティ論」を続けて受講することをお勧めします。

講義名称	曜日
観光英語 A <春>	火 1

【教員名称】

平田 和彦

【講義概要】

日本政府観光局(JNTO)によると、日本を訪れる外国人旅行者の数は年 1000 万人を超えている。このような社会情勢をひまえ、私たちは自国の文化・歴史などを習得し、それらを英語で紹介できるようにならなければならない。この授業では専門のテキストを使用し、これらに対しての造詣を深めていく。

【学習目標】

英語の学習を通し、日本の文化・歴史を国際社会にアピールできるようなることを目指す。

【講義計画】

- 第 1 回： オリエンテーション&Chapter 1 Japan's Top Three Castles(1)
- 第 2 回： Chapter 1 Japan's Top Three Castles(2)
- 第 3 回： Chapter 1 Japan's Top Three Castles(3)
- 第 4 回： Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(1)
- 第 5 回： Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(2)
- 第 6 回： Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(3)
- 第 7 回： Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(1)
- 第 8 回： Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(2)
- 第 9 回： Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(3)
- 第 10 回： Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(1)
- 第 11 回： Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(2)
- 第 12 回： Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(3)
- 第 13 回： Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(1)
- 第 14 回： Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(2)
- 第 15 回： Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(3)&まとめ

【事前および事後学習の指示】

必ず予習し、設問に答えておくこと。

【テキスト】

Touring Japan in English Toshiyuki Sakabe  
978-4-523-17788-3 NAN' UN-DO

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

【コメント】

「その他」……授業への意欲的な参加

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
質問等は授業の前後に伺います。

講義名称	曜日
観光ビジネスの理論と実践 I <春>	木 2

【教員名称】

福田 晴仁

【講義概要】

本講義では、まず観光とはどのような行為を指すのか、その定義を説明します。次に講義の前半では、観光ビジネスは第 3 次産業に分類されるサービス業の一形態であることを説明したうえで、第 3 次産業およびサービス業について講義します。そして講義の後半では、観光ビジネスの種類、特質について説明するとともに、代表的な観光ビジネスである旅行業についても取り上げます。なお、視聴覚教材についても講義中に随時使用する予定です。

【学習目標】

- ・観光の定義と特質を理解する。
- ・観光ビジネスは第 3 次産業に分類されるサービス業の一形態であることを理解する。
- ・旅行業の今後の課題を考えることができるようになる。

【講義計画】

- 第 1 回： オリエンテーション
- 第 2 回： 観光の定義
- 第 3 回： 観光略史
- 第 4 回： サービス業の一形態としての観光ビジネス 1—サービス業の定義
- 第 5 回： サービス業の一形態としての観光ビジネス 2—サービス業の性質
- 第 6 回： サービス業の一形態としての観光ビジネス 3—第 3 次産業の拡大(1)
- 第 7 回： サービス業の一形態としての観光ビジネス 4—第 3 次産業の拡大(2)
- 第 8 回： これまでの復習と中間試験
- 第 9 回： 観光ビジネスの種類
- 第 10 回： 観光ビジネスの性質(1)
- 第 11 回： 観光ビジネスの性質(2)
- 第 12 回： 旅行業(1)
- 第 13 回： 旅行業(2)
- 第 14 回： 旅行業(3)
- 第 15 回： 授業のまとめと期末試験

【事前および事後学習の指示】

(事前学習)講義中に指示した参考書、インターネット・新聞・雑誌等の観光分野に関する記事を熟読し、内容を理解した上で授業に臨むこと。受講生がこれを行なっていることを前提に授業を進めます。  
(事後学習)講義終了後は、試験に備えて講義で学んだ内容を復習すること。

【テキスト】

【参考文献】

北川宗忠 編著[2009]『現代の観光事業』ミネルヴァ書房。  
谷口知司 編著[2010]『観光ビジネス論』ミネルヴァ書房。  
木谷直俊[2013]『観光ビジネスの基礎』創成社。  
高橋一夫・柏木千春 編著[2016]『1 からの観光事業論』碩学舎。  
中村忠司・王静 編著[2019]『新・観光学入門』晃洋書房。  
その他講義中に随時指示します。

【コメント】

試験は中間試験 50 点、期末試験 50 点とします。なお、授業中は静粛にしてください。授業中に私語を止めない受講生は、発見次第成績を減点します(1 回につき 10 点)。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
教育社会学 A <春>	木 1

## 【教員名称】

山内 乾史

## 【講義概要】

本授業は、教育の世界で起きる諸問題を社会的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本授業では、欧米との比較(特にアメリカ合衆国とイギリス)を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。また、発展途上国の教育問題もアジア、特にインドを中心にしてお話しします。

## 【学習目標】

教育を社会的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、映像による資料提示が多くなると思います。

## 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション  
「教育社会学」とは何を論じる授業か  
第2回：豊かさを目指して—高度経済成長と受験競争の大衆化、過熱化—  
第3回：高学歴はなぜ尊重されたのか—教育投資論、スクリーニング仮説、統計的差別理論—  
第4回：エリート教育と才能教育  
第5回：日本の教育経費—授業料・奨学金政策—  
第6回：高学歴者過剰問題について考える  
第7回：大学と学生文化の変遷  
第8回：多様な学校制度—フリースクール、ホームスクーリング—  
第9回：道徳教育の社会学—授業実践に学ぶ  
第10回：校則をめぐる問題の社会学  
第11回：TVドラマにみるいじめ問題への学校の対応(その1)  
第12回：TVドラマにみるいじめ問題への学校の対応(その2)  
第13回：学校の安全管理(その1)—生活安全と交通安全について  
第14回：学校の安全管理(その2)—災害安全について田由奈  
第15回：まとめと『到達度・理解度』の確認

## 【事前および事後学習の指示】

事前学習：指定テキストの該当する章を熟読していただきます。  
事後学習：指定テキストの該当する章に課題が3~7題掲げられています。それを各自、指定テキストと参考書を使って自習しておくようにしてほしいと思います。

## 【テキスト】

「学校教育と社会」ノート—教育社会学への誘い—(第四版) 山内乾史・武寛子  
9784762032935 学文社 必ず用意すること

## 【参考文献】

原清治・山内乾史編(2019)『教育社会学(新しい教職教育講座 教職教育編③)』ミネルヴァ書房  
山内乾史(2020)『「大学教育と社会」ノート—高等教育論への誘い—』学文社

## 【コメント】

試験については、第15回授業時に行う『到達度・理解度』の確認をもって代えます。『到達度・理解度』の確認は教科書のみ持ち込み可(書き込み可)にする予定です。必ず用意してください。「その他」は授業終了時に課すミニッツ・ペーパーの提出回数と内容に応じて評価します。

## 【留意事項】

教材としてDVDを多用します。ほぼ毎回見ていただきます。視力に問題がある方は教室前方に、あるいはモニターが見えやすい位置にお座りください。

講義名称	曜日
教育心理学 01<春>	木 5

## 【教員名称】

小松 佐穂子

## 【講義概要】

教育心理学の主要テーマである幼児、児童および生徒の心身の発達と学習の過程について、はじめに、発達に関する教育心理学理論や研究成果を概観する。次に、学習に関する理論や研究成果を概観し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念について、学校教育との関連に基づき論じる。そのうえで、教師に求められる深い見識とそこから導き出される適切な教育的指導および支援の在り方とはどのようなものかを考察する。

## 【学習目標】

## 【テーマ】

幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程

## 【授業の到達目標】

- (1) 幼児・児童・生徒の心身の発達過程の様相と特徴について、発達概念・発達段階・発達過程等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、定型発達および障害に関する具体的な内容を理解している。
- (2) 幼児・児童・生徒の学習過程の様相と特徴について、学習概念・動機づけ・授業形態・学習指導・教育評価等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念を理解している。

## 【講義計画】

- 第1回：教育心理学の授業を始める前に(授業の概要・課題・到達目標)  
第2回：発達の基礎概念  
第3回：発達段階理論  
第4回：乳幼児期における心身の発達  
第5回：児童期・思春期における心身の発達  
第6回：青年期における心身の発達  
第7回：適応と障害の理解  
第8回：学習の基礎理論  
第9回：学習と記憶  
第10回：学習の動機づけと学習意欲  
第11回：授業形態と学習指導  
第12回：学級集団の理解  
第13回：教育評価の方法  
第14回：教室の内外での「主体的・対話的で深い学び」  
第15回：まとめ(幼児・児童・生徒の心身発達の過程およびその特性に応じた学習指導の在り方)

## 【事前および事後学習の指示】

・授業情報(授業課題、レポート課題など)は、M-Portを通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。

## 【テキスト】

テキストは使わないが、スライド(パワーポイント)、インターネット、DVD教材、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。

## 【参考文献】

- ・鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著)『やさしい教育心理学』(第5版) 有斐閣
- ・子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司(著)『教育心理学』(第3版) 有斐閣
- ・多鹿秀継(著)『教育心理学(第2版)―より充実した学びのために』サイエンス社
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』(2017年3月告示)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領』(2018年3月告示)

## 【コメント】

- ①授業ごとにその内容に関するコメントの提出を求め(M-Portを通じウェブ提出)、主体的・積極的な授業への参加の程度を評価する(20%)。
- ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。
- ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。
- ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。

## 【留意事項】

・この授業は、教職課程の必修科目の一つとして開講されている。教員養成に特化された専門的なテーマが扱われ到達目標も高く設定されているため、日常的な学習努力とその積み重ねを必要とする。安易な気持ちで履修登録を行わないよう留意すること。  
・課外活動として、スクールサポーター、学校ボランティアなどがある。教育現場でのさまざまな体験を通して、授業で修得した知識を実践的に確認することができるので、機会を見つけ積極的に参加してほしい。

講義名称	曜日
教養教育特別講義-家の変容と家族 <春>	木 2

【教員名称】

大野 啓

【講義概要】

現在の日本社会では家が表面化することは少ないが、婚姻や財産相続などの場面では、突如として家が問題となることもある。これまで、日本の家に関する議論は数多く行われてきた。しかし、現在の日本社会では従来の家概念では捉えられない現象も顕在化している。そこで、本講義では民俗学・歴史学・社会学などで家とはどのようなものとして捉えられてきたのかについて検討した上で、現在の家のあり方について再検討する。

【学習目標】

従来、日本の家がどのようなものとして捉えられてきたのかについて理解した上で、どのように家が変わってきたのかについて、①講義内容を踏まえて説明することが出来る(必須)、②家や家族がどのような社会的条件によって変容してきたのかについて根拠に基づき考え、説明することが出来る、③家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについて講義の内容を踏まえて説明することが出来る(必須)、④家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについて、自身の考えを根拠に基づき考え、それを説明することが出来る。

【講義計画】

- 第1回: ガイドランス - 現在の日本における家と家意識
- 第2回: 家とはどのような存在なのか 1-労働組織としてのオヤーコ
- 第3回: 家とはどのような存在なのか 2-家と家族との関係
- 第4回: 日本の家の特色 - 家産・家名・成員について
- 第5回: 日本の家の歴史的展開 1-家の成立と広がり
- 第6回: 日本の家の歴史的展開 2-近世の家と近代の家制度
- 第7回: 家制度の影響 1 - 民俗慣行における家の変容
- 第8回: 家制度の影響 2 - 家の家族化
- 第9回: 家の周縁を構成する人々
- 第10回: 家の変容を規定するもの - 家の地域性
- 第11回: 家意識のゆらぎと家の変容
- 第12回: 顕在化する家族と潜在化する家
- 第13回: 近代家族と家
- 第14回: 日本の社会構造の転換と家・家族
- 第15回: まとめ

【事前および事後学習の指示】

講義中に指示した文献にできるだけ目を通すこと。また、日常生活の中で自明視している家族のあり方とはどのようなものであるのかを意識すること

【テキスト】

【参考文献】

講義中に指示する

【コメント】

2回のレポート提出を求める。なお、レポートを書く際にWEBからのコピー&ペーストを行なった者、生成系 AI で作成されたレポートを受講生自身の考察や検討がなされないまま提出した者(及びその疑いが濃厚な者)は不正を行なったとみなし、当該レポートは0点とする。  
講義の後にリアクションペーパーを書いてもらい、それを評価に加える。

【留意事項】

講義名称	曜日
教養教育特別講義-日本で働く外国人 <春>	月 1

【教員名称】

小池 誠

【講義概要】

この講義では日本で働く外国人の問題を取り上げます。偏見と差別なく多様な人々の存在を受け入れる「多文化社会」は、まさに本学が目指す「世界の市民」の理念にふさわしい社会の在り方です。どのようにしたら「多文化社会」を実現できるか、ともに考えましょう。この問題は、みなさんが未来に向かって生きていくうえで避けては通れない重要な課題です。日本社会だけでなく、比較的材料として台湾の事例を紹介します。なお、授業の理解を深めるために必要に応じて資料動画を使います。

【学習目標】

- 講義を通して、以下の3つの目標を達成できるようにします。
- ① 日本で働く外国人について正しい知識をもつ。
  - ② 外国人労働者が直面するさまざまな問題を理解し、自分の言葉で説明できる。
  - ③ 講義で学んだことをまとめ、それにもとづいて自分の意見を述べるができる。

【講義計画】

- 第1回: 授業ガイダンス: 日本で働く外国人と多文化社会
- 第2回: 外国人労働者を必要とする日本社会
- 第3回: 日本で働く「日系人」: 受入れの経緯
- 第4回: 日本で働く「日系人」: 現状と問題点
- 第5回: 技能実習生: 制度の推移と実態
- 第6回: 技能実習生: 問題点と改善策
- 第7回: 外国人材受け入れの拡大: 「特定技能」
- 第8回: 留学生という名の労働者
- 第9回: 介護の現場で働く東南アジアの女性: 受入れの経緯
- 第10回: 介護の現場で働く東南アジアの女性: 現状と問題点
- 第11回: 日本で暮らすムスリム
- 第12回: 台湾で働くインドネシア人労働者
- 第13回: 大阪で暮らすパキスタン人
- 第14回: 東京と大阪の外国人コミュニティ
- 第15回: まとめ: 多文化社会の実現に向けて

【事前および事後学習の指示】

今回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください(事前学習)。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、外国人労働者に関する新聞記事やニュース報道に注目してください。

【テキスト】

【参考文献】

- 加藤剛編、2010、『もっと知ろう!!わたしたちの隣人——ニューカマー外国人と日本社会』世界思想社
- 田辺国昭・是川夕監修、2022、『国際労働移動ネットワークの中の日本』日本評論社

【コメント】

試験は授業内容に関する小テスト(3点満点)を計10回実施する(計30点)。レポートは中間レポート(10点)および最終レポート(30点)の計2回実施する。その他は、5回の課題(3点)と毎回の授業中に書く質問またはコメント(1点)によって授業への積極的な参加度を評価する(計30点)  
出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中に質問またはコメントを書いてください。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
教養教育特別講義-メディアと多様性 01<春>	金 2

## 【教員名称】

土屋 祐子

## 【講義概要】

グローバル化の進展により、様々な価値観の交わる多様性を背景とした社会が到来している。スマートフォンを常に手元に置くわれわれの日々の生活では、メディアに媒介されたコミュニケーションが常態化しており、多様性に基づくメディア・コミュニケーション環境を検討することが重要になっている。本講義では、メディアと社会の相互作用に着目するメディア論のアプローチに基づき、メディアと多様性について考察していく。講義内容と関連したドラマや動画の映像分析や、クリッカーの活用など、参加型の学習方法を取り入れて進める。

## 【学習目標】

- (1)メディア論によるアプローチとは何かを理解し、自分の言葉でまとめられる。
- (2)多様性をめぐるメディアの歴史的展開について理解し、説明できる。
- (3)多様性をめぐるメディア・コミュニケーションの理論について理解し、説明できる。
- (4)多様性のためのメディア・コミュニケーション環境について、自分なりの考えを述べられる。

## 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：多様性をめぐるメディア論的アプローチ
- 第2回：多様性のためのメディア論の理解(1)メディアはメッセージ
- 第3回：多様性のためのメディア論の理解(2)メディアの生成
- 第4回：メディアの多様性(1)放送の誕生と変容
- 第5回：メディアの多様性(2)インターネット・SNSの誕生
- 第6回：メディア論とメディアの多様性のまとめと確認テスト(1)
- 第7回：メディア・コミュニケーション理論と多様性(1)ステレオタイプ
- 第8回：メディア・コミュニケーション理論と多様性(2)オーディエンス研究とカルチュラル・スタディーズ
- 第9回：メディア・コミュニケーション理論と多様性(3)ケアのジャーナリズムと社会的包摂
- 第10回：メディア・コミュニケーション理論と多様性のまとめと確認テスト(2)
- 第11回：多様性のためのメディア実践(1)ジェンダーとエスニシティ
- 第12回：多様性のためのメディア実践(2)イギリスにおける教育の挑戦
- 第13回：多様性のためのメディア実践(3)ハワイに見る多文化社会とメディア環境
- 第14回：多様性のためのメディア実践(4)当事者メディア・ワークショップ
- 第15回：まとめ

## 【事前および事後学習の指示】

事前学習として日常のメディア接触から多様性に関する気づきや自分の考えをまとめておくこと。事後学習として作業課題に取り組み、身の回りのメディアや社会の出来事と結び付けて考えを振り下げること。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- 水越伸(2023)『メディアの生成—アメリカ・ラジオの動態史』筑摩書房  
 小川明子編(2018)『インクルーシブ・メディア—メディアの包摂と排除—』  
<https://inclusive-media.net/>  
 水嶋一憲・ケイン樹里安・妹尾麻美・山本泰三)『プラットフォーム資本主義を解読する：スマートフォンからみえてくる現代社会』ナカニシヤ出版  
 吉見俊哉(2012)『メディア文化論 改訂版』有斐閣  
 長谷川一・村田麻里子編(2015)『メディアリテラシー・トレーニング』三省堂  
 白水繁彦(2015)『ハワイにおけるアイデンティティ表象—多文化社会の語り・踊り・祭り』御茶の水書房

## 【コメント】

試験 26%(確認テスト 2回・各 13%)、期末レポート 50%、作業課題 24%で評価する。

## 【留意事項】

オンラインニュースの取材や編集、制作の経験を持つ教員が、ジャーナリズムやインターネットにおける多様性の課題や可能性について講義する。

講義名称	曜時
金融論 I 01<春>	木 3

## 【教員名称】

井田 大輔

## 【講義概要】

金融論 I では、金融の基礎について学びます。具体的に、貨幣や金利の役割について学んだ後に、金融機関の役割について考えます。これらの諸概念を理解することで、現実の金融問題への理解を促します。また、今後の金融の役割についても議論を展開します。

※この授業は BYOD を想定しています。基本的に、「毎回教室にノート PC を持参すること」を推奨する科目となっている点にご留意ください。

## 【学習目標】

金融現象を理解するための基礎的な観点に立ち、現実の金融の動きを自身で理解する力を獲得し、向上させることを目標とします。

## 【講義計画】

- 第1回：イントロダクション(講義内容の説明、成績評価などのガイダンス)
- 第2回：金融とは
- 第3回：貨幣の役割
- 第4回：金利の役割
- 第5回：金融取引にまつわる諸問題
- 第6回：金融機関の役割①：銀行
- 第7回：金融機関の役割②：証券、保険
- 第8回：金融市場
- 第9回：様々な金融商品
- 第10回：ポートフォリオ理論入門①：平均分散アプローチ
- 第11回：ポートフォリオ理論入門②：効率的フロンティア
- 第12回：デリバティブ入門
- 第13回：中央銀行の役割
- 第14回：国際金融入門
- 第15回：まとめと今後の展望について

## 【事前および事後学習の指示】

詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

## 【テキスト】

教科書は使用しません。資料を配布する予定です。

## 【参考文献】

- 内田浩史『金融』有斐閣  
 鎌田康一郎『金融論』新世社  
 小林照義『金融政策』中央経済社  
 福田慎一『金融論』有斐閣  
 家森信善『金融論』中央経済社

## 【コメント】

5回の小レポート(小テスト)50%と期末レポート 50%の計100%で成績を総合的に評価します。

## 【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
経営学 A 01<春>	月 1

## 【教員名称】

齋藤 巡友

## 【講義概要】

経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生まれ出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠なだけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。

## 【学習目標】

本講義の学習目標は以下の通りである。

1. 経営学がどのような学問であるかを理解する
2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。
3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

## 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
- 第2回：経営学とは
- 第3回：企業の定義とその特徴
- 第4回：株式会社について
- 第5回：経営戦略1：企業戦略と事業戦略
- 第6回：経営戦略2：環境・資源分析
- 第7回：経営戦略3：競争戦略(基本戦略)
- 第8回：経営戦略4：競争戦略(市場地位別の戦略)
- 第9回：経営戦略5：多角化戦略
- 第10回：経営組織1：組織の設計
- 第11回：経営組織2：組織の形態
- 第12回：経営組織3：組織文化
- 第13回：経営組織4：組織学習
- 第14回：経営組織5：モチベーションとリーダーシップ
- 第15回：試験およびまとめ

## 【事前および事後学習の指示】

事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること(該当箇所は講義時に指定する)。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探して見ること。

## 【テキスト】

ケースに学ぶ経営学〔第3版〕 東北大学経営学グループ  
978-4-641-18448-0 有斐閣

## 【参考文献】

適宜指示する。

## 【コメント】

- ①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を短答式・記述式を組み合わせ形式で出題する。成績評価における点数配分は70%
  - ②授業内容の理解度を確保するための小課題・小テストを授業期間中に複数回出題する。点数配分は30%
- ※なお、講義に対して積極的に参加(講義中に発言するなど)している学生には別途加点する。

## 【留意事項】

第1回の授業時に受講するうえで重要な情報(授業運営の方針、成績評価等)を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。

※第1回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めない可能性もある。

本講義は経営学 B01 の講義内容の前半部分に相当するものである。担当教員が異なるクラス(講義名称の末尾の数字が異なる)の「経営学 B」とは内容に連続性がない場合があるので、履修の際は十分に注意すること。

講義名称	曜日
経営学 A 03<春>	火 3

## 【教員名称】

三輪 卓己

## 【講義概要】

経営学は企業などに代表される組織のマネジメントについて考える学問である。市場において競合企業と戦い、利益を得るためのマネジメントだけでなく、組織活動を通じて社会に貢献し、そこで働く(関与する)人の幸福を追求するマネジメントを考えることが大きな特徴である。現代社会ではほとんどの人が何らかの組織活動に参加しており、そこにおいて生活の基盤を築いている人も多い。経営学はそれらすべての人たちに有益な学問であるし、これからの社会を考えるうえでも重要な学問だと言える。この講義では特に経営戦略とそのための組織づくりや組織変革に焦点を当てた議論を行う。

## 【学習目標】

1. 経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。
2. 具体的な企業の活動を経営学の用語や理論を使って説明できる。
3. 経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。

## 【講義計画】

- 第1回：企業組織とマネジメント  
企業組織の活動の概要を学んだうえで、どのような経営資源が必要になるのか、またその資源を活かすためにどのようなマネジメントが必要になるのかを解説する。
- 第2回：経営戦略の内容とその意義  
経営戦略の概略を学んだうえで、戦略に関わる二つの考え方(ポジショニングと資源ベースビュー)を比較し、それぞれの意義を考察する。
- 第3回：企業戦略  
全社的な経営戦略について学ぶ。企業がどのような事業領域(ドメイン)を定め、市場や社会と関わるのかを主なテーマとする。
- 第4回：事業(競争戦略)戦略  
企業が取り組む各事業において、競合他社とどう戦うかについて、コストリーダーシップ、差別化、集中などの戦略類型をあげながら解説する。
- 第5回：経営戦略のケーススタディ  
実際の経営戦略の企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
- 第6回：組織構造  
経営目標や経営戦略を実現するための組織づくりについて、組織デザインの基本的考え方や、職能別組織や事業部制等の代表的な組織の形を見ることを通じて学ぶ。
- 第7回：作業組織  
具体的に業務を執行するための作業組織について、その基本的な考え方と、日本独特と言われている組織特性について学ぶ。
- 第8回：職務設計  
組織の中で各個人が担当する職務の設計を通して、生産性やモチベーションを向上させるための理論について解説する。
- 第9回：企業活動の国際化  
企業活動が国際的になるプロセスや、国際化した場合に現れる企業の課題や日本企業の問題点について解説する。
- 第10回：グローバル経営のケーススタディ  
実際のグローバルの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
- 第11回：新製品開発とイノベーション  
企業の持続的成長のために必要な新製品開発やイノベーションについて、各業界の特徴やそれを支えるマネジメントについて学ぶ。
- 第12回：経営理念と組織文化  
経営理念、ならびに企業で働く人たちに共有された思考様式(文化)にはどのようなものがあり、どんな意義があるのかを学ぶ。
- 第13回：組織学習と知識創造  
個人ではなく組織で学ぶということ、また組織的に新しい知識を創り出すことについて、そのプロセスや経営上の意義を考察する。
- 第14回：イノベーションのケーススタディ  
実際のイノベーションの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
- 第15回：まとめ  
全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

## 【事前および事後学習の指示】

- 第1回～第5回  
(事前学習)テキスト第1章、第2章、第4章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第6回～第10回  
(事前学習)テキスト第5章～第7章、第14章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第11回～第15回  
(事前学習)講義の中で示す資料を見て疑問点等をまとめておくこと  
(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること

## 【テキスト】

経験から学ぶ経営学入門 第2版 上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩天・森田雅也・竹林明 978-4641184435 有斐閣ブックス

## 【参考文献】

## 【コメント】

最終レポートとケーススタディでの発表を中心に評価する。それに授業中での発言や質問、ならびに授業後の質問メール等による加点を行う。

## 【留意事項】

企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
経営管理論[2] <春>	月 1

#### 【教員名称】

陳 燕双

#### 【講義概要】

企業等の組織の管理運営には、戦略目標と行動計画の策定、適切な組織構造の構築、経営資源の配分、役割の割り当て、情報の流れの設計、業績評価、報酬制度の設計、人材育成など、多岐にわたる活動が含まれる。これらの活動を効果的に統合し、調整することが経営管理(マネジメント)である。そして、経営管理論とは、これらの多様な組織活動のあり方を体系的に研究する学問である。

本講義の中心的なテーマは、現代の社会とビジネスに求められ、実際に登場している「新しい経営管理の考え方(経営観)」と、従来からの「既存の一般的な経営管理の考え方(既存の経営観)」を、比較しながら考察することである。例えば、企業の目的や存在意義を、売上高増加や利益増加の無限追求に置くのか、それとも「ありたい社会」や「望ましい働き方」を実現するための方策を追求することに置くのか。従業員に対して、自己決定を尊重した内発的動機付けを重視するのか、それとも外発的な手法に依存するのか。リーダーは、部下を管理し目標達成を促す管理主義型リーダーシップをとるのか、それとも、部下の自主性を尊重し信頼関係を育み、成長を支援する支援型リーダーシップを発揮するのか。経営管理には多様な考え方(経営観)があり、その選択に応じて経営管理の実践方法も大きく異なる。

本講義では既存の経営観と比較しながら、組織構造と管理者の役割、管理者の人間観、従業員のモチベーションやエンゲージメント、企業経営の目的、ステークホルダー主義型経営、経営理念といったトピックを中心に「新しい経営観」を深掘りする。本講義の目的は、これらのテーマを通じて、経営管理における多様な視点を批判的かつ包括的に理解し、現代社会とビジネスにおける望ましい経営のあり方を主体的に考える力を養うことにある。

#### 【学習目標】

この授業の到達目標は、以下の2点になります。

1. 講義で取り上げる経営管理の諸トピックに関する知識を理解・習得すること。
2. 現在のビジネス環境における様々な経営課題を考える習慣を身につけ、学生諸君がマネジメントを行う立場になったときに、自分が望ましいと思える経営管理とは何か、何が正しいのかということ自ら考える力を身につけること。

#### 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション  
この授業の内容、達成目標、評価方法、受講するうえでの注意事項を説明する経営管理論とは？
- 第2回：経営管理の誕生と発展：科学的管理法と人間関係論  
経営管理(management)を科学的に研究し、経営学の中核学問として確立される歴史的に重要な研究を学び、経営管理の発展を理解する。
- 第3回：組織構造と組織観(1)  
垂直分業から見る階層制(ヒエラルキー)と官僚制組織
- 第4回：組織構造と組織観(2)  
①ピラミッドの頂点にいる管理者の役割(諸先行研究)  
②縦の分業における伝統的な考え方(「計画」(考える)と「実行」(分業)の分離)は、現実の企業経営実践においてどのような問題・障害が生じるのかを理解する  
③組織構造は階層制でも、異なる組織規範を通して、組織プロセスは全く違うことを理解する
- 第5回：管理者の人間観とマネジメントスタイル(1)  
X理論・Y理論
- 第6回：管理者の人間観とマネジメントスタイル(2)  
事例から見るマネジメントスタイルの転換
- 第7回：企業経営の目的：  
経済的価値と社会的価値、株主第一主義とステークホルダー主義(ゼロサム型経営&プラスサム型経営)、近年の議論と動向を知る
- 第8回：ステークホルダー主義型経営(1)  
ステークホルダー型経営とは何か、なぜ、プラスサム型の経営がビジネスとして成り立つのか。(what, whyを考える)
- 第9回：ステークホルダー主義型経営(2)事例(howを考える)
- 第10回：従業員エンゲージメントの経営管理(1)：  
調査から見る日本企業の従業員エンゲージメントの実態；エンゲージメントとモチベーションの違い、本講義での扱い
- 第11回：従業員エンゲージメントの経営管理(2)  
モチベーションの理論：自己決定理論；マズローの欲求5段階説；2要因論(動機付け&衛生理論)
- 第12回：従業員エンゲージメントの経営管理(3)：社員の士気を高める経営慣行の3要素  
『熱狂する社員(The Enthusiastic Employee)：企業競争力を決定するモチベーションの3要素』を知る
- 第13回：経営理念(1)：経営理念の構成要素、経営理念と経営慣行の整合性
- 第14回：経営理念(2)：現場のモチベーションと創造性を促す人材重視の経営理念を考える
- 第15回：まとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

講義資料は穴埋め形式で配布されます。授業に出席し受講することは大事です。講義中はしっかり講義ノートを作りましょう。講義後に講義資料&ノートを復習し、ミニレポート課題に取り組んでください。

また、毎週の講義で習ったことが、自分の身の回りの現象、自身の経験とどのように繋がっているのかを常に意識しながら勉強を進めると、学習は楽しくなります。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

- D. シロタ, L. ミスキンド, M. メルツァー『熱狂する社員(The Enthusiastic Employee) - 企業競争力を決定するモチベーションの3要素-』(英治出版, 2006)  
エドワード・デシ『人を伸ばす力：内発と自律のすすめ』(新曜社, 1999)  
参考図書に興味・関心を持つ学生は、各自図書館へ足を運び、学習してください。授業

中でも随時参考文献を紹介しします。

#### 【コメント】

小テスト：学期の中間と期末にそれまでに学修した内容を網羅的に問う講義中小テストを行います。小テストは実施2週間前に授業中&M-Portでアナウンスします。  
ミニレポート：資料(映像や文献)を利用し、講義内容を踏まえて資料の内容を考察するミニレポート(4回程度、300字~500字程度/回)を提出していただきます。

加点制度：講義中で紹介した文献を読み、自主的に感想文(500字以上、M-Port提出)を提出される場合、5点の加点を行います。ただし、加点の上限は10点です。

#### 【留意事項】

自動車企業での実務経験のある教員による授業

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
経営史 A <春>	月 2

## 【教員名称】

小島 正稔

## 【講義概要】

経営史は、企業の経営の仕方がどのように発展し変わってきたかを扱っています。その経営の仕方の視点は、個別企業を分析する視点、企業家的(企業家活動的)視点、企業のスタートアップ(誕生)・事業の創造、産業の形成などの視点があり、地域を日本やアメリカに限定するもの、地域間比較するなどさまざまです。この講義では、多様な視点から、現在の企業と企業社会が作られてきた過程を史的に考察することで、現在の企業社会の仕組みを理解することを目的にします。

講義は個別企業のケースとそれを題材にした学習テーマから構成されます。企業の経営や時代を理解するため、関連した映像資料などによって、過去の経営状況や経営環境を理解した上で、講義では考えながら企業の経営について学びます。

## 【学習目標】

1. 企業の経営上の課題を、時代背景とともに説明できる。
2. 企業家活動の源泉について、具体的な企業家を例に説明できる。
3. ビジネスシステムの発展について具体的な事例によって説明できる。
4. 企業文化、経営理念を具体的な事例によって説明できる。
5. 産業の成立と法規制の関係について、具体的な事例によって簡潔に説明できる。

## 【講義計画】

- 第1回：講義のガイダンス  
講義の内容、課題への取り組み方を含めた講義への参加の仕方について説明します。
- 第2回：小林一三と都市型ビジネスの成立(小林一三)
- 第3回：都市型事業の展開と経営の多角化(阪急電鉄)  
①範囲の経済と成長の経済、②生活の洋風化
- 第4回：戦後の消費社会と市場形成  
①市場と消費者の変化、②経済成長と消費革命
- 第5回：大衆消費社会の出現と家電ブーム  
①大型化・高級化の時代、②余暇時代、③個性化・多様化の時代  
④消費と市場変化、⑤商品開発の連鎖、⑥余暇時代の市場変化
- 第6回：衆消費社会と松下幸之助の経営理念  
①3つの家電メーカー、②松下幸之助の経営哲学
- 第7回：松下電器産業(創業から家電ブームまで) 松下電器の経営発展
- 第8回：ナショナルショップ流通系列化と系列小売店の機能  
①連盟店制度の創設、②正価販売、③熱海会議の位置づけと役割、④ナショナル共栄会、⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
- 第9回：松下電器産業の組織変革(組織の革新と再生)  
①事業部制の採用と経営者育成、②組織論の適応
- 第10回：革新的企業家 一町工場からの事業展開(ソニー)  
①井深大の経営哲学、②革新的企業家活動の主体的条件
- 第11回：革新的企業家 一町工場からの事業展開(ソニー)(2)盛田昭夫と経営発展
- 第12回：ソニーの経営理念から経営理念の本質を学ぶ  
①企業理念とは、②なぜビジョンが必要なのか、③創業期のビジョン、④転換期のビジョン  
⑤東京通信工業株式会社設立趣旨書を精読する
- 第13回：ナショナルショップ流通系列化と系列小売店の機能(3)  
⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
- 第14回：革新的企業家としての本田宗一郎 ②本田の商品開発
- 第15回：講義の理解度の確認とまとめ(経営史から学んだこと)

## 【事前および事後学習の指示】

事前学習 レジューメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回=30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回=30時間を必要とする。

## 【テキスト】

経営史講義のレジューメ 小島正稔

## 【参考文献】

- 1 からの経営史 宮本 又郎(編集)、岡部 桂史(編集)、平野 恭平(編集)中央経済社  
ディッキー『フランチャイズン-米国における発展過程-』河野、小島記、まほろば書房 1992年。  
川辺信雄『新版 セブンイレブンの経営史』有斐閣、2003年  
宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年  
宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014年

## 【コメント】

試験はすべて講義の内容的な区切りの段階で行う。仮にオンラインのテスト機能を使用する場合でも、試験はすべて対面で実施する(講義室以外の受験は原則として認めない)。成績は試験の得点と課題点(課題点は追加)によって決める。

試験の回数は、進行状況によりりますが、3~6回行います。(回数はあくまで進行状況によるので決まっています)

課題はオンラインで課題ビデオを見て応えるものを含めます。

成績は上記を基本にしますが、講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加することもあります。

毎回レジューメを配布します。テキストは使用しません。試験を複数回、受けたいものは採点の対象としない(X評価)

## 【留意事項】

講義名称	曜日
経済学 A 01<春>	月 3

## 【教員名称】

木村 佳弘

## 【講義概要】

この講義は、ミクロ経済学の基本を学ぶ入門的な講義です。経済学的なものの考え方は、社会に出る前から、あらゆる局面で役立ちます。

## 【学習目標】

この講義に積極的に参加することを通じて

- ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
- ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
- ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

## 【講義計画】

- 第1回：経済学を学ぶ前に  
(ミクロ経済学とマクロ経済学)
- 第2回：ミクロ経済学の考え方
- 第3回：個人の選択を考える
- 第4回：需要曲線と供給曲線
- 第5回：市場均衡と効率性
- 第6回：完全競争市場への政府介入と死荷重の発生 ① 価格規制
- 第7回：完全競争市場への政府介入と死荷重の発生 ② 参入規制
- 第8回：市場の失敗と政府の役割
- 第9回：独占
- 第10回：外部性
- 第11回：公共財
- 第12回：情報の非対称
- 第13回：取引費用
- 第14回：ゲーム理論と制度設計
- 第15回：試験とまとめ

## 【事前および事後学習の指示】

事前：M-Port および teams にアップロードされる資料から予習をしておくとうまいでしょう

事後：当日に出題された理解確認問題を正確に理解しておいて下さい

数学を極力使わずに講義をしますが、最低限は出てきてしまいます。利用する数学は、主に代数、一次関数(中学レベル)のみですが、一部で微分方程式(高校1年生程度)があります。

数学にアレルギーがある方には残念ながらお勧めできません。

この講義は PC スキル(google form への入力、動画閲覧環境、teams への加入・資料閲覧)を前提とします。

PC が苦手な方、PC 環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。

## 【テキスト】

ミクロ経済学の第一歩 安藤 至大  
978-4641150058 有斐閣

## 【参考文献】

## 【コメント】

- <制度上>  
その他 100%  
<実務運用上>  
講義時試験 30%  
講義内課題 65%  
講義への積極的参加等 5%

学習目標の①、②、③を正確に理解できているかに関し、理解確認課題を課します。具体的には、講義時試験(30%)、講義時課題(講義内小試験+毎回の講義内課題 65%)、講義への積極的参加(5%)の三つで評価します。

講義時試験は最終講義時に実施するもので、講義時試験内容は、①に関しては計算問題の形式で出題し、②、③に関しては穴埋め式および論述式問題を出題します。論述式問題は論理構成が理解できているか、論理一貫性は確保されているか、日本語の妥当性等を問います。

講義内課題は、毎回の講義課題が理解できているかを確認するものであり、主に①、②について短問で確認しますが、③について論述式で問うこともあります。

講義への積極的な参加等(5点)は、講義に対し、講義受講者の理解を促進するような質問があった場合などについて加点を行うものです。具体的な基準例は第1回~第3回講義中にお示しします。

## 【留意事項】

講義名称	曜日
経済学 A 02<春>	火 4

【教員名称】

田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではミクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】

- この講義に積極的に参加することを通じて
- ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
  - ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
  - ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】

- 第1回： ガイダンス  
ミクロ経済学とはどのような学問であるのか。  
成績評価について。  
レジュメやテキストについての説明。  
講義を受けるうえでの注意事項。
- 第2回： ミクロ経済学の学びについて(イントロダクション)
- 第3回： 消費者行動①(予算線と最適消費)
- 第4回： 消費者行動②(需要曲線の考え方)
- 第5回： 消費者行動③(需要曲線の変化)
- 第6回： 生産者行動①(生産関数について)
- 第7回： 生産者行動②(供給曲線の考え方)
- 第8回： 生産者行動③(供給曲線の変化)
- 第9回： 市場メカニズム(市場均衡とその変化)
- 第10回： 課税と超過負担①(個別消費税)
- 第11回： 課税と超過負担②(輸入関税)
- 第12回： 課税と超過負担③(課税の効率性と公平性)
- 第13回： ゲーム理論①(ナッシュ均衡)
- 第14回： ゲーム理論②(チキンゲームや独裁者ゲーム)
- 第15回： ゲーム理論③(マッチング理論やケーキ分け問題)

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。  
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】

ミクロ経済学の力 神取道宏  
9784535557567 日本評論社

【参考文献】

西村和雄著『ミクロ経済学 第2版』岩波書店、2001年(ISBN4000266942)

【コメント】

【成績評価について】

M-Port による授業内の課題提出が 30%、学期末に出されるレポート課題が 70%。  
レポートは設問を 5 問出題したうえで、全問正解を S とし、それ以降、1 問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。

【留意事項】

予習より復習を中心に勉強して下さい。  
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜日
経済学 B 02<春>	金 2

【教員名称】

田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではマクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】

- この講義に積極的に参加することを通じて
- ①マクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
  - ②マクロ経済学の基礎理論を使い、一国経済の現状を理解する能力の基礎を得ることができる。
  - ③国際経済の現実的諸関係について理解する能力を得ることができる。
  - ④マクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】

- 第1回： ガイダンス  
マクロ経済学とはどのような学問であるのか。  
成績評価について。  
レジュメやテキストについての説明。  
講義を受けるうえでの注意事項。
- 第2回： マクロ経済学の学びについて(イントロダクション)
- 第3回： 国民所得の決定①(ケインズ型消費関数)
- 第4回： 国民所得の決定②(完全雇用について)
- 第5回： 国民所得の決定③(乗数効果について)
- 第6回： 投資と経済(IS 曲線の導出)
- 第7回： 金融の仕組み(金融リテラシー)
- 第8回： 金融と経済(LM 曲線の導出)
- 第9回： 労働市場について(物価の決定)
- 第10回： 失業について(失業発生メカニズム)
- 第11回： インフレについて(インフレ発生メカニズム)
- 第12回： 国際経済(為替レートの決定)
- 第13回： 固定相場制(政策の効果を踏まえて)
- 第14回： 変動相場制(政策の有効性を踏まえて)
- 第15回： グローバル化と経済(キャピタルフライト)

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。特に、第 10 回から 12 回までは配布資料を事前に熟読しておいてください。  
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】

入門マクロ経済学第 6 版 中谷巖、下井直毅、塚田裕昭  
日本評論社

【参考文献】

【コメント】

【成績評価について】

M-Port による授業内の課題提出が 30%、学期末に出されるレポート課題が 70%。  
レポートは設問を 5 問出題したうえで、全問正解を S とし、それ以降、1 問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。

【留意事項】

予習より復習を中心に勉強して下さい。  
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜日
経済学史 I [2] <春>	木 4

【教員名称】

北田 了介

【講義概要】

授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。  
本講義は、17 世紀以降の経済学説(重商主義、古典派経済学、マルクスの経済学、近代経済学)とその時代背景ををたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。

【学習目標】

経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる形の形式から成立しているかをさぐっていく。

【講義計画】

- 第 1 回: イントロダクション  
経済学および経済学史を学ぶことの意義
- 第 2 回: 重商主義(1)  
アジア貿易とヨーロッパの「重商主義」
- 第 3 回: 重商主義(2)  
重商主義の政策論争
- 第 4 回: ジョン・ロックの経済思想(1)  
17 世紀のイングランドと二つの革命
- 第 5 回: ジョン・ロックの経済思想(2)  
社会の構成と私的所有権
- 第 6 回: 17 世紀イングランドの利率引き下げ論争
- 第 7 回: ヒュームの経済思想(1)  
経済発展論とインダストリ
- 第 8 回: ヒュームの経済思想(2)  
貨幣・貿易論
- 第 9 回: スチュアートの経済思想(1)  
人口論と「近代社会」
- 第 10 回: スチュアートの経済思想(2)  
貨幣・価格論
- 第 11 回: ケネーの経済思想(1)  
17-18 世紀のフランスとフィジオクラシー(重農主義)の原理
- 第 12 回: ケネーの経済思想(2)  
「経済表」で示される流通過程と剰余生産
- 第 13 回: 重商主義・重農主義からアダム・スミスへ  
限界とその後の影響
- 第 14 回: アダム・スミス思想の概略的説明  
道徳哲学から経済学へ
- 第 15 回: 春学期のまとめ

【事前および事後学習の指示】

講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習(授業ごとに 2 時間)では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習(授業ごとに 2 時間)では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。

【テキスト】

教養としての経済思想 北田了介(編著)  
978-4-86065-119-0 萌書房

【参考文献】

講義時間内で随時紹介する。

【コメント】

春学期は定期試験での評価は行いません。授業ごとに提出してもらうレポートの積算によって評価を行います(第 1 回目 2 点、それ以降の 14 回は各 7 点満点で採点)。

【留意事項】

講義名称	曜日
経済学特講-英語で学ぶ日本・アジア経済 <春>	火 1

英語による

【教員名称】

江川 暁夫

【講義概要】

This course is designed to introduce you to the basic understanding on what economic topics are discussed in Japan, and what economic theories and data are useful for these discussions. The course structure is, (1) the current economic situation in Japan, (2) structural problems in the Japanese economy, and (3) Japan's strategy towards Asian countries and their interrelation. Students' level of proficiency in English does not matter very much in attending the class sessions.

【学習目標】

- Throughout the lectures in this course, students will enable to:
- (1) Have basic knowledge in economic affairs in Japan and Asia which are well-known and referred often in the current discussion of the Japanese economy.
  - (2) Know analytical tools (both economic and non-economic) which are, and should be, used in the discussions.
  - (3) Participate in debates or discussions on current economic affairs, regardless of their major.

【講義計画】

- 第 1 回: Introduction of the course: Overview of the economic affairs in Japan and Asia.
- 第 2 回: Importance of measuring and comparing economic situations with data.
- 第 3 回: Economic problems for Japan: Macroeconomic.
- 第 4 回: Economic problems for Japan: Microeconomic (=structural).
- 第 5 回: Causes of long-lasting low growth in Japan.
- 第 6 回: Is deflation (low inflation) good for the (Japanese) economy?
- 第 7 回: Japan's fiscal problems (1): overview of fiscal deficit and debt outstanding.
- 第 8 回: Japan's fiscal problems (2): hikes of consumption tax and pension premium for fiscal austerity.
- 第 9 回: Japan's regulatory reforms (1): Japan's international competitiveness and structural reforms for ease of doing business.
- 第 10 回: Japan's regulatory reforms (2): Labour market reforms
- 第 11 回: South-East Asia as the centre of economic growth for the world.
- 第 12 回: Connectivity in the ASEAN: Process of establishing the Asia-Pacific huge economic region.
- 第 13 回: US-China economic conflicts and its consequences on the Asian economy: change in the supply-chain structure.
- 第 14 回: ASEAN's efforts for realizing 4th Industrial Revolution.
- 第 15 回: Other important topics

【事前および事後学習の指示】

Preparation: Basic comprehension in micro- and macroeconomics will definitely give you an advantage to understand the topics more easily. In addition, reading relevant newspaper articles to each topic is recommended.  
Review: Handouts are provided in each class session. The students are advised to check the meaning of important terms and theories as all of them may not be explained enough only within the class session.

【テキスト】

【参考文献】

Indicated in each class session.

【コメント】

Report「レポート」= 40% for after-class assignments (max 8 times), 20% for the fill-in-the-blank type questions (at the end of the term), and 20% for a short essay (approx. 500 words) in English.  
Others「その他」= 20%, based on your active participation in every class sessions. (Attention) No online class sessions are provided even in the first and second weeks. You are required to take all lectures in the classroom from the first week.

【留意事項】

The lecturer formerly worked in the central government for research on the Asian economy and ODA  
The lecturer formerly joined diplomatic mission to an ASEAN country.

社会人の方へ(聴講に際して)  
授業時間内に、QR コードを読み込んで解答する設問が出題されるので、スマートフォン等を毎回持参してください。

講義名称	曜日
経済学特講-行動公共政策入門 <春>	木 4

【教員名称】

米田 紘康

【講義概要】

この講義では行動経済学や認知科学などがどのように政策に活用されているのかを学習します。

人間は常に些細なことから重要なことまで意思決定(判断)の連続に晒(さら)されています。

しかも私たちはコンピューターのように賢くもなかつた意志が弱いので、いつも正しい意思決定をしているとは限りません。

だからと言ってずっと悩み続けることはありませんし、いつも間違っているわけではありません。

行動・意思決定にはクセやパターンがあるということです。このクセ・パターンを研究する分野が行動経済学です。

本講義では、人間のクセや行動パターンを逆に利用して、行動を変容させて仕事、健康、公共政策に活かした事例や方法を学びます。

【学習目標】

主目標：受講生が、ミクロ経済学や行動経済学を中心とする基本的な意思決定について理解する。

副目標：受講生が行動経済学や認知科学の知識を生かして、新たな問題や政策を考えることができる。

受講生は以下の3能力を身につけることができます。

- ・複雑に絡みあった経済・社会現象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力(理解力)
- ・客観的な分析を基礎にして経済・社会現象を論理的に考察できる能力(展開力)
- ・自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力(発信力)

【講義計画】

- 第1回：はじめに
- 第2回：公共政策に行動経済学を導入する目的
- 第3回：行動経済学のための経済学
- 第4回：行動経済学の基礎知識(1)
- 第5回：行動経済学の基礎知識(2)
- 第6回：行動経済学の基礎知識(3)
- 第7回：ナッジとは
- 第8回：日常に溶け込む行動経済学
- 第9回：仕事に溶け込む行動経済学
- 第10回：研究事例：働き方
- 第11回：研究事例：仕事
- 第12回：研究事例：医療・健康
- 第13回：研究事例：日本での公共政策活用
- 第14回：研究事例：海外での公共政策活用
- 第15回：これまでのポイントのまとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習として 30 時間(2h x 15 回)、事後学習として 30 時間(2h x 15 回)を求めます。

具体的には授業後に次回のテーマを発表しますので、各自予習してください。また授業終了後には、講義のポイントを復習するようにしてください。

【テキスト】

授業内でレジュメを配布予定

【参考文献】

大竹文雄、「行動経済学の使い方」、岩波書店  
 経済協力開発機構(著、編集)、「世界の行動インサイト——公共ナッジが導く政策実践」、明石書店

【コメント】

レポート 60%とは：事前に発表した課題についてレポートを提出してもらいます。その他 40%とは：講義中にアンケートやリアクションペーパーを求めることがあります。

【留意事項】

履修条件はありませんが、以下のキーワードを含む講義を履修していることより理解しやすいです。

ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学、行動経済学

講義名称	曜日
経済学原論 01<春集>	火 2/金 1

【教員名称】

李 晨

【講義概要】

世界的な経済・金融危機が長期化するに伴い、資本主義によって生じる問題が、現代社会で改めて認識されつつある。その一例として「世界規模での格差の拡大」、「ブラック労働」「長時間労働」「なぜ賃金が上がらないのか」という問題などが挙げられる。経済だけでなく人々の意識さえも将来に希望を抱くことが困難な状況に陥っている。それらの課題を解決するには、まず資本とは何か、資本主義とは何か、資本主義に伴う危機とは何か等を包括的に考え、資本主義の運動法則を解明するマルクス経済学を理解しなければならぬ。

本講義は、マルクス経済学の基礎概念と分析方法を理解し、その分析方法を用いて、現実社会をより正確に読み取る力を培うことを目的とする。これらを通じて、現在の資本主義社会における各課題の背景となる資本主義社会の本質、資本主義社会の根本的な矛盾をはっきり見分けられようになることに主眼を置く。

具体的には、前半の部分にマルクス経済学における基本概念を説明する。中間部分はマルクス経済学の基本分析方法を理解する。それらを通じて受講者は、資本主義の本質・資本主義社会の根本的な矛盾を正確に把握することができるはずである。講義の後半では、マルクス経済学の方法を用いて現実社会を実際に分析する。世界的に拡大する格差、AI と資本主義、資本主義をベースとする日本経済、さらにマルクス経済学を基礎とした社会主義国家である中国の発展経路を考察する。それにより、資本主義社会と社会主義社会の根本的な違いを理解する。

【学習目標】

- ・マルクス経済学の基本概念について、古典派経済学と近代経済学との違いを踏まえて、説明することができるようになる。
- ・資本主義社会の本質、基本矛盾、それと社会主義の違いなどについて、説明することができるようになる。
- ・マルクス経済学の研究対象、分析方法を説明することができるようになる。
- ・マルクス経済学の方法論を用いて、現代資本主義社会における諸問題を解決するにあたってのセカンド・オピニオンを持ち、自身の意見を展開することができるようになる。

【講義計画】

- 第1回：なぜ今マルクス経済学か？マルクス経済学の研究対象とは？
- 第2回：経済学の発展系譜 ①古典派経済学
- 第3回：経済学の発展系譜 ②古典派経済学からマルクス経済学へ(比較)
- 第4回：経済学の発展系譜 ③マルクス経済学
- 第5回：経済学の発展系譜 ④マルクス経済学から近代経済学へ(比較)
- 第6回：経済学の発展系譜 ⑤近代経済学
- 第7回：経済学の発展系譜 まとめ
- 第8回：マルクス経済学基礎概念 ①商品とは何か
- 第9回：マルクス経済学基礎概念 ②貨幣とは何か
- 第10回：マルクス経済学基礎概念 ③資本とは何か
- 第11回：マルクス経済学基礎概念 ④剰余価値とは何か？
- 第12回：資本主義経済の一般的運動法則——資本蓄積過程
- 第13回：資本の流通過程：資本の諸変態とそれらの循環
- 第14回：資本の流通過程：社会的資本の再生産①単純再生産
- 第15回：資本の流通過程：社会的資本の再生産②拡大再生産
- 第16回：資本と剰余価値の現れ方(資本主義社会の国民所得と階級構造)
- 第17回：資本主義経済における搾取と蓄積のあり方の変遷
- 第18回：独占資本主義の形成と発展
- 第19回：グローバル資本主義と景気循環論
- 第20回：戦後資本主義世界の危機の構造
- 第21回：マルクス経済学の方法と現代社会
- 第22回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？①(データからみる社会の多様な格差)
- 第23回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？②(関連ビデオの視聴)
- 第24回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AI と資本主義社会①(AI と資本主義社会の発展)
- 第25回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AI と資本主義社会②(関連ビデオの視聴)
- 第26回：マルクス経済学の方法で社会を見る：日本におけるマルクス経済学の発展とその背景
- 第27回：マルクス経済学の方法で社会を見る：1990 年代以後の日本経済における構造的危機(経済成長、社会問題)
- 第28回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国におけるマルクス経済学の発展とその背景
- 第29回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国経済成長におけるマルクス経済学(経済成長、社会問題)
- 第30回：今後のマルクス経済学

【事前および事後学習の指示】

授業時間以外の予習としては、授業で取り上げる内容への理解力を高めるため、事前に配布した資料を読んでおくこと。さらに、授業計画にそって事前に配る主要専門用語の課題学習を提出すること。それらを通じて、講義へ意識を向けられるようになること。授業時間内においては、授業の最初の 10 分間で前回講義の内容を復習すること。また、授業終了前の 15 分、講義の内容の理解度を確認するため、レポートや小テストを実施し、その成果を再確認する。最後に、授業終了後は、講義の内容を復習し、次の講義に備えること。

【テキスト】

【参考文献】

伊藤誠(2016)「マルクス経済学の方法と現代社会」桜井書店  
 大西広(2015)「マルクス経済学」慶應義塾大学出版社

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

カールマルクス(著)、エンゲルス(編)向坂逸郎(翻訳)(1969)『資本論』岩波書店  
 延近充(2015)「21世紀マルクス経済学」慶應義塾大学出版社  
 松尾匡(2010)「マルクス経済学 図解雑学シリーズ」ナツメ社  
 ヨハン・モスト原著；カールマルクス 加筆・改訂；大谷禎之介訳(2009)「マルクス自身の手による資本論入門」

【コメント】

備考  
 課題(80%)  
 その他(20%)：講義への取り組み姿勢

【留意事項】

講義名称	曜時
経済情報処理論Ⅰ <春>	金 3

【教員名称】

櫻井 雄大

【講義概要】

「経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。Ⅰで触れることができなかった部分はⅡで扱います。

この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。

経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、「なぜ動くのか?」「どうしているのか?」「どこからできるのか、(現状では)できないのか?」「現在はどのように活用されているのか?」「将来の応用可能性は?」といった点を押さえながら概説します。

【学習目標】

情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション(講義内容詳細説明、アンケート等)
- 第2回：情報の歴史(人は情報とどう向き合ってきたか)
- 第3回：情報社会の現状(インターネット、スマートフォンの台頭)
- 第4回：情報の数値化(デジタル化とはどういうことか、その利便性について)
- 第5回：コンピュータの歴史(登場から高機能化、汎用化、小型化へ)
- 第6回：コンピュータの仕組み1(部品の構成と役割)
- 第7回：コンピュータの仕組み2(基本ソフトウェアについて)
- 第8回：コンピュータの仕組み3(アプリケーションの概念)
- 第9回：ソフトウェア詳説1(データとプログラム)
- 第10回：ソフトウェア詳説2(プログラム言語の種類と特徴)
- 第11回：アルゴリズム概論(各種アルゴリズムの紹介)
- 第12回：コンピュータの仕組み4(ネットワークの仕組み)
- 第13回：インターネットとWWW
- 第14回：経済学、その他社会科学とコンピュータの関係
- 第15回：これまでの講義まとめ

【事前および事後学習の指示】

準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。  
 また、必ず講義ノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。

【テキスト】

【参考文献】

「入門コンピュータ科学 ITを支える技術と理論の基礎知識」 J. Glenn Brookshear(著), 神林 靖(翻訳), 長尾 高弘(翻訳) 株式会社 KADOKAWA, 2017 ISBN-13:978-4048930543

【コメント】

備考  
 不定期に実施するオンライン上の小テスト成績により評価します。

【留意事項】

Web開発業務の経験がある教員が、技術的な点も含めたIT活用について講義します。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
経済政策Ⅰ <春>	土3

遠隔授業(オンデマンド型)

【教員名称】

吉弘 憲介

【講義概要】

経済政策Ⅰでは、現代における政府構造、その歴史的な形成過程、主たる機能、各国の違いなどについて学ぶ。

特に、多くの先進諸国が「福祉国家」という国家形態をとる中で、それがどのように形作られ、いかなる機能を持ち、我々が暮らすこの日本においてはそれがどんな姿をしているのか(していたのか)を学ぶ。

また、近年、経済活動がグローバル化する中で「福祉国家」の在り方が揺らいでいることを学んでいく。

本授業は、授業内容に関する自習用動画を閲覧し、終了後に授業内容を確認する小テストを行う形です。授業内容は、動画及び授業内容をまとめたメモ等を公開して自習が可能なスタイルとする。

【学習目標】

各国における社会経済制度についての知識と、その背景にある経済学の思想・理論の習得を目指す。

具体的には、関係するテーマを扱った新聞・雑誌記事などを理解することが可能なようにする。

また、就職活動における時事問題、面接時の問題意識発表などに役立つ知識の習得を目指す。

【講義計画】

- 第1回：「ガイダンス」  
講義内容のガイダンス及び「政府の3機能」について学ぶ
- 第2回：「公共財の理論」  
公共財の性質と公共財の最適供給について学ぶ
- 第3回：「公共財と私的財の間」  
サミュエルソン・ルールと公共財のバリエーション、公共財の歴史的側面
- 第4回：「所得の再分配をめぐる政治経済学」  
功利主義、平等・公平・衡平、ロールズの正義論、社会的危機論
- 第5回：「再分配の手段としての租税政策」  
租税の原理と機能、再分配を図る手段としてのジニ係数
- 第6回：「経済安定化のための手法と理論」  
総需要管理としての45度線分析とIS-LM分析、景気対策としての金融政策
- 第7回：「経済安定化機能としての乗数効果」  
乗数効果を理解するための等比数列と無限等比級数、乗数効果の解説
- 第8回：「古典派経済学者の政府支出論とその限界」  
古典派経済学者による政府支出の捉え方、古典派経済学者の論理の限界
- 第9回：「新しい希望ケインズ経済学、そして古典派の逆襲」  
大恐慌による経済学へのインパクト、戦後のスタグフレーションの理論的意味
- 第10回：「慈恵としての福祉から権利としての福祉国家へ」  
19世紀までの貧困者対策、20世紀以降の権利としての福祉と経済成長
- 第11回：「福祉国家の多様性、レジーム論」  
福祉国家レジーム論による分類化、日本の福祉支出の特徴
- 第12回：「保守主義と社民主義 2つの福祉レジーム」  
保守主義レジームのモデルとしてのドイツ、社民主義レジームのモデルとしてのスウェーデン
- 第13回：「残余的グループとしての自由主義及び家族主義レジーム」  
自由主義レジームとしてのアメリカ、家族主義レジームとしての日本
- 第14回：「講義の振り返り(1)」  
講義内容の全体像の確認とポイント
- 第15回：「講義の振り返り(2)」  
講義の理解に関する確認の実施

【事前および事後学習の指示】

宿題等を通じて、事前事後学習を義務付ける。

【テキスト】

福祉財政(福祉+αシリーズ) 高橋正幸編著  
9784623083695 ミネルヴァ書房

【参考文献】

神野直彦『財政学』有斐閣。  
夢沼宏一『幸せのための経済学』岩波ジュニア新書。  
ナイアル・キシティニー著、月沢李歌子訳『若い読者のための経済学史』すばる舎。

【コメント】

- ・その他の内容：  
小テストで各授業(第2回～第13回)の内容について、4択問題を2問出題する(合計4点満点、部分点なし)。  
第14回、15回で振り返りを行い、この際行う小課題をそれぞれ1点として提出を課す。
- ・試験の内容：  
試験は期末にオンラインテスト(時間指定と時間制限あり、50点満点)を行う。

【留意事項】

講義名称	曜日
健康・スポーツ科学講義-健康教育論 01<春>	木1

【教員名称】

大西 史晃

【講義概要】

健康に関わる要素は多様であり、それらが日常の中でどのように変化するか、あるいはどうすれば変化させることができるのかを知ることは人生の様々な時点で豊かなライフスタイルを獲得する上で重要である。本講義では、健康教育の要素と構造についての基礎知識を学びます。

本講義における前半部は、「健康」そのものについての定義やその要素に関する評価法について説明します。後半部では、前半部で学んだ「健康の要素」を整える、あるいは獲得する過程でみられる人の行動変容について提唱されてきた行動科学モデルについて説明するとともに、健康教育の実例を概説します。

【学習目標】

本講義では、「健康」とはどのような状態かを知り、その関連要素を満たすために必要な知識を修得するとともに人が健康行動を実施する過程を認識することを通して、人々が社会の中で健康行動を実施・継続するために必要なことを理解することを目指します。

講義内では「健康とはどのような状態かについて3つの観点から説明できる」、「健康教育の発展について提唱された理論やモデルについて説明できる」、「日常の身体活動量を評価できる」を具体的な到達目標とします。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス(授業の概要・成績評価・課題の説明含む)
- 第2回：「健康」の定義
- 第3回：精神的健康に関わる要素
- 第4回：肉体的健康に関わる要素
- 第5回：社会的健康に関わる要素
- 第6回：精神的健康とストレスの評価法
- 第7回：Quality Of Life(QOL)と身体活動量の評価法
- 第8回：「健康教育」とはなにか?
- 第9回：行動科学のモデル①KAPモデル/ヘルスビリーフモデル
- 第10回：行動科学のモデル②トランスセオレティカルモデル/Health Action Process Approach
- 第11回：行動科学のモデル③社会的認知理論
- 第12回：行動科学のモデル④Precede-Proceedモデル
- 第13回：「ヘルスプロモーション」の3つの前提条件と5つのアクション
- 第14回：我が国のヘルスプロモーションの実例
- 第15回：諸外国のヘルスプロモーションの実例

【事前および事後学習の指示】

健康に関する書物や映像で事前に学習し、理解しておくようにしてください。これにより、講義を通して健康問題やそれに関する個人や社会の動きへの理解をより深めることができます。

【テキスト】

【参考文献】

「実践ヘルスプロモーション」ローレンス W. グリーン&マーシャル W. クロイツ、医学書院

【コメント】

①小テスト10回-100%(各10%)

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
健康・スポーツ科学講義-コーチング論 <春>	火 1

## 【教員名称】

松本 直也

## 【講義概要】

本講義では、スポーツ現場におけるスポーツコーチングに焦点を当てながら、スポーツの歴史、日本的スポーツ環境の問題点について理解を深め、スポーツコーチの役割について学習します。また、生涯スポーツと健康などスポーツを取り巻く様々な環境について考察を深めます。

## 【学習目標】

本講義では、幅広い知識と多面的な思考の方法を身につけるために、体育・スポーツ指導におけるコーチングの基本理論と実践について理解を深めることを目的とします。スポーツコーチの仕事について理解を深めるために、コーチング哲学、コーチに求められる資質、また、具体的な役割について、文献だけでなく実際の現場の視点からアプローチしていきます。パワーポイントを中心に授業を展開し、VTR 映像、新聞資料等からコーチングに関わる様々な問題を取り上げます。

## 【講義計画】

- 第1回：ガイダンス・・・授業計画の説明
- 第2回：スポーツについて考える
- 第3回：遊びの定義と近代スポーツの成立
- 第4回：スポーツの日本への伝播と戦前の体育・スポーツ
- 第5回：日本的スポーツ観①  
～第2次世界大戦後の日本の体育・スポーツ～
- 第6回：日本的スポーツ観②  
～企業スポーツと日本のスポーツ環境～
- 第7回：諸外国のスポーツ環境
- 第8回：レポート課題①
- 第9回：スポーツコーチングについて考える
- 第10回：スポーツコーチの役割①  
～コーチングスタイル～
- 第11回：スポーツコーチの役割②  
～スポーツ科学と情報分析～
- 第12回：スポーツコーチの役割③  
～スポーツ医科学～
- 第13回：スポーツコーチの役割④  
～心理的アプローチ～
- 第14回：スポーツコーチの役割⑤  
～コーチングとリーダーシップ～
- 第15回：レポート課題②

## 【事前および事後学習の指示】

授業の予習・復習の他、授業で配布するプリント、資料等に目を通してから受講すること。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- ・「知的コーチングのすすめ」勝田隆著 大修館書店
- ・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編 大修館書店
- ・「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著 西村書店

## 【コメント】

- (1) レポート (50%) は、到達目標に関連するテーマを設定した 1000-1600 字程度のレポート課題を 2 回課します。
- (2) 授業においては毎回、小課題を課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義の中、ならびに M-Port を通じてその都度指示が出ます。
- (3) その他 (50%) は、毎回の授業において課す小課題の提出から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。
- (4) 課した課題 (レポートも含む) の合計回数のうち、3/4 以上の提出がなければ、成績評価の対象にはなりません。

## 【留意事項】

講義名称	曜時
健康・スポーツ科学講義-体カトレーニング論 01<春>	金 1

## 【教員名称】

井口 祐貴

## 【講義概要】

本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則など、体カトレーニングの基礎的な理論や情報、考え方に関する知識や、人々の生涯にわたる健康づくりに寄与するであろう体カトレーニングの意義について学習します。講義は、パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体カトレーニングに関わる実践現場の視点からもアプローチしていきます。

## 【学習目標】

本講義では、健康・スポーツ科学に基づいた体カトレーニングに関する基礎的な理論について理解を深め、自己の体力向上・健康づくりを目的とした体カトレーニングの実践につながる教養を身につけることを目指します。

講義内では、「身体的な健康の基礎である身体の構造や機能の基礎知識を踏まえて、体カトレーニングの意義を説明できる」、「体カトレーニングという概念を幅広くとらえ、身体活動を切り口として、体力向上・健康増進の意義と社会における体カトレーニングの役割を説明できる」を具体的な到達目標とします。

## 【講義計画】

- 第1回：ガイダンス (授業計画の概略説明)
- 第2回：体カトレーニングについて考える
- 第3回：トレーニングの原理・原則
- 第4回：運動とエネルギー代謝
- 第5回：有酸素運動
- 第6回：レジスタンストレーニング
- 第7回：体カトレーニングの実践方法
- 第8回：運動と栄養
- 第9回：スポーツ競技者と体カトレーニング
- 第10回：障がい者と体カトレーニング
- 第11回：発育発達と体カトレーニング
- 第12回：高齢者と体カトレーニング
- 第13回：体カトレーニングと性差
- 第14回：生活習慣病とその予防
- 第15回：まとめ

## 【事前および事後学習の指示】

体カトレーニングや健康づくりに関する書物や映像で事前に学習し、理解に努めておいてください。また当科目は講義科目ですが、スポーツや身体活動の実践、体力の向上や健康の維持増進についての方法などにも興味を持って授業に臨んでください。これにより、講義を通して体力向上・健康づくりや健康問題への理解をより深めることができます。授業の予習・復習の他、授業で配布する資料等に目を通して受講してください。尚、授業において課す課題の提出期限については厳しく取り扱いますので、留意の上、受講するようにしてください。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- 「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
- 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
- 「トレーニング指導者テキスト (理論編・実践編・実技編)」NPO 法人 日本トレーニング指導者協会

## 【コメント】

- (1) 試験 (20%) は、授業内において LMS を用いて行います。
- (2) レポート (30%) は、到達目標に関連するテーマを設定した 1000-1400 字程度のレポート課題を 2 回課します。
- (3) 授業においては毎回、講義テーマに関連するテーマを設定した小課題および小テストを課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義中、ならびに LMS を通じてその都度指示が出ます。
- (4) その他 (50%) は、毎回の授業において課す課題の提出および回答から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。
- (5) 課した全ての課題 (レポートも含む) のうち、3/4 (提出率 75%) 以上の提出がなければ、原則として単位認定対象外となります。

## 【留意事項】

講義名称	曜日
言語学概論 A <春>	水 2

【教員名称】

角出 凱紀

【講義概要】

言語学は、我々人間が普段何気なく使っている言語に潜む規則性や特徴を探究する学問です。この講義は、日本語や英語の具体事例を通して、言語の音や文法にまつわる言語学の主要概念を身につけることを目指しています。また、日本語教育能力検定試験の問題を実際に手を動かして解いてみることで、知識の定着を図ります。

【学習目標】

1. 言語学における主要概念を正しく身につける。
2. 実際に自分で言語現象を分析できるようになる。
3. 言語に潜む何気ない不思議に気づく感性を育む。

【講義計画】

- 第1回：授業概要と導入
- 第2回：言語の特性とその起源
- 第3回：音声学・音韻論 (1)：母音の分類
- 第4回：音声学・音韻論 (2)：子音の分類
- 第5回：音声学・音韻論 (3)：音素と異音
- 第6回：音声学・音韻論 (4)：モーラと音節
- 第7回：音声学・音韻論 (5)：アクセントとイントネーション
- 第8回：小テストと解説
- 第9回：形態論 (1)：語と形態素
- 第10回：形態論 (2)：派生・複合・屈折
- 第11回：形態論 (3)：いろいろな語形成
- 第12回：文法論 (1)：品詞
- 第13回：文法論 (2)：格と主題
- 第14回：文法論 (3)：ヴォイス
- 第15回：小テストと解説

【事前および事後学習の指示】

各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしていくことが、次回の授業の事前学習となります。また、授業で取り上げた現象が日常の言語使用の中でどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

- 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 1993.『言語学』第2版. 東京：東京大学出版.
  - 黒田龍之介. 2004.『はじめての言語学』東京：講談社.
  - 斎藤純男. 2010.『言語学入門』東京：三省堂.
  - 佐久間淳一・加藤重広・町田健. 2004.『言語学入門』東京：研究社.
  - 姫野伴子・小野和子・柳沢絵美. 2015.『日本語教育学入門』東京：研究社.
- ※授業内でも適宜紹介します。

【コメント】

成績評価は、2回的小テスト(各30%)と課題(40%)で行います。

【留意事項】

初回の授業で概要・受講に際しての注意事項を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という事後の申し出は一切受け付けません。

講義名称	曜日
憲法 A 01<春>	月 1

【教員名称】

森口 佳樹

【講義概要】

憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法 A では、人権規定を中心に講義する。

【学習目標】

憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション、憲法総説
- 第2回：基本的人権の主体
- 第3回：人権と公共の福祉
- 第4回：人権規定の効力
- 第5回：幸福追求権の意義
- 第6回：新しい人権の具体化
- 第7回：平等の意義
- 第8回：平等権をめぐる判例
- 第9回：思想・良心の自由
- 第10回：信教の自由
- 第11回：表現の自由
- 第12回：表現の自由をめぐる判例
- 第13回：学問の自由
- 第14回：経済的自由権
- 第15回：身体的自由権

【事前および事後学習の指示】

講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

【テキスト】

ワンステップ憲法 森口佳樹他  
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

【参考文献】

別冊ジュリスト「憲法判例百選 I・II 第7版」(有斐閣)

【コメント】

受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。

【留意事項】

講義名称	曜日
憲法A 02<春>	月 2

## 【教員名称】

森口 佳樹

## 【講義概要】

憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Aでは、人権規定を中心に講義する。

## 【学習目標】

憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

## 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション、憲法総説
- 第2回：基本的人権の主体
- 第3回：人権と公共の福祉
- 第4回：人権規定の効力
- 第5回：幸福追求権の意義
- 第6回：新しい人権の具体化
- 第7回：平等の意義
- 第8回：平等権をめぐる判例
- 第9回：思想・良心の自由
- 第10回：信教の自由
- 第11回：表現の自由
- 第12回：表現の自由をめぐる判例
- 第13回：学問の自由
- 第14回：経済的自由権
- 第15回：身体的自由権

## 【事前および事後学習の指示】

講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

## 【テキスト】

ワンステップ憲法 森口佳樹他  
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

## 【参考文献】

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」(有斐閣)

## 【コメント】

受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。

単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。

## 【留意事項】

講義名称	曜日
語彙・意味論 <春>	火 2

## 【教員名称】

島 千尋

## 【講義概要】

「語彙」とは、ある言語・ある分野・ある作品・ある人などが持っている単語の総体のこと。この授業では、日本語の語彙やその意味に関して、外国人の目から見た特徴や「日本語を教える」という観点から必要になる知識や技術について講義します。

将来、日本語教師として外国人学習者に日本語を教えてみたい人はもちろん、日本語のことをもっと深く知りたい人、今後社会で必ず関わることになる外国人と接する際に必要な知識を今から身につけておきたい人を対象とする授業です。

(講義全体を通して、文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち(42)日本語教育のための形態・語彙体系 (44)日本語教育のための意味体系 について学びます)

## 【学習目標】

日本語学習者に日本語を教える際、また周りの外国人と接する際に、日本語の語彙に関して必要となる以下の4つを身につける。

1. 自分自身が日本語の語彙を正確に使用できること
2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴について知ること
3. 日本語の語彙に関する基本的な知識を得ること
4. 日本語学習者や身近な外国人に日本語の語彙を効果的に教えられること

## 【講義計画】

- 第1回：1. 正確な日本語語彙運用(1) ～間違いやすい言葉①～  
(文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち(11)待遇・敬意表現 を含む)です
- 第2回：1. 正確な日本語語彙運用(2) ～間違いやすい言葉②～
- 第3回：2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(1) ～語彙の多さ・男女差～
- 第4回：2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(2) ～オノマトペ・助数詞～
- 第5回：2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(3) ～自動詞他動詞・カタカナ語～
- 第6回：2. 他言語から見た日本語の語彙の特徴(4) ～様々な言葉における他言語との差～
- 第7回：3. 日本語の語彙に関する基本的知識(1) ～音声変化～
- 第8回：3. 日本語の語彙に関する基本的知識(2) ～言葉の意味～
- 第9回：3. 日本語の語彙に関する基本的知識(3) ～様々な動詞～
- 第10回：3. 日本語の語彙に関する基本的知識(4) ～語彙の分類①～
- 第11回：3. 日本語の語彙に関する基本的知識(4) ～語彙の分類②～
- 第12回：3. 日本語の語彙の教え方(1) ～反義語～
- 第13回：4. 日本語の語彙の教え方(2) ～類義語・多義語～
- 第14回：4. 日本語の語彙の教え方(3) ～様々な教え方～  
(文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち(15)言語学習 を含む)
- 第15回：4. 日本語の語彙の教え方(4) ～語彙指導の実践～

## 【事前および事後学習の指示】

- ・授業の録画と授業資料(パワーポイント)を M-Port に上げますので、それを見て復習してください。
- ・自分自身や身の回りの日本語の言葉の正確さについて普段から強く意識するようにしてください。
- ・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、彼らが日本語について感じていることを直接聞いてみてください。
- ・外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、語彙の面に注意をしながら見てください。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## 【コメント】

- ・出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料を M-Port に上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。
- ・周りの人とおしゃべりをする、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員に許可を取ってください。
- ・「レポート」は学期中に時々課す課題(全3回・40%)と学期末に課す最終課題(40%)です。
- ・「その他」はほぼ毎回課す小テスト(20%)です。
- ・授業中に質問への解答のためにスマートフォンを使用してもらう場合があります。

## 【留意事項】

日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ解説する

## 社会人の方へ(聴講に際して)

授業中にスマートフォンで QR コードを読み込み、Google フォームに答えを記入してもらうことが何度かありますので、桃山のアカウントにログインできるようにしておいていただくと助かります。もちろん上記を行わずに受講することも全く問題ありません。

講義名称	曜日
公的扶助論A <春>	火5

【教員名称】

岡岡 一也

【講義概要】

【授業の目的・ねらい】

貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。また、貧困に係る法制度と支援の仕組み、貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

【授業全体の内容の概要】

- ①貧困の概念、②貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、③貧困の歴史、④貧困に対する法制度、⑤貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割

【学習目標】

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
- ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。
- ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。
- ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する

【講義計画】

- 第1回： 1 貧困の概念
- 第2回： 2 貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境
- 第3回： 3 貧困の歴史①：貧困状態にある人に対する福祉の理念
- 第4回： 4 貧困の歴史②：貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程
- 第5回： 5 貧困に対する法制度①：生活保護法
- 第6回： 6 貧困に対する法制度②：生活困窮者自立支援法
- 第7回： 7 貧困に対する法制度③：低所得者対策
- 第8回： 8 貧困に対する法制度④：ホームレス対策
- 第9回： 9 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①：貧困に対する支援における公私の役割関係
- 第10回： 10 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②：国、都道府県、市町村の役割
- 第11回： 11 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割③：福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割
- 第12回： 12 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割④：その他の貧困に対する支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割
- 第13回： 13 貧困に対する支援の実態①：社会福祉士の役割
- 第14回： 14 貧困に対する支援の実態②：貧困に対する支援の実態(多職種連携を含む)
- 第15回： 15 まとめ

【事前および事後学習の指示】

公的扶助論の中核である生活保護制度は歴史的にも古く、また現行制度はその上に成立していることから複雑で精緻な制度です。専門職として実践力を期待される重要な学習分野です。予習・復習を繰り返して、各回の講義を理解するよう努めてください。本講義は、国家資格である社会福祉士、精神保健福祉士に加え、任用資格である社会福祉主事の要件科目です。そのため、これらの資格を目指す熱意と意欲を重視します。

【テキスト】

新・社会福祉士シリーズ 16 貧困に対する支援 福祉臨床シリーズ編集委員会 編・伊藤秀一 責任編集 978-4-335-61221-3 弘文堂 2022年05月発行  
保護のてびき令和6年度版 生活保護制度研究会 編集 978-4-474-04007-6 第一法規出版

【参考文献】

生活保護手帳 別冊問答集 中央法規出版  
Q&A 生活保護手帳の読み方・使い方 [第2版] 吉永純 明石書店  
生活保護と貧困対策-その可能性と未来を拓く-岩永理恵、卯月由佳、木下武徳 有斐閣  
押さえておきたい公的扶助・生活保護行政 元田宏樹、松浦賢治、門井弘明 ぎょうせい  
健康で文化的な最低限度の生活(1~13巻) 柏木ハルコ 小学館  
THE BIG ISSUE JAPAN (ビッグイシュー日本版)  
※参考文献については、購入の必要はありません。

【コメント】

試験の結果にレポート提出状況及び授業課題への取組み状況等を加味して単位認定する。  
詳細は授業初回に説明するため、初回授業には必ず出席すること。

【留意事項】

ソーシャルワーカーとして相談支援に取り組んできた教員が、その経験を活かして、貧困状態にある人の生活実態や生活課題を踏まえ、貧困に係る法制度と支援の仕組み、支援方法等について講義する。  
講義資料は毎回配付します。詳細は初回講義で説明しますので、履修希望の学生は必ず出席してください。

講義名称	曜日
行動経済学 I <春>	月1

【教員名称】

米田 紘康

【講義概要】

人間は常に些細なことから重要なことまで意思決定(判断)の連続に晒(さら)されています。

しかも私たちはコンピューターのように賢くもなかつた意志が弱いので、いつも正しい意思決定をしているとは限りません。

だからと言ってずっと悩み続けることはありませんし、いつも間違っているわけではありません。

その行動にはクセやパターンがあるということです。

このクセ・パターンを研究する分野を行動経済学といいます。

この講義では、行動経済学がどのような問題の解決に役立つのかさまでま事例を紹介しします。

行動経済学はみなさんが習ってきた規範的な経済学(=特にミクロ経済学や金融論)に、心理実験や行動科学の要素を加えることで、より親しみやすい経済学になっています。

【学習目標】

主目標：受講生が、ミクロ経済学や行動経済学を中心とする基本的な意思決定について理解する。

副目標：受講生が行動経済学や認知科学の知識を生かして、多角的な視点から経済学を理解できる。

受講生は以下の3能力を身につけることができます。

- ・複雑に絡みあった経済・社会事象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力(理解力)
- ・客観的な分析を基礎にして経済・社会事象を論理的に考察できる能力(展開力)
- ・自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力(発信力)

【講義計画】

- 第1回： オリエンテーション：行動経済学とは
- 第2回： 人にやってほしいことをやらせるには？
- 第3回： 女性が男性ほど稼げないのはなぜか？
- 第4回： 女性が男性よりも競争が好きでない。なぜ？
- 第5回： 成績格差
- 第6回： 差別を終わらせる方法
- 第7回： いまどきの差別
- 第8回： 自分のみを守る方法
- 第9回： なぜ寄付をする？
- 第10回： 人に寄付させる方法
- 第11回： 実験をしない代償
- 第12回： 無料の魅力と罠
- 第13回： なぜ人は不正直なのか？
- 第14回： なぜ人は不正をするのか？
- 第15回： まとめとポイントの整理

【事前および事後学習の指示】

事前学習として 30 時間(2h x 15 回)、事後学習として 30 時間(2h x 15 回)を求めます。

具体的には授業後に次回のテーマを発表しますので、各自予習してください。また授業終了後には、講義のポイントを復習するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

ダニエル・カーネマン(著)、「ファスト&スロー(上・下) あなたの意思はどのように決まるか?」、ハヤカワ・ノンフィクション文庫  
ダン・アリエリー(著)、「予想どおりに不合理：行動経済学が明かす『あなたがそれを選ぶわけ』」、(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)  
ダン・アリエリー(著)、「ずる——嘘とごまかしの行動経済学」、(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)

【コメント】

レポート 60%とは：事前に発表した課題についてレポートを提出してもらいます。  
その他 40%とは：講義中にアンケートやリアクションペーパーを求めることがあります。

【留意事項】

履修条件はありませんが、以下のキーワードを含む講義を履修しているより理解しやすいです。  
ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学、行動経済学

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
広報の社会学 01<春>	月 4

#### 【教員名称】

有國 明弘

#### 【講義概要】

広告とは商品やサービスなどを広く告知し購買を促す活動であり、広報とは企業価値をあげ、利害関係者＝ステークホルダーとの良好な関係構築を目的とする活動を指します。デジタルテクノロジーが進化し、企業の社会的責任や不祥事対応など危機管理が大きな課題となるなか、広報の重要性は高まりをみせています。本講義では、メディアやコミュニケーション研究の知見を踏まえながら、広告および広報に関する基礎理論や機能、役割について考察していきます。日本における広告と広報の理論・文化・発展に関する知識を幅広く習得し、私たちの考え方にどのような影響を及ぼしているのか理解を深めてもらうことがこの講義の目的です。

映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布(あるいはGoogle フォームでのアンケート機能やM-Portの各機能等を活用)し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。また、講義の参考書を指定するので、積極的に活用してほしい。

#### 【学習目標】

本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。

- ・ 広告や広報に関する基礎的概念や理論を理解する。
- ・ 広告や広報が果たす役割および機能について考え、私たちの生活に及ぼす影響について知る。
- ・ 広告や広報に関するメディア・リテラシーを身につける。

#### 【講義計画】

- 第1回： イントロダクション
- 第2回： 広告の定義・分類・機能
- 第3回： 消費社会と広告
- 第4回： 広告と卓越化①(ファッションにおける卓越化)
- 第5回： 広告と卓越化②(ブランドと記号論)
- 第6回： マイノリティ表象と広告
- 第7回： インターネットと広告①(ネット広告とは)
- 第8回： インターネットと広告②(SNSと広告)
- 第9回： オーディエンスとは誰か？/広告と社会学
- 第10回： ブランディング
- 第11回： パブリック・リレーションズ(広報)/コーポレート・コミュニケーション①(映画と広報)
- 第12回： パブリック・リレーションズ(広報)/コーポレート・コミュニケーション②(観光と広報)
- 第13回： メディア・リレーションズ/企業の社会的責任
- 第14回： マーケティング PR
- 第15回： まとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

ケイン樹里安・上原健太郎『ふれる社会学』北樹出版、2019年  
岸志津江他著『現代広告論〔第3版〕』有斐閣、2017年  
水野由多加他編『広告コミュニケーション研究ハンドブック』有斐閣、2015年  
伊吹勇亮他著『広報・PR論』有斐閣、2014年

#### 【コメント】

毎回の授業課題を30%、期末レポートを70%として成績を評価します。

#### 【留意事項】

講義名称	曜日
コーポレート・ファイナンス(基礎) <春>	木 4

#### 【教員名称】

齋藤 巡友

#### 【講義概要】

企業を運営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。コーポレート・ファイナンスでは、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分(利益還元)の段階である。本講義では、これらの財務的意思決定における問題を理解するためのベースの部分となる概念や理論について学ぶ。

#### 【学習目標】

コーポレート・ファイナンスに関する諸問題を理解するために必要な知識・概念や理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の学習目標となる。

#### 【講義計画】

- 第1回： オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
- 第2回： 財務活動と財務管理
- 第3回： 財務諸表1：財務諸表とは
- 第4回： 財務諸表2：貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書
- 第5回： 財務諸表3：財務指標からわかる企業の特徴
- 第6回： 資金の時間的価値
- 第7回： 現在価値の公式と株式・債券の価格評価
- 第8回： 企業価値の評価指標
- 第9回： リスクとリターン
- 第10回： ポートフォリオ理論1：分散投資の効果
- 第11回： ポートフォリオ理論2：平均・分散アプローチ
- 第12回： 資産価格の決定理論
- 第13回： 資本コストの概念1：資本コストとは
- 第14回： 資本コストの概念2：資本コストの推計
- 第15回： 試験およびまとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

講義前に講義資料をアップロードするので、事前学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。

本講義ではコーポレート・ファイナンスに関する応用的な内容を理解するために必要となる基礎概念や基礎理論を学ぶ。位置付けとしては「基礎」となっているが、理論的な部分を解説することが多く、トピックによっては初学者には難しく感じる部分も出てくると思うので、特に復習に重点をおいて取り組んでもらいたい。

この講義で扱うトピックの中には基礎的な数学知識を前提とするものもあるため、高校で習った数学(特に確率)を復習しておくことを強く推奨する。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門(第2版)』日本経済新聞社  
高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社  
米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ  
リチャード=フリーリー・スチュワート=マイヤーズ・フランクリン=アレン著『コーポレートファイナンス 第10版 上』日経BP社  
ジョナサン=パーク・ピーター=ディマゾ著『コーポレートファイナンス入門編第2版』丸善出版株式会社  
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社  
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

#### 【コメント】

①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は短答式・記述式(計算問題を含む)を組み合わせた形式となる。成績評価における点数配分は70%

②授業の理解度を問う小課題を複数回実施する。成績評価における点数配分は30%

#### 【留意事項】

第1回の授業時に受講するうえで重要な情報(授業運営の方針、成績評価等)を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。

※第1回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めないこともある。

講義名称	曜日
国際会計論 [2] <春>	木 4

【教員名称】

中村 恒彦

【講義概要】

「会計のルールを作っているのは?」

国際会計論では、IFRS(国際財務報告基準)会計の学習を通じて現代の会計理論を学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。

【学習目標】

この講義を通じて、論理的な考え方がどのようなものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】

- 第1回： 国際会計の世界 ～国際化と外貨換算～
- 第2回： IFRS をめぐる背景
- 第3回： 国際化の進展
- 第4回： IFRS の特徴と概念フレームワーク(1) ～演繹法と帰納法～
- 第5回： 概念フレームワーク(2) ～会計の枠組み～
- 第6回： 金融商品会計 ～時価主義と原価主義～
- 第7回： 利益計算のシステム(1) ～純利益と包括利益～
- 第8回： 利益計算のシステム(2) ～資産負債アプローチと収益費用アプローチ～
- 第9回： 中間ふりかえりと課題点検
- 第10回： リース会計 ～実質優先主義と法的形式主義について～
- 第11回： 連結会計 ～経済的単一概念と親会社概念について～
- 第12回： 企業結合の会計 ～パーチェス法と持分プーリング法～
- 第13回： 収益認識の会計 ～出荷基準と着荷基準～
- 第14回： 国際会計の歴史 ～生成から頭頂まで～
- 第15回： 最終ふりかえりと課題総点検

【事前および事後学習の指示】

財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。

【テキスト】

- はじめて学ぶ国際会計論 行待 三輪
- 978-4-7944-1528-8 創成社
- ベーシック国際会計(第二版) 向 伊知郎
- 978-4-502-30521-4 中央経済社

【参考文献】

【コメント】

- ・成績評価は、原則的に期末試験と平常評価によって行います。なお、平常評価は「出席」では行わず、講義中の「課題」や「宿題」によって評価を行います。
- ・期末試験(80点)+宿題・課題等(20点程度) 講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

【留意事項】

講義名称	曜日
国際関係論 A <春>	木 3

【教員名称】

松村 昌廣

【講義概要】

ウクライナ戦争、第四次台湾海峡危機、食糧・エネルギー危機など、急激に大きな変化を見せる現在の国際関係を体系的に理解するために、具体的な事例を取り上げながら、ベーシックなことから積み上げて、お話しします。本講義は理論の講義ですが、初めて国際関係論を学ぶ学部学生を念頭に、難解にならないように図やメモを使って丁寧な説明を心がけます。なお、より具体的な個別の国際情勢に関心のある学生は、映像資料を駆使する「国際政治事情研究 A・B」を受講してください。

【学習目標】

毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係の理解に必要な理論的な思考とは何か、主要な理論にはどのようなものがあるかに焦点を絞って説明します。また、刻一刻と変化する時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

【講義計画】

- 第1回： 導入
  - 1-1) 国際関係論と国際関係における日本
- 第2回： 1-2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
- 第3回： 1-3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論
  - (1) 現実主義 VS 理想主義
- 第4回： 1-3)
  - (2) 伝統主義 VS 科学主義
- 第5回： 1-3)
  - (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
- 第6回： 1-3)
  - (4) まとめ
- 第7回： 総論
  - 2-1) 基本的捉え方
  - (1) 現実主義
- 第8回： 2-1)
  - (2) 多元主義
- 第9回： 2-1)
  - (3) グローバリズム
- 第10回： 2-1)
  - (4) まとめ
- 第11回： 2-2) 分析のレベル
  - (1) 政策決定システム
- 第12回： 2-2)
  - (2) 国家システム
- 第13回： 2-2)
  - (3) 国際システム
- 第14回： 2-2)
  - (4) まとめ
- 第15回： 総括

【事前および事後学習の指示】

講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。

【テキスト】

- 国際関係論 - 現実主義・多元主義・グローバリズム ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ
- 彩流社(絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる)

【参考文献】

- E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)
- モーゲンソー『国際政治』(福村出版)
- シューマン『国際政治』(東京大学出版会)

【コメント】

講師が設定した問題と手順で、講義で扱った内容を基に持ち帰りのレポート試験(2500字~3000字)の作成・提出を求めます。十分な時間(恐らく週末を含め7~10日以上の期間)を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
国際機構論 A <春>	火 2

#### 【教員名称】

軽部 恵子

#### 【講義概要】

この講義では、大航海時代から国連設立までの歴史を概観します。高校までの世界史と似ている部分もありますが、国際機構の視点で掘り下げるので、かなり異なる部分があります。いずれにしても、西洋を中心とした近現代史の基礎知識は、あらゆる科目の理解に必須です。就職試験の筆記試験にも出題されます。

国際機構論の第2回から第4回は、国際法Aの第2回から第4回と同じ教材を用いますが、国際機構論の視点から考えていくため、同じ講義内容ではありません。

講義冒頭では、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際機構論の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

#### 【学習目標】

- ①国際社会が成立する歴史的背景(大航海時代から20世紀初めまで)を理解する。
- ②国際連盟など、国連以前に設立された国際機構について、歴史的背景と任務・権限を理解する。
- ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。
- ④メディア・リテラシーを身につける。

#### 【講義計画】

- 第1回：国際機構とは何か
- 第2回：国際機構の歴史(1)大航海時代、宗教改革、三十年戦争
- 第3回：国際機構の歴史(2)フランス革命とナポレオン戦争
- 第4回：国際機構の歴史(3)ハーグ平和会議と赤十字国際委員会
- 第5回：第一次世界大戦(1)サラエボ事件
- 第6回：第一次世界大戦(2)近代兵器の登場
- 第7回：第一次世界大戦(3)パリ講和会議と国際連盟の設立
- 第8回：国際連盟(1)国際連盟規約
- 第9回：国際連盟(2)大国の不参加
- 第10回：国際連盟(3)制裁の欠如
- 第11回：ファシズムの台頭と第二次世界大戦の勃発
- 第12回：国連の設立(1)「四つの自由」演説と大西洋憲章
- 第13回：国連の設立(2)ダンバートン・オークス提案
- 第14回：国連の設立(3)サンフランシスコ会議と国連憲章の採択
- 第15回：まとめ、期末試験

#### 【事前および事後学習の指示】

毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。

#### 【テキスト】

新版 一冊でわかるイラストでわかる図解世界史 成美堂出版編集部  
978-4415328386 成美堂

#### 【参考文献】

植木安弘『国際連合:その役割と機能』(日本評論社、2018)、鈴木啓之・児玉恵美編著『パレスチナ/イスラエルの(いま)を知るための24章』(明石書店、2024)、青野利彦『冷戦史』全2巻(中央公論新社、2023)、 茂川博一『物語エルサレムの歴史』(中公新書、2010)、小林義久『国連安保理とウクライナ侵攻』(筑摩新書、2022)、篠原初枝『国際連盟』(中公新書、2010)、最上敏樹『国連とアメリカ』(岩波新書、2005)、田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い! 西洋絵画の教科書』(ナツメ社、2021)

#### 【コメント】

計2回の試験のみで成績評価を行います。出席は成績評価に全く関係ありません。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。

#### 【留意事項】

- ・国際機構論Bを履修する予定の人は、極力Aから履修してください。Aの内容を知らないと、Bの内容を理解できません。
- ・教科書は毎回使います。予習・復習にも積極的に利用してください。教科書の内容は就職試験の筆記試験にも出題されます。
- ・聖書とギリシア神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。

講義名称	曜日
国際経済論 I <春>	月 1

#### 【教員名称】

浅海 達也

#### 【講義概要】

この講義では国際経済論を国際貿易の観点から学ぶ。グローバル化が進むにつれて、モノ・ヒトの国境を越えた流れが勢いを増している。このような国際貿易は我々の生活とどのように結びついているのだろうか。この問いに対して、経済全体で考える「貿易の利益」と経済主体を分けて考える「所得分配」の二つの側面から明らかにする。さらに国際貿易は貿易政策の下で行われるため、輸入関税や輸出補助金といった政策の効果も取り扱う。

講義はスライド資料と実際のデータを基に進める。前回の講義と関連がある場合には冒頭で前回の復習を取り入れる。受講生は結果の暗記ではなく、論理的な説明を通じて国際貿易の考え方を身に付ける。

#### 【学習目標】

- この講義に積極的に参加することを通じて、
- (1) 貿易の利益を経済全体の側面から理解する。
  - (2) 貿易による所得分配を個々の経済主体の側面から理解する。
  - (3) 貿易政策による貿易の利益と所得分配への影響を自分で考えることができる。
  - (4) 貿易に関するデータとそれを説明する理論の対応関係を把握する。

#### 【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
国際経済論における国際貿易  
国際貿易の現実
- 第2回：労働生産性と比較優位：リカード・モデル (1)【貿易の利益】
- 第3回：労働生産性と比較優位：リカード・モデル (2)【相対価格の決定】
- 第4回：特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (1)【短期的な所得分配】
- 第5回：特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (2)【相対価格の決定】
- 第6回：移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (1)【長期的な所得分配】
- 第7回：移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (2)【相対価格の決定】
- 第8回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (1)【貿易の利益】
- 第9回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (2)【経済成長】
- 第10回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (3)【貿易政策】
- 第11回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (1)【貿易の利益と所得分配】
- 第12回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (2)【輸入関税】
- 第13回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (3)【輸出補助金】
- 第14回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (4)【国際交渉】
- 第15回：国際経済論 I のまとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

事前学習では国際貿易に関するニュースや記事を読み、国際貿易への関心を深める。事後学習では講義内容を復習するとともに、その内容がどのニュースや記事と対応しているのか考える。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

P. R. クルーグマン 著 / M. オプストフェルト 著 / M. J. メリッツ 著 / 山形浩生 訳 / 岡岡 桜 訳 (2017)『クルーグマン国際経済学 理論と政策(上) 貿易編』丸善出版。

#### 【コメント】

試験が25%、各回(第2~14回)の授業内容に関するレポートが75%。レポートでは各回の授業後に、講義を受けて学んだことを自分の言葉で説明する。試験では第15回の授業後に、講義内容を理解しているかどうかを確認する。なお公認欠席を除く欠席が4回以上の場合、成績評価をしないので注意すること。(遅刻についても、その程度に応じて欠席回数にカウントされる。)

#### 【留意事項】

- (1) 「ミクロ経済学」を履修していることが望ましい。
- (2) 「国際経済論 I」では国際貿易を学び、「国際経済論 II」では国際金融を学ぶ。
- (3) 参考文献はテキストとしては指定しないが、講義内容の理解を深めてより発展的な内容を学ぶために役立つ。

講義名称	曜日
国際交流特別講義-現代日本社会学 <春>	金 3

英語による

【教員名称】

篠原 千佳

【講義概要】

This course, Introduction to Contemporary Japanese Society/Sociology, is intended to help students gain a basic sociological understanding of Japanese society. We will examine the wider social patterns and developments characterizing Japan through different segments of society and life-courses of the peoples living in Japan. Topics to be covered include social class and stratification, ethnic and regional diversity, education and work, work-family-gender, religion and culture, and civil society. This course focuses on globalization and diversity as two core elements for sociological studies of Japan.

【学習目標】

Course Objectives:

At the end of the course, students will be able to:

- Develop critical thinking skills and sociological theoretical perspectives on Japanese society;
- Learn and comprehend social issues around diverse peoples living in Japan;
- Understand transforming cultures and structures of Japan in globalization.

【講義計画】

- 第1回: Introduction
- 第2回: Sociology of Japan - Social Issues and Phenomenon
- 第3回: Social Class and Stratification
- 第4回: Sociological Literature on Japan
- 第5回: Geographical and Generational Variations
- 第6回: Education and Work
- 第7回: Gender Stratification and the Family System
- 第8回: Gender Roles, Sexuality, and Work
- 第9回: Ethnicity and Japaneseness
- 第10回: Migration and Minority Groups
- 第11回: Religions and Traditions
- 第12回: Popular and Diverse Cultures
- 第13回: Civil Society and Social Movements
- 第14回: Presentation Day1
- 第15回: Presentation Day2 and Conclusion

【事前および事後学習の指示】

Course preparations are required for each class attendance.

- 1) Readings (1-2 specified articles or chapters/week)
- 2) Group Discussion Leading/Semester (a 1-page handout with discussion questions)
- 3) Paper Presentation (an oral presentation and handouts)
- 4) Literature Review Paper (Topic, Question, Reference List, Outline, 1st draft, Final Pape...etc.)

【テキスト】

An Introduction to Japanese Society (Fifth Edition) Yoshio Sugimoto  
ISBN-13 : 978-1108724746 Cambridge University Press  
Main textbook for this course

【参考文献】

Tosh Minohara (ed.). 2024. Handbook of Japan's Foreign and Domestic Policies during the Decade of Abe. MHM. ISBN: 9784909286321  
Other reading materials will be provided in class or via the Moodle Course Site.

【コメント】

You will demonstrate your critical thinking and understanding of this course with  
1) a variety of in-class assignments including group discussions (40%),  
2) a presentation of your project (20%), and  
3) a literature review paper (40%).

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)

英語による授業です。交換留学生と日本人学部生との混合授業を予定しています。英語ネイティブ話者よりも欧州と東南アジアからの英語を第2言語とする留学生の受講者が大半で、授業は留学経験のない日本人学生と共に日本社会を学ぶ形式をとっています。受講者数を制限していませんが、通常10~30名ほどの小規模授業となります。

講義名称	曜日
国際政治史 A <春>	水 2

【教員名称】

塚田 鉄也

【講義概要】

国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、16世紀から第一次世界大戦までの近代国際政治史上の主要な出来事を学びながら、国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを考察します。

【学習目標】

- ①近代国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる
- ②国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを理解し、説明できる

【講義計画】

- 第1回: 近代国際政治史を学ぶ意義
- 第2回: 国際政治の基本構造
- 第3回: 16世紀のヨーロッパ
- 第4回: 三十年戦争とウェストファリア体制
- 第5回: 勢力均衡の時代①: 同盟の論理
- 第6回: 勢力均衡の時代②: 小国の運命
- 第7回: 革命の時代
- 第8回: ウィーン体制の形成と展開
- 第9回: パクス・ブリタニカ
- 第10回: 新たな勢力の登場①: ドイツ
- 第11回: 新たな勢力の登場②: アメリカ
- 第12回: 帝国主義の時代①: 帝国主義の諸相
- 第13回: 帝国主義の時代②: 大関係
- 第14回: 第一次世界大戦
- 第15回: まとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】

国際政治史—主権国家体系のあゆみ(新版) 小川浩之・板橋拓己・青野利彦  
9784641151260 有斐閣

【参考文献】

岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一(編)『ハンドブック ヨーロッパ外交史—ウェストファリアからブレグジットまで』(ミネルヴァ書房、2022年)

【コメント】

各回の内容について課される確認テスト(M-Portの「テスト」を利用)により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
国際政治事情研究 A <春>	土 4

遠隔授業(オンデマンド型)

【教員名称】

松村 昌廣

【講義概要】

ビデオ(全体の35%程度)その他資料を活用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進めます。もっとも、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではありません。当然、高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを前提にしています。この講義により発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを事例を示しながら学生の理解に繋げることを目標としています。

【学習目標】

政治学、社会学、経済学など社会科学の基礎をよく理解した学生を念頭に講義を行います。つまり、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をしっかり学習してきたことを前提にしています。この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するためはじめに初歩的な理論的考察を行い、その後いくつかの重要なケーススタディーに取り組みます。ただし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能ですから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性を考慮して、民族紛争、宗教紛争、国際テロを取り扱うこととします。

【講義計画】

- 第1回： 国際関係論と地域研究  
 第2回： システム論的アプローチ  
 第3回： 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」  
 第4回： 民族紛争(1)アイデンティティ、宗教、民族  
 第5回： 民族紛争(2)ユーゴスラビア紛争  
 第6回： 民族紛争(3)コソボ紛争  
 第7回： 民族紛争(4)民族紛争(5)フランスにおける移民問題・・・アラブ系移民を中心に  
 第8回： 民族紛争 まとめ  
 第9回： 国際テロ・アフガン問題(1)国際政治と宗教(イスラム教)  
 第10回： 国際テロ・アフガン問題(2)国際政治と宗教(ユダヤ教)・・・イスラエルを焦点に  
 第11回： 国際テロ・アフガン問題(3)中東戦争  
 第12回： 国際テロ・アフガン問題(4)アフガン反テロ作戦  
 第13回： 国際テロ・アフガン問題(5)イラク戦争  
 第14回： 国際テロ・アフガン問題 まとめ  
 第15回： 全体のまとめ・試験

【事前および事後学習の指示】

講義に合わせて、参考文献の該当部分を予習・復習で読解すること。

【テキスト】

【参考文献】

松村昌廣『動揺する米国覇権』現代図書  
 高木徹『ドキュメント 戦争広告代理店～情報操作とボスニア紛争』講談社文庫  
 山本賢蔵『右傾化に魅せられた人々～自虐史観からの解放』河出書房新社

【コメント】

講師が設定した問題と手順で、受講生に講義で扱った内容を基に持ち帰りのレポート試験(2500字～3000字)の作成・提出を求めます。十分な時間(恐らく週末を含め7～10日以上の期間)を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。

【留意事項】

講義名称	曜日
国際法 A <春>	火 1

【教員名称】

軽部 恵子

【講義概要】

この講義では、国際法の基礎を学びます。具体的には、近代国際法が誕生した歴史、国際法の重要原則、国際法の最も重要な主体である国際法上の国家を取り上げます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがよくわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。国際法の第2回から第4回は、国際機構論Aの第2回から第4回と同じ教材を用いますが、国際法の視点から考えていくため、同じ講義内容ではありません。西洋を中心とした近現代史の基礎知識は、国際法を理解する上で大前提です。就職試験の筆記試験にも出題されます。講義冒頭では、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際法の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

【学習目標】

- ①国際社会が成立する歴史的背景(大航海時代から20世紀初めまで)を理解する。
- ②国際法の基礎知識、とくに国家主権・管轄権・領域に関するものを修得する。
- ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。
- ④メディア・リテラシーを身につける。

【講義計画】

- 第1回： 国際法とは何か  
 第2回： 戦争と平和の法(1)大航海時代、宗教改革、三十年戦争  
 第3回： 戦争と平和の法(2)フランス革命とナポレオン戦争  
 第4回： 戦争と平和の法(3)ハーグ平和会議と赤十字国際委員会  
 第5回： 国際法の基本原則 ※この回から条約集を毎回持参してください。  
 第6回： 国家(1)国際法上の国家  
 第7回： 国家(2)属地主義と国籍主義  
 第8回： 国家(3)犯罪人引渡し  
 第9回： 国家(4)領域の得喪  
 第10回： 国家(5)領土紛争  
 第11回： 国家(6)海洋法① 無害通航権  
 第12回： 国家(7)海洋法② 通過通航権  
 第13回： 国家(8)海洋法③ 排他的経済水域、公海、深海底  
 第14回： 国家(9)領空と宇宙空間  
 第15回： まとめ、期末試験

【事前および事後学習の指示】

毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。

【テキスト】

国際条約集 2025  
 有斐閣

【参考文献】

加藤信行『ビジュアルテキスト国際法』第3版(有斐閣、2022年)、中谷和弘他『国際法』第5版(有斐閣、2024)、浅田正彦他『国際法』第5版(東信堂、2022)、大沼保昭『国際法』(ちくま新書、2018)、祝田秀全『知識ゼロからの戦争史入門』(幻冬舎、2020)、西谷修『ロジェ・カイヨワ 戦争論：文明という果てしない暴力』(NHK出版、2024)、田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』(ナツメ社、2021)

【コメント】

計2回の試験のみで成績評価を行います。出席は成績評価に全く関係ありません。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。

【留意事項】

- ・教科書である条約集は第5回から毎回使います。試験問題の一部は、最新版の条約集を用いて解答する形式です。
- ・条約集で採用する条約・宣言等は、毎年入れ替わっています。条約に入っている国のデータは、毎年更新されています。
- ・国際法Bを履修する予定の人は、Aを先に受講した方が、理解が格段に高まります。
- ・聖書とギリシア神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。

講義名称	曜日
コンピュータ論Ⅱ <春>	水 3

【教員名称】

榎本 光世

【講義概要】

コンピュータを、より深く理解し、より広い用途に効率的に利用するためには、その動作原理について基本的なことから知っておく必要がある。そのためにはその動作原理の数学的な理解が必要である。本講義では、まず、2進数と基数変換から始め、集合、論理演算と続き、確率と統計、そしてデータ構造やアルゴリズムを学習する。これらが特に数学的な要素を多く含む学習範囲であり、これらは必ず成績評価試験に出題する。全ての講義内容は相互に関連性を持つので、一度でも欠席すれば、試験に回答するための知識を得られない可能性が少なくない。

【学習目標】

ICTとは何かを理解し、個人(従業員、経営者、消費者)の立場からのICT利用、それに組織体(企業、行政、非営利組織)の利用に関して認識を深め、様々な立場やレベルにおけるICTの利用が社会に与える影響について考察できるようになる。

【講義計画】

- 第1回: 講義概要: 講義内容の説明と諸注意
- 第2回: 基数表現(2進数、10進数、16進数)、集合と論理演算
- 第3回: 確率と統計、情報量の単位、デジタル化と文字表現
- 第4回: コンピュータのハードウェア1; 電子工学以前のコンピューター、算盤>機械(歯車)式計算機>継電器(リレー)>真空管
- 第5回: コンピュータのハードウェア2; 電子工学黎明期のコンピューター(コンピューターの発明) 半導体>トランジスタ>IC>コンピューター
- 第6回: 電子ネットワーク; コンピューターとデータ通信(専用線、公衆網、インターネット、FTC)
- 第7回: コンピュータのソフトウェア1; OSとアプリ、ソフトウェア開発(顧客の要求分析)の困難性
- 第8回: コンピュータのソフトウェア2; ソフトウェア・クライシス; フレドリック・ブルックス『人月の神話』、エドワード・ヨードン『デスマーチ』)
- 第9回: コンピュータのソフトウェア3; フローチャート、ウォーター・フォール・モデル
- 第10回: コンピュータのソフトウェア4; いろいろなコンピュータ言語(低水準言語と高水準言語)
- 第11回: コンピュータのソフトウェア5; コンピューター言語の実際(C言語、VisualBasicのコーディング)
- 第12回: 経営と情報化  
コンピューター時代を理解する様々なキーワード(ネオダム、ゲーム化、クラウド、ビッグ・データ、スマホ)
- 第13回: 社会と情報化  
アルビン・トフラー『第三の波』、ニューエコノミー論、ネットワーク革命、デジタル・ディバイド、スマホ依存症、SCOT
- 第14回: 情報社会に関する近年の話題と未来への展望
- 第15回: 予備時間、まとめ

【事前および事後学習の指示】

前回までの内容を簡単に復習してから講義にのぞむこと。宿題は理由の如何を問わず必ず期限内に提出すること。

【テキスト】

【参考文献】

遠山暁、他『経営情報論』有斐閣アルマ、その他参考書は講義中に指示する。

【コメント】

第1回目の講義中に重要な説明があるので、必ず出席すること。毎回出席を取る。M-Portの「テスト」機能で小テストを何回か実施する。この全てのテストを期限内に提出しない場合には単位習得は困難になる。また、3回以上欠席した場合は、単位を取得できない場合がある。

参考書に関しては開講時に指示説明する。必要に応じてPDFファイルを配布する。私語厳禁。講義中にはスマホや携帯電話などの利用を一切認めない。成績不振や欠席多数で単位の修得が危ぶまれる場合、この問い合わせには応じない。

【留意事項】

プログラマーとしての実務経験があるので、プログラム作成現場の体験談を説明可能。また、いわゆる文系出身プログラマーなので、文系受講生にもわかりやすくプログラミングを説明できる。

社会人の方へ(聴講に際して)

一般の学生と同様に授業中に指名して、意見を尋ねる場合もある。

講義名称	曜日
産業構造論Ⅰ <春>	金 4

【教員名称】

義永 忠一

【講義概要】

日本経済を取り巻く環境は、常に変化の中にあります。アベノミクス以降の為替変動(円安)でも輸出が伸び悩み産業構造が変化しと指摘されました。そして2020年に起こった新型コロナウイルスの感染拡大による、「新状態」への模索があります。さらに2022年ロシアによるウクライナ侵攻、2023年には中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつあります。産業構造論Ⅰでは、これまでの日本の産業構造に関する議論を丁寧に追いつながり、現在に至る道筋を説明します。そして、受講者とともに今後の方向性を議論していきます。

【学習目標】

産業構造に関する議論を、歴史的な背景とともに理解できる事を学習目標とします。

【講義計画】

- 第1回: 産業構造論Ⅰについて-講義概要と評価方法について-その1
- 第2回: 産業構造論Ⅰについて-講義概要と評価方法について-その2
- 第3回: 産業構造とはなにか 一政策の視点一
- 第4回: 経済自立期の構造と政策一官の役割一
- 第5回: 経済自立期の輸出産業の存在一民の復興一
- 第6回: 1960年代の日本経済 一モータリゼーション前夜一
- 第7回: 1970年代の日本経済 その1一開放政策 官民の温度差一
- 第8回: 1970年代の日本経済 その2一石油危機下の経済変動と政の存在感一日本の生産システムの確立を捉える一
- 第9回: 環境変化と産業構造 (1)一日本の生産システムと情報化一その1
- 第10回: 環境変化と産業構造 (2)一日本の生産システムと情報化一その2
- 第11回: 環境変化と産業構造 (3)一国際化・グローバル化一
- 第12回: 環境変化と産業構造 (4)一プラザ合意・バブル経済一
- 第13回: 環境変化と産業構造 (5)一バブル崩壊後~2001年頃一
- 第14回: 失われた20年から現在までとこれからの産業構造
- 第15回: 産業構造の変化と日本経済(まとめ)と試験

【事前および事後学習の指示】

事前に、貿易収支等、新聞等で掲載される経済統計について目を通しておく事が、講義の理解に役立ちます。

【テキスト】

【参考文献】

鶴田俊正/伊藤元重(2001)『日本産業構造論』NTT出版を、本講義では中心に取り扱っています。しかし、最新のデータ及びこれまでの研究を補足しながら講義を展開しますので、参考文献として挙げます。

【コメント】

試験【60%】: 論述による試験を実施します。各講義で提示されるテーマについて、その都度、学習する事が試験において重要となります。

その他【40%】: WebClassを通じた課題を課します。

その他【40%】の取り扱いについては、第1回講義内で詳細をお伝えします。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
産業社会学[2] <春>	木 1

【教員名称】

萩原 久美子

【講義概要】

納得のいく働き方がしたい。そのための一歩は雇用労働と管理のありかたを理解することから始まる。本講義はその実践のための基本的知識と雇用労働の変化について学ぶ。講義は日本型雇用システムを中心に、大きく三つの領域から雇用労働の変化と現在を考察する。第一に、労働や雇用を「管理」する基礎的な理論について取り上げる。第二に、日本型雇用システムの基本的な諸特徴と雇用管理上の基本的運用について学ぶ。第三に、社会変動と産業構造の変化とともに、企業における雇用管理がどのように変化したのか。またその変化が人々の生活をいかに形規定していったのか。政策の動きや財界の提言、さらにその社会的背景や国際的な動向とからめながら考察する。新聞記事や映像、企業情報などを通して、マネジメントの手法に映し出される企業組織の「働き方」と働く者が求める「働き方」とのせめぎあいの中から、納得のいく働き方、労働のありかたについてともに考える。

【学習目標】

- ①日本の雇用システムの雇用管理に関する基本概念と知識を理解し、日常生活の身近な課題として考察できるようになること。
- ②産業、労働力の変化が雇用管理に与えたインパクトと課題を説明できるようになること。
- ③日常での経験と結びつけながら雇用労働のありかたを社会的に見る視点と実践的な知識を身につけること。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：本講義の概要と進行、受講にあたっての注意事項を説明する
- 第2回：労働と管理のまなざし① 組織と科学的管理法、人間関係論
- 第3回：労働と管理のまなざし② あなたの「やる気」のマネジメント
- 第4回：考察①雇用とこれからの暮らし 企業との関係をどう考えるか
- 第5回：日本型雇用システムを知る① 終身雇用は本当か？ 日本的雇用の諸特徴——採用から定年まで
- 第6回：日本型雇用システムを知る② 能力って何のことか？ 人事制度——職務と職能、役割、成果
- 第7回：日本型雇用システムを知る③ 年功序列はやめるべきか？ 評価と人事考課、昇進昇格の仕組み
- 第8回：日本型雇用システムを知る④ あなたの給料はいくらか？ 賃金制度の変遷と今
- 第9回：日本型雇用システムを知る⑤ 雇用の流動化はいいことか？ 能力開発とキャリア
- 第10回：まとめと補論
- 第11回：社会と企業組織との結びつき① なぜパートに女性が多いのか？ 日本社会の労働力編成と企業組織のフレキシビリティ
- 第12回：社会と企業組織との結びつき② 働き方はどう改革されたのか？ 労働時間管理と現状
- 第13回：社会と企業組織との結びつき③ 働かないと生きていけないのか？ 雇用を通じた「福祉」とその行方
- 第14回：考察②雇用とこれからの暮らし 豊かな暮らしとは？
- 第15回：まとめと補論

【事前および事後学習の指示】

講義資料は印刷し、ノートとして用いること。  
小テスト、レポートを課すので、配布プリント・資料で講義内容を確認し、キーワードやポイントの整理を行うこと。  
配付資料や指定された資料を読み、講義の予習、復習を行うこと。

【テキスト】

【参考文献】

上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房  
佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス  
中西啓喜、萩原久美子、村上あかね編著『大学生から見るライフコース』ミネルヴァ書房  
その他授業内でテーマに関連した文献や資料を配付、紹介する。

【コメント】

- ①評価対象とする試験：各テーマに関する小クイズ
- ②評価対象とするレポート：学習目標にそった課題に関するレポート
- ③その他：受講に対する積極性等

【留意事項】

報道現場の経験者が企業での人事労務管理の実際を踏まえて講義する

講義名称	曜時
産業心理学 A <春>	水 3

【教員名称】

向井 有理子

【講義概要】

産業心理学は職場や組織における行動を科学的に明らかにする分野です。本講義では、集団や組織、“仕事”にかかわる諸問題にかかわる理論を取り上げ、実際の課題について産業心理学の知見を学びます。

【学習目標】

- ①組織や仕事の場面における課題について産業心理学の知見に基づいて説明できる
- ②現在の産業場面の諸問題について、産業心理学の知見に基づいて提案ができる

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：産業心理学の考え方や授業で取り上げる内容について
- 第2回：グループダイナミクス①：集団の中での行動
- 第3回：グループダイナミクス②：集団での意思決定
- 第4回：グループダイナミクス③：集団内での協力と摩擦
- 第5回：グループダイナミクス④：集団間での協力と摩擦
- 第6回：ワークモチベーション①：モチベーションの理論
- 第7回：ワークモチベーション②：ワーク・エンゲージメント
- 第8回：ワークモチベーション③：自己決定の重要性
- 第9回：人的資源管理①：人事評価
- 第10回：人的資源管理②：雇用形態の多様化
- 第11回：現代的課題についてのグループワーク①：組織のダイバーシティ
- 第12回：キャリア①：キャリア発達
- 第13回：キャリア②：多様なキャリア
- 第14回：現代的課題についてのグループワーク②：働き方の今後
- 第15回：総括試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】

教科書は事前に読んで理解しておくこと。身近な問題やニュースについて、学習した内容から考えて、自分なりの意見が言えるように整理しておくこと。

【テキスト】

産業・組織心理学 TOMORROW 田中健吾・高原龍二  
978-4-8429-1793-1 八千代出版

【参考文献】

【コメント】

- ①最終日に総括課題として試験を実施します。
- ②現代的問題に関してはワークのための準備課題と事後の報告課題をレポート課題として実施します。
- ③その他、小テストや簡易ワークへの貢献を評価に含みます。

【留意事項】

講義形式が中心になりますが、現代的課題のワークの回では、グループでのディスカッションを行ってまいります。積極的に取り組んでください。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
産業心理学B <春>	水4

【教員名称】

向井 有理子

【講義概要】

産業心理学は職場や組織における行動を科学的に明らかにする分野です。本講義では、組織運営や産業場面における人の動きにかかわる理論を取り上げ、実際の産業場面に対する心理学の可能性について説明する。

【学習目標】

- ①産業場面における人の行動を、産業・組織心理学の観点から説明できる。
- ②産業場面の課題、組織における問題解決に対して、産業・組織心理学に基づいた提案ができる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：産業・組織心理学の考え方や授業で取り上げる内容について
- 第2回：リーダーシップ①：リーダーシップの基礎、特性論、行動論
- 第3回：リーダーシップ②：状況論、認知論
- 第4回：リーダーシップ③：関係論、変革論
- 第5回：現代的課題についてのグループワーク①：パワーハラスメント
- 第6回：ストレス①：ストレスの理論
- 第7回：ストレス②：仕事とストレスの問題
- 第8回：ストレス③：職場のメンタルヘルスケア
- 第9回：消費者行動①：消費者行動の理論
- 第10回：消費者行動②：広告の効果、販売のテクニック
- 第11回：消費者行動③：消費者の選択と満足
- 第12回：ヒューマン・ファクター①：安全とヒューマン・ファクター
- 第13回：ヒューマン・ファクター②：リスク・コミュニケーション
- 第14回：現代的問題についてのグループワーク②：事故防止
- 第15回：総括試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】

授業内では教科書の全てについて説明することができないため、授業前や授業後に教科書を読んで理解を深めること。  
身近な問題やニュースについて、学習した内容から考えて自分なりの意見が言えるように整理しておくこと。

【テキスト】

産業・組織心理学 TOMORROW 田中健吾・高原龍二  
978-4-8429-1793-1 八千代出版

【参考文献】

【コメント】

- ①最終日に総括課題として試験を実施します。
- ②現代的問題に関してはワークのための準備課題と事後の報告課題をレポート課題として実施します。
- ③その他、小テストや簡易ワークへの貢献を評価に含みます。

【留意事項】

講義形式が中心になりますが、現代的課題のワークの回では、グループでのディスカッションを行ってまいります。積極的に取り組んでください。

講義名称	曜日
ジェンダー論[2] <春>	木2

【教員名称】

村上 あかね

【講義概要】

生物学的な性のあり方(セックス)に対して、社会的・文化的・心理的な性のあり方をジェンダーとよぶ。ジェンダー論を学ぶことは、グローバル化する社会の「世界市民」にとって基本的な教養といえる。レディスターデーがあるのはなぜだろうか？女性専用車両があるのはなぜだろうか？ミス・ミスターコンテストをしたほうが学園祭は盛り上がるのか？「103万円の壁」が話題になったのはなぜか？このような疑問から出発し、世の中の動きを知り、自分が当たり前だと思っている「男らしさ」や「女らしさ」を見直すことに挑戦することで、社会の見方が変わるだろう。これまで学んだ社会学の理論・学説だけではなく、経済学、人口学、人類学などの理論・学説も応用しながら、なぜかを徹底的に考え、知的な喜びを味わう授業とする。レジュメは最小限の内容しか書かないので、メモを取ることを心掛けてほしい。毎回、授業中にA4用紙1枚分のコメントを書くので、受講にあたっては知的好奇心と知的柔軟性に満ちた積極的な姿勢を望む。くし引きによるグループディスカッション、ディベートやロールプレイングも行うので、学部学年性別を超えて、グループワークが上手になりたい人におすすめである。

【学習目標】

- この講義の目標は、以下の3点である。
- 1. 学校・家庭・職場に焦点をあてて、私たちの生き方がジェンダーと関係がある現実を知り、その背後にあるメカニズムを理解する。
- 2. ジェンダーの問題を理解するために必要な用語やもの見方を学び、自分でも使えるようになる。
- 3. 性別役割分業体制が根強い日本では、女性だけではなく男性も困難な状況におかれていることを理解し、性別にかかわらず一人ひとりの違いを尊重できる社会を築くためにはどうすればよいか、問題を解決するための視点を養う。
- 3・4年生向けの授業なので、自律した学習者であることを強く期待する。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス——社会学とジェンダー論の視点
- 第2回：セクシュアル・マイノリティを取り巻く現実
- 第3回：子どもの社会化とジェンダー
- 第4回：教育におけるジェンダー平等
- 第5回：言葉とジェンダー
- 第6回：就活とジェンダー規範
- 第7回：労働におけるジェンダー格差
- 第8回：恋愛の変容と多様化する家族
- 第9回：趣味・推しとジェンダー
- 第10回：ライフコースリスクとジェンダー
- 第11回：ケア役割とジェンダー
- 第12回：ファッションとジェンダー
- 第13回：パーソナルネットワークとジェンダー
- 第14回：戦争・軍隊とフェミニズム
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

レジュメはM-Port 経由で配布するので、事前に目を通しておくこと。毎回、教科書該当箇所および授業内容の理解が深まる YouTube や公式ウェブサイトを示すので、予習・復習をすること。毎回の講義で取り上げた内容に関するニュースを自身で探すこと。授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。

【テキスト】

ジェンダーで学ぶ社会学〔第4版〕伊藤公雄・牟田和恵・丸山里美編  
紙版はまだ ISBN 見当たらず 世界思想社  
Kindle 版もあります

【参考文献】

中西啓吾・萩原久美子・村上あかね編, 2024, 『大学生からみるライフコースの社会学』ミネルヴァ書房  
クラウディア・ゴールドフィン, 2023, 『なぜ男女の賃金に格差があるのか——女性の生き方の経済学』慶應義塾大学出版会  
平芳裕子, 2024, 『東大ファッション論集中講義』筑摩書房

【コメント】

レポートでは到達目標に対応するテーマに関する選択および論述問題を出題する(2回を予定。35%+35%)。授業内容を踏まえたうえで自身の考えを説得的に述べているかどうか、論理的な構成および論述にふさわしい日本語になっているかどうかに重点を置いて評価する。その他は、毎回の授業内容に関するテストである(30%)。  
「～を出せば大丈夫ですか」「出席していないのですが大丈夫ですか」「内定があるのですが」「追加課題を出してください」などと教員や教務課に尋ねないこと。出席に対する加点はない。

【留意事項】

実務経験のある教員による授業① 政府・地方自治体、日本学術会議等の委員経験、データアーカイブの運営経験を持つ教員が政府および地方自治体での社会調査の実施・利用、政策について解説・講義する。

社会人の方へ(聴講に際して)

学部生の知識と能力を高めることが授業の目的であることをご理解のうえ、授業には原則毎回出席し、教科書を持参し、グループワークにも参加してください。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
視覚メディア論 <春>	月 3

【教員名称】

有國 明弘

【講義概要】

本講義では、19世紀から現代にいたるまでの視覚メディアの造形的特質、誕生した社会的・歴史的・文化的・技術的背景、さらに私たちの社会生活に及ぼす影響などについて幅広く理解することを目指す。映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布(あるいは Google フォームでのアンケート機能や M-Port の各機能等を活用)し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。

【学習目標】

本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。

- ・視覚メディアに関する基礎的概念や理論を習得する。
- ・視覚メディアにいかなる技術や要素が盛り込まれているのか理解する。
- ・視覚メディアについて批判的に読み解く能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：「盛り」と「映え」をたどる
- 第3回：視覚と触覚と地図
- 第4回：メディアとプラットフォーム①(SNS編)
- 第5回：メディアとプラットフォーム②(動画編)
- 第6回：メディアとプラットフォーム③(ソーシャルメディアと文化編)
- 第7回：グローバリズムと個人化
- 第8回：コミュニケーション資本主義
- 第9回：監視資本主義-ソーシャル・ジレンマ
- 第10回：ソーシャルメディアと「炎上」
- 第11回：ソーシャルメディアとフェミニズム
- 第12回：ハリウッド映画と女性表象
- 第13回：健康の不安はメディアで解消されるのか？
- 第14回：「偽り」の情報を生み出すデジタル社会
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】

- 伊藤守編, 2019, 『コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求——ポスト・ヒューマン時代のメディア論』東京大学出版会  
松井広志・岡本健編著, 2021, 『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版

【コメント】

毎回の授業課題を 30%、期末レポートを 70%として成績評価を行う。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会学 A 02<春>	土 5

遠隔授業(オンデマンド型)

【教員名称】

長崎 励朗

【講義概要】

【授業の目的・ねらい】

この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学の学びを通じて①現代社会の特性、②生活の多様性、③人と社会の関係、④社会問題とその背景の理解を深めることを目指す。なお、講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学および介護福祉士の人間と社会に関する選択科目の出題基準に対応して進める。

【授業全体の内容の概要】

社会学は家族から世界社会までの多種多様な社会的な場と、そこに生じるあらゆる問題や現象を対象とする。すでに 200 年近い歴史を持つ社会学には、これまでの多くの知識が蓄積されており、さらには現在も日々新たな認識が生産されている。この講義ではまず社会理論と社会システムという大きな枠組みを設定し、その後現代社会の諸相についての社会的達成点を解説し、現代社会の全体像を明らかにする。

【学習目標】

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

この講義を終了時には知識と視野を広げ多角的な視点を獲得ができており、問題解決や意味解釈の力が身につけていることを目指す。

【講義計画】

- 第1回： 1. 社会学の視点：社会学の歴史と対象
- 第2回： 2. 社会構造と変動：(1) 社会システム
- 第3回： 3. 社会構造と変動：(2) 組織と集団
- 第4回： 4. 社会構造と変動：(3) 人口
- 第5回： 5. 社会構造と変動：(4) グローバリゼーション
- 第6回： 6. 社会構造と変動：(5) 社会変動
- 第7回： 7. 社会構造と変動：(7) 地域と環境
- 第8回： 8. 市民社会と公共性：(1) 社会的格差
- 第9回： 9. 市民社会と公共性：(2) 社会政策と社会問題
- 第10回： 10. 市民社会と公共性：(3) 差別と偏見
- 第11回： 11. 市民社会と公共性：(4) 災害と復興
- 第12回： 12. 生活と人生：(1) 家族とジェンダー
- 第13回： 13. 生活と人生：(2) 労働と生活
- 第14回： 14. 自己と他者：(1) 社会化
- 第15回： 15. 自己と他者：(2) 相互行為

【事前および事後学習の指示】

講義内で紹介した書籍を適宜読み込むこと。  
半期の間に 3冊から 5冊は読ましてほしい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
社会学 A 04<春>	火 2

【教員名称】

彭 永成

【講義概要】

●社会学の成立とその展開

「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会的なものの見方」を獲得することを目指す。

【学習目標】

- (1)「社会学」とはなにを目指す学問なのか？を自分の言葉で説明できるようになること
  - (2)社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ(偏見)」を批判する視点を獲得すること
  - (3)自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること
- 以上を通じて社会に生きる「私(個人)」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた(他者)」への想像力と感受性を育み、社会的な視点を身につける。

【講義計画】

- 第1回：はじめに——社会学とは何か
- 第2回：社会学のアプローチと方法
- 第3回：近代社会の登場と社会学の誕生
- 第4回：自我の発達と他者
- 第5回：地位と役割
- 第6回：集団と組織
- 第7回：アメリカン・ドリームと移民
- 第8回：都市の発展と秩序
- 第9回：逸脱と社会統制
- 第10回：学歴主義と脱学校化
- 第11回：社会的格差と階級・階層
- 第12回：家族とライフコース
- 第13回：ジェンダーとセクシュアリティ
- 第14回：新しい貧困と社会的排除・包摂
- 第15回：まとめ—社会学の過去と現在

【事前および事後学習の指示】

授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。  
授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。

【テキスト】

【参考文献】

- 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学(新版)』2019年、有斐閣、3,850円(ISBN 978-4-641-05389-2)
- 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021年、有斐閣、2,750円(ISBN 978-4-641-17461-0)
- 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021年、丸善出版、3,800円(ISBN 978-4621305553)
- 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編、『大学生からみるライフコースの社会学』2024年、ミネルヴァ書房(ISBN 978-4623097807)

【コメント】

「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、コロナ禍などで、授業形態が変更になる可能性があります。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会学特講-格差社会を理論的に読み解く <春>	水 2

【教員名称】

藤田 悟

【講義概要】

近年、日本社会において格差と貧困が急速に拡大しつつある。雇用・社会保障・教育・「自己責任」論などなど、格差社会をめぐる論点は多岐に渡っている。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進めている論理を学ぶとともに、格差社会に対抗する思想・論理を皆さんと探っていききたい。

【学習目標】

「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的(根本的)な問いに正面から向き合い、答えられるようになってほしい。また、「格差社会」の構造と問題点について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してほしいと思う。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
イントロダクション—高等教育の費用と権利
- 第2回：イントロダクション—高等教育の費用と権利Ⅱ
- 第3回：格差とは何だろうかⅠ—格差は「問題」なのか
- 第4回：格差とは何だろうかⅡ—格差はなぜ「問題」なのか
- 第5回：貧困とは何だろうかⅠ—貧困の「発見」
- 第6回：貧困とは何だろうかⅡ—貧困の「境界」
- 第7回：生活保護の歴史と課題Ⅰ—歴史と制度解説
- 第8回：生活保護の歴史と課題Ⅱ—現状と課題
- 第9回：現代日本における貧困Ⅰ—ワーキングプアの増加とその要因
- 第10回：現代日本における貧困Ⅱ—ワーキングプアを生む構造
- 第11回：格差社会のイデオロギーⅠ—機会の平等と結果の平等
- 第12回：格差社会のイデオロギーⅡ—「自立」と「依存」
- 第13回：格差社会を克服する思想Ⅰ—<自立-依存>再考
- 第14回：格差社会を克服する思想Ⅱ—<機会の平等>再考
- 第15回：まとめ—格差社会の今後

【事前および事後学習の指示】

参考文献のいずれか一冊以上、事前に読んでおくこと。また講義では資料として新聞記事を多数使用するので、普段から新聞を読む習慣を身に付けておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

- 阿部彩『弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書、2011年。
- 岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書、2007年。
- 後藤道夫他『格差社会とたたかう—(努力・チャンス・自立)論批判』青木書店、2007年。
- 湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年。その他の文献は講義中に適宜紹介する。

【コメント】

授業期間中に複数回小レポートを課し、その合計点で評価する。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会思想史Ⅰ <春>	金 4

【教員名称】

梅田 百合香

【講義概要】

本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な社会思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。

【学習目標】

受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的な知識を身につけることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：講義ガイダンス  
ソクラテスの問い(1)ソクラテス裁判
- 第2回：ソクラテスの問い(2)無知の知
- 第3回：第1回試験およびまとめ
- 第4回：プラトンの哲人王(1)正義の追究
- 第5回：プラトンの哲人王(2)哲人王の構想
- 第6回：第2回試験およびまとめ
- 第7回：アリストテレスの倫理学(1)倫理学の方法と対象
- 第8回：アリストテレスの倫理学(2)徳の探究
- 第9回：第3回試験およびまとめ
- 第10回：アリストテレスの政治学(1)ポリスと人間
- 第11回：アリストテレスの政治学(2)国制論
- 第12回：第4回試験およびまとめ
- 第13回：キケロの共和主義(1)正義と慈善
- 第14回：キケロの共和主義(2)共和主義
- 第15回：第5回試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

各思想家について、参考文献の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。  
講義中はノートを取り、授業後スライドの内容と照らし合わせて講義内容をノートにまとめ直し、復習しておくこと。

【テキスト】

テキストは使用しない

【参考文献】

- 山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。
- 宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。
- 仲正昌樹編著『政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。

【コメント】

5回の小テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。  
この5回のテストで、授業内容を踏まえた専門的な知識が身についているかどうかを評価する。  
5回以上欠席した場合(公認欠席含む)、成績評価対象外となるので注意すること。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
成績評価はないが、小テストを受けることができ、自分の理解力を確認することができる。授業では、レスポンスシートへの回答が求められる。

講義名称	曜日
社会心理学[2] <春>	水 1

【教員名称】

岩田 考

【講義概要】

社会心理学は、人間の行動を社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。授業では、アイデンティティや流行などみなさんの身近な具体的な事例をとりあげつつ、社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の研究を紹介します(授業を行う時期に注目されている現象なども取り上げるため、扱う現象を若干変更する可能性があります。)

講義を聴いていないと単位修得は難しいため、就職活動などで欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。また、社会学の基礎知識や社会学への興味関心がまったくないと理解が難しい部分があります。社会学科以外の学生の方は、慎重に履修してください。なお、何かの配慮を必要とする場合には、講義が開始してからなるべく早い時期に相談するようにしてください。

【学習目標】

「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合もありますが、社会学的な研究への寄与を常に念頭にいたものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違や共通点を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。社会学に固有の考え方を、社会心理学や心理学との関係において理解することが最終的な学習目標です。「純粋」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】

- 第1回：講義の概要
- 第2回：社会心理学とは
- 第3回：自己(1) 自己をめぐる現代的〈問題〉
- 第4回：自己(2) 映像から自己について考える  
※映像は数回の授業にわたって見ます。
- 第5回：自己(3) 心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第6回：自己(4) 社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第7回：集団(1) 集団とは・集団における意志決定
- 第8回：集団(2) 映像から集団における意志決定について考える  
※映像は数回の授業にわたって見ます。
- 第9回：集団(3) 集団における課題遂行と集団間差別
- 第10回：流行と集合行動(1) 集合とは・流行とは
- 第11回：流行と集合行動(2) 映像から現代のファッションの流行について考える
- 第12回：流行と集合行動(3) 映像から現代の集合行動(ネットとデモ)について考える
- 第13回：流行と集合行動(4) 流行と集合行動のゆくえ
- 第14回：心理化学・心理主義化 心理主義化する社会
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

各回の授業は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、事後学習として、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。

【テキスト】

【参考文献】

- 浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌—失われた十年の後に—』勁草書房
- 浅野智彦・岩田考ほか著 2010『考える力が身につく社会学入門』中経出版
- 安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店
- 池田知子・速藤由美 2009『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社
- 岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル—親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
- 松井豊・上瀬由美子 2007『社会と人間関係の心理学』岩波書店
- 未永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
- 『シリーズ情報環境と社会心理 1—8』北樹出版
- 『ニューセンチュリー社会心理学 1—6巻』北樹出版
- 『対人社会心理学重要研究集 1—7』誠信書房
- ※その他の参考文献は講義中に紹介します。

【コメント】

- ①レポートは、800字程度の論述課題を2つ出題する(60%)。  
なお、論述課題の内容は、第10回の授業以降にM-Portを通じて提示。M-Portから提出。
- ②その他は、各領域終了後に行う小テストおよび授業内容に関する課題(感想)(計40%)  
小テストは4回実施予定(20%)。課題についても4回程度実施予定(20%)。  
どちらもM-Portを通じて提出。

【留意事項】

シンクタンクでの調査業務の経験もふまえて授業を行う  
マーケティング調査業務の経験もふまえて授業を行う

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
社会ビジネスの理論と実践 I <春>	金 1

【教員名称】

西藤 真一

【講義概要】

近年、地域や社会が抱える課題の解決をミッション(使命)として、ビジネスの手法を用いて取り組むもの「ソーシャル・ビジネス」の取り組みが各地で見られるようになってきました。そのような公益的な活動を行う組織としては従来から NPO がありましたが、寄付だけでは活動資金を賄えないという現実的な課題にも直面してきました。

一方、民間企業においても社会的責任(CSR)を全うするという視点から公益にも目が向けられてきました。国連で SDGs が提唱されるようになると、社会的な課題に企業自身が取り組むこと自体が企業の新たなビジネスチャンスをもたらすとも理解されるようになりました。さらに、住民も参画した、協働・共創(co-production)によって社会の様々な問題に対処しようという動きも加速しています。

このように、近年、従来、公共が担うべき役割とされた社会課題の解決には、NPO や民間企業、住民など様々なアクターがかかわっていることがわかります。そこで、本講義では社会課題をビジネスの手法で解決しようとする「ソーシャル・ビジネス」について、おもに3つの視点を提示しながら解説します。

①社会課題の解決に向けたアクターをめぐる議論の展開(福祉国家・NPMの展開)

②社会的経済とサードセクターの役割(アクターの概念的整理)

③わが国におけるソーシャル・ビジネスの展開(経緯・事業戦略)

※講義計画は変更する場合があります。

【学習目標】

社会課題の存在に取り組む主体とその役割について理解できる

【講義計画】

第1回: イントロダクション: ソーシャル・ビジネスの展開に向けた期待と課題  
講義計画は予告なくマイナーに変更する場合があります。

第2回: 政府の役割: 公共サービスの提供

第3回: 経済政策思想はどのように変遷してきたか

第4回: 会社組織を考える

第5回: ソーシャル・エンタープライズ

第6回: 会社を取り巻く利害関係者

第7回: 企業の社会的責任

第8回: 中間まとめ(課題の提示)

第9回: SDGs にどう取り組むか: これまでの経緯と課題

第10回: 産業界の SDGs に向けた取り組み: 飛び恥

第11回: 今後のまちづくり

第12回: 企業同士はなぜ連携するのか

第13回: ソーシャル・イノベーション

第14回: ビジネスプランを作成してみよう

第15回: まとめ(課題の提示)

【事前および事後学習の指示】

高頻度で実施する授業中試験(ほぼ毎回とと考えてください)のために、学習内容の復習に取り組む必要があります。

【テキスト】

【参考文献】

・谷本寛治(2020)『企業と社会-サステナビリティ時代の経営学』中央経済社。

【コメント】

講義のたびに課題を提示し、その出来栄で評価する。なお、提出期限には一定の余裕を設けるため、公欠であっても課題に取り組む必要がある(ただし、1週間以上の期間にわたって大学が公欠を認める場合に限っては別途対応を検討する)。課題を提出しない場合は、その回は0点として処理する。教室への出席自体をプラス評価することはない。

授業は真面目に聞く態度のある学生を対象に行う。スマートフォンの操作、私語、居眠り、授業と関係のない事柄はすべて教室内の秩序を乱す迷惑行為であり、厳正に対処する。注意されるたびに最終成績から10点以上の減点を行う。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会保障法 A <春>	水 3

【教員名称】

楠本 敏之

【講義概要】

社会保障法全体にわたる総論的なテーマを最初の数回にわたって取り上げた後、年金、医療保障、社会手当といった個別分野についてより深くわかりやすく解説します。その中で随時、社会保障法上の今日的な課題・問題についても検討していきます。

【学習目標】

国民の生活にきわめて密着した分野である社会保障法について、その重要な基本的事項を正確に理解することを目的とします。より具体的には、各社会保障法の発展過程、法体系及び基本原理の理解に基づいて、個別の法制度についての基本的知識を習得できるようにします。

【講義計画】

第1回: ガイダンス～講義の進め方・方針など

第2回: 社会保障法総論(1)～社会保障を取り巻く現在の状況と社会保障の意義など

第3回: 社会保障法総論(2)～社会保障法の歴史と日本の社会保障法制度の現在までの発展の過程など

第4回: 社会保障法総論(3)～社会保障の保障方法など

第5回: 社会保障法総論(4)～社会保障の理論など

第6回: 年金(1)～年金制度の意義・役割・機能、沿革など

第7回: 年金(2)～国民年金法の具体的な仕組みなど

第8回: 年金(3)～厚生年金法の具体的な仕組みなど

第9回: 年金(4)～その他の年金制度など

第10回: 医療保障(1)～医療保険法の意義、沿革・体系、医療供給体制など

第11回: 医療保障(2)～医療保険法の具体的な仕組み①など

第12回: 医療保障(3)～医療保険法の具体的な仕組み②など

第13回: 医療保障(4)～その他の医療保障など

第14回: 社会手当など

第15回: まとめと今後の課題

【事前および事後学習の指示】

社会保障法は、体系的に理解することが特に重要な分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例等の資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、各講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。

【テキスト】

『社会保障法』(有斐閣アルマ・第8版)加藤智草ほか

9784641222113 有斐閣

社会保障法 B と共通

【参考文献】

岩村正彦編『社会保障判例百選(5版)』(有斐閣)

【コメント】

備考 学期末の2回のレポートのみで評価します(各50%)。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】

講義名称	曜日
障害者スポーツ論 A 01<春>	水 3

【教員名称】

植田 里美

【講義概要】

障がいのある人がスポーツをすることの意義や目的、障がい者スポーツの現状と課題について学ぶと共に、障がいや障がい者スポーツに関する知識を学ぶ。映像などを活用し理解を深めたり、実際の指導法を実技を交えて講義することもある。

【学習目標】

障がいや障がい者スポーツについての基本的知識を理解し、障がいのある人のスポーツ支援ができるようになる。

【講義計画】

- 第1回： ガイダンス、障がいおよび障がい者スポーツについて
  - ①授業に関する概要の説明
  - ②障がいおよび障がい者スポーツについての導入
- 第2回： 障がい者スポーツの意義と理念
  - 障がい者スポーツの歴史と動向
- 第3回： 障がいの概念と障がい者の状況
  - 障がい者スポーツに関する諸施策
- 第4回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅰ
  - ①身体障がい(肢体不自由①)
- 第5回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅱ
  - ①身体障がい(肢体不自由②)
- 第6回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅲ
  - ①身体障がい(視覚障がい)
- 第7回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅳ
  - ①身体障がい(聴覚・音声言語障がい、内部障がい)
- 第8回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅴ
  - ①知的障がい、発達障がい
- 第9回： 障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅵ
  - ①精神障がい
- 第10回： 障がい者との交流(実技または講義)
  - ①レポート
- 第11回： 障がい者スポーツ大会
  - ①パラリンピック
  - ②全国障害者スポーツ大会
- 第12回： 障がい者スポーツ推進の取り組み
  - ①地域での取り組み
  - ②障がい者スポーツ指導者制度
  - スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
- 第13回： 障がいに応じたスポーツの工夫
  - ①レポート
- 第14回： コミュニケーションスキルの基礎
- 第15回： まとめ及び試験

【事前および事後学習の指示】

新聞やテレビなどの障がい児・者スポーツに関する話題に目を通したり、障がい児・者の大会やイベントのボランティアを行うことで、より学びを深めることができます。

【テキスト】

障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)(公財)日本パラスポーツ協会  
9784324112502 ぎょうせい

【参考文献】

【コメント】

- ・第15回目にテストを実施します。(教室内で定期試験を実施できない場合は、M-Port上で行います)
- ・レポートは2回実施します。期限内に提出すること。
- ・「その他」は、毎授業に出す課題の提出および授業中の積極的な参加等で評価します。

【留意事項】

障がい者スポーツセンター勤務

講義名称	曜日
商取引法Ⅰ <春>	月 3

【教員名称】

大川 清植

【講義概要】

【本講義の目的】

経済社会において、共同企業(株式会社や各種の組合)や個人企業(商店街の店舗や飲食店)は、商法上の「商人」として商取引を通じて経済的利益を追求する組織です。これらの商人は、商取引活動を通じて相互に依存し、経済的共同体を形成しています。本講義では、商法典(商法総則・商行為)に基づき、商法の基本概念や関連する法制度を理解し、実務に役立てることを目的とします。なお、「商取引法」という科目名称は、講義上の用語に過ぎません。

＜商取引法Ⅰの重要性＞

商法は、商人が行う商取引に関する法律を規定しており、その適用範囲を理解することは商業活動にとって不可欠です。商人とは、商品を買ったりサービスを提供したりする企業や個人事業者を指し、商行為は具体的な商取引を行う法律行為を意味します。商人は、商品の仕入れや販売、サービスの提供を通じて商業活動を行い、この理解がビジネスの基礎となります。

受講生がこれらの基本概念を把握することで、商法の枠組みを理解し、法的視点からビジネスを考える力を養うことができます。商法は商人が行う取引や商業活動に関する法律であり、この理解はビジネスパーソンにとって非常に重要です。

企業が成長するためには、法的責任を持ち、公正な取引を行うことが求められます。商業登記は企業の情報を登録し信用を高める制度であり、商号は企業の名称としてブランドを形成し、顧客との信頼関係を築くために重要です。商業使用人は企業の業務を管理し、スムーズな運営を助けます。また、企業は保険を利用してリスクに備える必要があります。保険事業では、締約代理商と媒介代理商が重要な役割を果たし、適切な保険選びをサポートします。

＜本講義の提供内容＞

1. 法実務に直結する知識
  - 商法を学ぶことで、実際のビジネスシーンでの法律の適用を理解し、将来のキャリアに役立てることができます。法的リスクを認識し対処するスキルを身につけることで、受講生は自信を持って企業取引に臨むことができます。
2. 視覚的な学習
  - 単元ごとに図表を用いて、複雑な法的概念や法制度をわかりやすく解説します。視覚的理解を促進し、法律の流れや関係性を把握しやすくします。
3. 具体的な事例学習
  - 各単元の初めに会社ビジネスに関する具体例を提示し、受講生がイメージしやすいようにします。実際のケーススタディを通じて法的な問題がどのように解決されたかを学び、実務に活かせる洞察を得ることができます。
4. 設問を通じた考察
  - 単元ごとに設けられた設問を通じて、受講生が自ら考え理解を深める授業を行います。これにより商法の原則や適用方法を深く理解できます。
5. 講義レジュメの提供
  - 講義のレジュメを1週間前までに提供し、予習ができるようにします。事前に内容を把握することで、より深い理解が得られます。
6. オンデマンド形式の復習
  - 講義内容を録音したオンデマンド形式のファイルを一Driveにアップロードし、いつでも復習できるようにします。自宅での復習や忙しい合間を利用した学習が可能となります。

＜受講生への期待＞

受講生の皆さんには、商法のルールを学び、その専門知識を様々な事業現場で生かすことが期待されます。商法に対する体系的な理解を深め、実務において効果的に法的リスクを管理し、健全なビジネス運営を行う能力を身につけてほしいと考えています。

【学習目標】

「商法」は、司法試験や公認会計士試験などの国家資格試験を目指す学生だけでなく、一般企業への就職を希望する学生にも提供される科目です。本講義の目的は、将来のビジネスパーソンとして最低限知っておくべき「企業取引」の基礎知識を身につけることです。

受講生には、理論的かつ体系的に商法の理解を深めることを目指しています。この講義を通じて、商取引に関する基本的な法律や原則を学び、ビジネスシーンでの実務に役立てる力を養うことが期待されます。

【講義計画】

- 第1回： ガイダンスおよび商法の適用範囲を画する基本概念(=商法総則と商行為法の視点)
  - ・ガイダンス
  - ・商法の意義①
    - 商法の意義およびその概念
    - 商法の目的
    - 形式的意義の商法
- 第2回： 商法の意義②
  - 企業法説
  - 民法との関係
  - 民法に対する商法の特徴
  - 商法の法源
- 第3回： 商行為
  - 商行為法主義
  - 商人法主義
  - 絶対的商行為
- 第4回： 営業的商行為①
- 第5回： 営業的商行為②
  - ・附属的商行為
  - ・一方的商行為
  - ・双方的商行為
- 第6回： 商業登記①

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

	→商業登記の意義 →商業登記事項 →商業登記事項の分類 →設定的登記事項と免責的登記事項
第7回	・商業登記② →商業登記の手續 →登記官の審査 →商業登記の効力 →一般効力(消極的公示力・積極的公示力)
第8回	・商業登記③ →不実登記の効力 →不実登記の効力による第三者の保護の必要性(権利外観法理・禁反言の原則) →帰責事由
第9回	・商号① →商号の意義 →商標〔対比〕 →商号の選定 →商号選定の自由に対する例外 →不正競争防止法による商号の保護 →商号権
第10回	・商号② →商号権の性質 ・商号使用権 ・商号専用権 →商号の譲渡
第11回	・商号③ →商号譲渡 ・商号譲渡が認められる場合 →商号譲渡の対抗要件 →商号譲渡による変更の登記
第12回	・商号④ →名板貸人の責任
第13回	・商業使用人① →商業使用人の意義 →支配人 →支配人の選任・終任 →支配人の代理権 →支配人の義務
第14回	・商業使用人② →支配人の義務 →義務違反の効果 →表見支配人
第15回	・商業使用人③ →表見支配人 →その他の商業使用人

【事前および事後学習の指示】

限られた授業時間内において、「商取引法Ⅰ」のすべての内容を網羅的に詳説することは物理的に不可能です。そこで、以下の2点に振り分けることで授業の効率化を図ります。

- ・授業で講述すべき内容
- ・受講生の自学自修に委ねるべき内容

本講義では、受講生が事前学習を行う際にテキスト等を読むだけで理解できる内容や、説明しなくてもよい内容については省略します。その代わりに、「商取引法Ⅰ」の基本的事項に焦点を当て、受講生が問題意識を持って具体的に考える授業を進めます。

受講生には、「商取引法Ⅰ」の主要内容から選別した重要論点を中心に授業内容を理解していただくため、テキストや予習(復習)用のレジュメ、復習資料(オンデマンド形式の録音ファイル)、参考文献などを活用し、授業で詳説しない内容や取り扱わない内容についても幅広く学習していただきたいと思っております。

本講義では、商人の事業活動に関連する商法制度や法規について、受講生が全体像を理解できるように、分かりやすく図解しながら進めていきます。このアプローチにより、受講生は実務に役立つ知識を習得できることを目指します。ぜひ積極的に参加し、知識を深めてください。

【テキスト】

商法総則・商行為法〔第2版〕 北村雅史  
978-4-589-04201-9 法律文化社

【参考文献】

【コメント】

商取引法Ⅰの成績評価は、①授業への参加度や春学期理解力小テスト(配点:40点)、②レポート課題提出(配点:60点)を基に決定します。春学期理解力小テストは課題の形で2回実施され、成績評価の具体的な方法については、3回目の対面授業で詳しく説明します。

【留意事項】

講義名称	曜時
人権教育論 A 01<春>	水3

【教員名称】

大北 規句雄

【講義概要】

部落差別撤廃の様々な取り組みや経験を通して差別の歴史や社会的役割を学び、日本における普遍的な人権の概念について検証する。また部落解放運動の中で取り組まれている「まちづくり」等「地域共生社会」を創造する実践についても学び、「人と人が豊かに繋がり、誰もがありのままに生きることが出来る新しい地域社会の再構築」とはどのようなものなのか検証し、教職を目指す学生が、人権問題を単に知識として得ることにとどまらず、当事者の創造的な実践に学び、自ら感じ、行動出来る想像力を養うこともこの授業のねらいとする。

【学習目標】

1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。
2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。
3. 差別解消のための様々な努力から学び、被差別当事者の思いをしっかりと受け止め、記述することができる。
4. 上記1~3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。

【講義計画】

- 第1回: (1)講義ガイダンス・オリエンテーション  
①受講ルールの説明(受講にあたってのルールやマナーの説明)  
②授業計画(授業日程や全15講の内容説明)  
③評価基準の説明(単位取得について、評価方法の説明)  
(2)ワークショップ「人権はいま・・・」  
授業に入るリードとして、現代社会における様々な人権概要についてクイズ形式で学ぶ
- 第2回: 人権概論(I)  
「鬼と呼ばれた人、狐にされた人」  
①日本文化に現れる「隠し」の思想、②「穢れ」意識と差別の固定化への変遷の検証、③「暮らし」に根付く文化や伝統の意味
- 第3回: 人権概論(II)  
「排除・忌避の背景を検証する」  
①なぜ福祉は一部の「可哀想な人」の問題になったのか、②ジェントリ・フィケーションとは何か、③都市の持つ「排除・忌避」の機能
- 第4回: 部落問題論(I)  
「部落差別とはなにか」  
①「差別」とは何か、②部落差別の歴史的起源と水平社創立以前の部落差別の検証。
- 第5回: 部落問題論(II)  
「水平社とはなにか(水平社宣言を読む)」  
①水平社結成の歴史背景、②水平社創立が意味するもの、③戦前の部落解放運動、④当事者運動の意味
- 第6回: 部落問題論(III)  
「戦後民主主義と部落解放運動」  
①オールロマンズ闘争と行政責任論の登場、②部落解放運動の光と陰、③地域共生社会実現への挑戦
- 第7回: 部落問題論(IV)  
「部落問題にかかわる諸理論の展開と論点」  
これまでの部落解放運動から生まれてきた様々な差別解消のための論点を整理する。
- 第8回: 部落問題論(V)  
「社会課題に挑戦する部落解放運動」  
①被差別部落の今日の実態と差別解消の様々なアプローチ、②部落解放運動を支える社会的ネットワークの拡がりを検証する
- 第9回: 同和教育論(I)  
「同和教育の歴史と実態から見えるもの」  
①同和教育の歴史と創り上げてきた実践、②今日の人権教育の拡がり実践の検証
- 第10回: 同和教育論(II)  
「意識化とは何か(文字を奪い返す取り組みから見えるもの)」  
①教科書無償闘争、②識字教室の営み、③奨学金闘争、④進路保障の取り組み等、を通じて教育とは何かを問い直す。
- 第11回: 地域共生論(I)  
「部落解放への展望を語るⅠ(地域共生社会と部落差別)」  
①セツルメントと同和地区隣保館、②部落の実践と国が目指す地域共生社会、③ソーシャルキャピタルとは何か
- 第12回: 地域共生論(II)  
「部落解放への展望を語るⅡ(被差別部落が目指した人権のまちづくり)」  
①部落のまちづくりをめぐる4つのチャンス、②各地で取り組まれる「人権のまちづくり」へのチャレンジ
- 第13回: 地域共生論(III)  
「国が目指す地域共生社会の意味とは」  
①2000年福祉の基礎構造改革の意味、②2018年社会福祉法の改正と「地域共生社会」の創造、③地域共生社会を実現するためには
- 第14回: 地域共生論(IV)  
「人権の新しい概念の創造に向けて」  
①グローバル概念とは何か、②拡がる人権の概念、③グローバルコンパクトとSDGs
- 第15回: 課題設定のテストおよびまとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習: 前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと(推定目安時間1時間)

事後学習: ミニレポート(推定目安時間1時間)

【テキスト】

隣保館「まちづくりの拠点として」 大北規句雄

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

978-4-7592-1029-3 解放出版社  
 大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」  
 978-4-7592-4233-1 解放出版社  
 授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

【参考文献】

「改訂：戦後同和教育の歴史」部落解放研究所編 解放出版社

【コメント】

- ①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。
- ②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。
- ③欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。

【留意事項】

行政職員として人権政策に関わって来た経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。  
 まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。  
 この授業は特定のテキストを使用しない。必要に応じて毎回レジュメを配布する。  
 この授業は「人権教育論B」と通して履修することが望ましい。

講義名称	曜時
人権教育論B <春>	水4

【教員名称】

大北 規句雄

【講義概要】

人権とはどのような概念かを踏まえ、現代社会に起こる様々な社会問題を人権概念から考察することを学ぶ。また、様々な人権課題を通じて見える差別の歴史や社会的役割を、他の差別問題の現実も踏まえながら理解すること。また、差別撤廃の様々な取組みや、人類が勝ち取ってきた「人権」の到達理念を、世界的な人権基準を参考に考察することを通じて、教職を目指す学生が、国際社会に通用する人権感覚を身につけることを授業のねらいとする。

【学習目標】

1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。
2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経緯や、社会性を説明することができる。
3. 差別解消のための様々な努力から学び、国際的な人権の取り組みや、グローカリズムの概念を説明することができる。
4. 上記1~3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。

【講義計画】

- 第1回：(1)講義ガイダンス・オリエンテーション  
 ①受講ルールの説明(受講にあたってのルールやマナーの説明)  
 ②授業計画(授業日程や全15講の内容説明)  
 ③評価基準の説明(単位取得について、評価方法の説明)  
 (2)ワークショップ「世界が100人の村だったら(人権版)」  
 授業に入るリードとして、現代社会における様々な人権概要についてワークで学ぶ
- 第2回：国内における人権課題(I)「障がい者問題」  
 「障害者差別解消法成立の背景」  
 障がい者解放運動の歴史と「障害者差別解消法」が示した2つの指標
- 第3回：国内における人権課題(II)「民族差別問題」  
 「ヘイトスピーチと表現の自由の狭間」  
 差別の禁止(規制)と表現の自由の問題の論点をヘイトスピーチ抑止法の成立を踏まえて検証する
- 第4回：国内における人権課題(III)「女性差別問題」  
 「ジェンダーギャップ指数が示すもの」  
 女性差別の歴史的背景と男女共生社会へのアプローチ
- 第5回：国内における人権課題(IV)「性的マイノリティへの差別問題」  
 「性の多様化を検証する」  
 LGBTQなど性的マイノリティの人権と行政のアプローチを検証する。
- 第6回：国内に生ける人権課題(V)「医療と差別」  
 「感染症と差別の歴史の検証」  
 ハンセン病問題を通して現代のコロナ差別や福祉の意味について考える。
- 第7回：国内における人権課題(VI)「情報化と人権」  
 「インターネットと人権」  
 WEB上にあふれる差別問題を部落問題を通して考える。カミングアウトとアウトティングの相違について
- 第8回：国内における人権課題(VII)「貧困問題」  
 「部落解放運動の取り組みから貧困を検証する」  
 ①子ども食堂や学習支援事業など地域で取り組まれている様々な貧困と向き合う活動をとらえて貧困・格差問題を考える  
 ②ふーどばんく OSAKAの取り組み、③地域の様々なNPO活動
- 第9回：国際的な人権課題(I)「移民・難民問題」  
 「移民・難民の生まれる背景」  
 ①移民と難民の違い、②日本における移民・難民政策の課題について考える。
- 第10回：国際的な人権課題(II)「テロや民族紛争の背景」  
 「世界で起こるテロリズムや地域紛争」  
 ①中東での民族対立、②ヨーロッパの「宗教的対立」、③表現の自由と宗教や民族への尊厳の葛藤
- 第11回：国際的な人権課題(III)「諸外国における差別問題」  
 「各地で生起している差別問題」  
 ①クルド人問題、②ロヒンギャ問題、③アメリカにおける人種差別問題、④シンティ・ロマ問題など諸外国の差別問題を検証する。
- 第12回：新しい人権概念の創造にむけて(I)「国連の人権へのアプローチ」  
 「世界人権宣言の基本精神」  
 ①ノーベル平和賞や見る国際社会の人権の視座、②世界人権宣言の意味するもの、③差別撤廃の5方策とは
- 第13回：新しい人権概念の創造にむけて(II)「SDGsとグローバルコンパクト」  
 「国際的な人権の潮流を検証する」  
 ①国連人権委員会「ビジネスと人権の指導原則」、②同和对策事業の先進性、③グローバルコンパクトとは何か
- 第14回：新しい人権概念の創造にむけて(III)「広がる人権の概念」  
 「新たな人権文化を創造するために」  
 ①人権デューデリジェンスとは、②マイクロアグレッションとは、③ポリティカル・コネクトレスとは、④新しい人権文化を創造する。
- 第15回：課題設定のテストおよびまとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと(推定目安時間1時間)  
 事後学習：ミニレポート(推定目安時間1時間)

【テキスト】

隣保館「まちづくりの拠点として」大北規句雄  
 978-4-7592-1029-3 解放出版社  
 授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

【参考文献】

大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」解放出版社

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

【コメント】

- ①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。
- ②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。
- ③欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。

【留意事項】

行政職員として人権政策に関わって来た経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。  
 まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。  
 この授業は現代社会に起こる様々な人権問題をタイムリーに取り上げて検証することを狙いとしている。したがって特定のテキストを使用せず、必要に応じてレジュメ等を講師が用意する。  
 この授業は「人権教育論A」と通して履修することが望ましい。

講義名称	曜 時
人的資源管理論A <春>	火 1

【教員名称】

三輪 卓己

【講義概要】

経営管理における人的資源管理の位置付けと、その活動内容の基礎を学習します。理論的な深い考察などは応用編に譲ることとし、この講義では人的資源管理の内容をひとまず理解することに重点を置きます。人材という経営資源に対してより大きな期待がかけられる時代になってきました。それは人材が知識やノウハウを持ち、創造性を発揮する経営資源であるからに他ありません。不確かな経営環境においては、人材の持つ創造性が厳しい環境に打ち勝つ企業力の源泉となるのです。それゆえ、人材を有効活用できるかどうかは企業活動の成否に直結すると考えられます。また、人材は成長するものであり、現在よりも大きな価値のある資源になりうる存在でもあります。企業はそれを促すために教育訓練を行い、投資し、動機付けていく必要があります。人材を育成できる企業こそが長期的に成長できると考えられるのです。人的資源管理とは、人材を育成し、適切に活用するための仕組みや活動です。その内容を理解し、いくつかの実例を見ることを通して、それらがどのような機能を持っているのか、現在どのような問題に直面しているのかを議論します。企業で人材が活き活きと働き、活躍できるようにするためには何が重要となるのか、将来自分はこのように働きたいかといった問題意識を育てていただきたいと思います。

【学習目標】

人的資源管理の初歩的な理論を修得し、実際の諸活動の概要を理解すること。  
 人的資源管理の主要な用語や概念を理解し、それを使って現実の問題を考えること。  
 いくつかの企業事例に触れて実践的な問題意識を形成すること。  
 論理的思考能力(特に課題発見力、創造力、論理的分析力、総合的判断力)、主体性の開発に主眼を置く。

【講義計画】

- 第1回： 経営組織の中での人的資源管理  
 人的資源管理の内容と経営全体の中での位置づけを説明したうえで、授業全体のスケジュール等を確認し、受講するうえでの注意事項を伝達する。
- 第2回： 雇用管理(採用・配置・異動・退職)  
 人的資源の獲得(採用)、育成(配置、異動)から退職に至るまでのマネジメントを学び、日本企業の特徴について解説する
- 第3回： 人事制度(人材の格付け制度)  
 人事等級制度について、主に日本独特の職能等級制度、欧米で一般的な職務等級制度を比較しながら学習する。
- 第4回： 人事考課制度(人材の評価や査定)  
 組織の中での人の働きぶりの評価活動について、その方法や、それが人に与える影響等について学習する。
- 第5回： 賃金管理(賃金の決め方と体系)  
 組織で働く人の報酬の支払い(月例賃金、賞与)について、日本的な年功給や成果主義賃金などを比較しながら学習する。
- 第6回： 昇進管理(役職昇進の意義と新しい昇進経路)  
 役職より重要な職務への異動(昇進)について、早い昇進と遅い昇進を比べながら、その意義や問題点について学習する。
- 第7回： 労働時間管理(労働時間の短縮、弾力化、現実の問題点)  
 労働時間の管理方法や短縮化について学び、現在社会で議論されている問題点について解説する。
- 第8回： 能力開発(OJTとOff-JT)  
 組織の中で行われる能力開発の手法と、日本企業の特徴について学ぶ。
- 第9回： 労使関係管理(労働組合と協動的労使関係)  
 労働組合の意義や役割を確認したうえで、日本の労使関係の特徴について学ぶ。
- 第10回： 職場環境管理(福利厚生と職場環境)  
 日本企業における福利厚生の特徴と、近年の変化について学習する。
- 第11回： 多様な人材の管理(非正規従業員、派遣労働者)  
 近年増加している新しい人的資源と、そのマネジメント上の問題点について学ぶ。
- 第12回： 企業の事例(1)製造業・自動車産業の事例  
 製造業の人的資源管理の特徴(ゆっくりとした昇進、配置転換、チーム作業等)について学習する。
- 第13回： 企業の事例(2)流通業・総合スーパーの事例  
 流通業の人的資源管理の特徴(大量採用、競争的な昇進制度、非正規社員との協働)について学習する。
- 第14回： 企業の事例(3)サービス業・情報産業の事例  
 情報産業の人的資源管理の特徴(高度な専門性、労働移動、自律的キャリア)について学習する。
- 第15回： まとめ  
 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

【事前および事後学習の指示】

- 第1回  
 (事前学習)テキスト第1章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
 (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第2回  
 (事前学習)テキスト第5章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
 (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第3回  
 (事前学習)テキスト第4章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
 (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第4回  
 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
 (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第5回  
 (事前学習)テキスト第9章を読んで疑問点等をまとめておくこと  
 (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
- 第6回  
 (事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

<p>(事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第7回 (事前学習) M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第8回 (事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第9回 (事前学習)テキスト第11章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第10回 (事前学習)テキスト第10章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第11回 (事前学習)テキスト第12章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第12回～第15回 (事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること</p> <p>【テキスト】 入門的資源管理 第2版 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著 978-4-502-67360-3 中央経済社</p> <p>【参考文献】</p> <p>【コメント】 中間レポートと最終レポートを課す。 その他は、授業中の発言や質問、授業後の質問メール、任意のミニレポートによって評価する。</p> <p>【留意事項】 企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。</p>
---

講義名称	曜時
心理学A 02<春>	月1

【教員名称】  
岡崎 満希子

【講義概要】  
心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】  
・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。  
・子どもの心の発達と発達要因について理解している。  
・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。  
・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】  
第1回： オリエンテーション：心理学の基礎理論  
第2回： 心理学の歴史と領域  
第3回： 心理学の研究法  
第4回： 心のしくみと認知①：感覚と知覚  
第5回： 心のしくみと認知②：記憶  
第6回： 心のしくみと認知③：学習(条件づけ)  
第7回： 心のしくみと認知④：知能と思考  
第8回： 心のはたらきと行動①：動機づけ  
第9回： 心のはたらきと行動②：情動と感情  
第10回： 個人と社会①：人格・性格  
第11回： 個人と社会②：他者と集団  
第12回： 人の成長・発達と心理①：遺伝と環境  
第13回： 人の成長・発達と心理②：ライフサイクル  
第14回： 人の成長・発達と心理③：心の発達  
第15回： まとめ

【事前および事後学習の指示】  
・授業内で示すテーマについて、次回までに予習をしておく。  
・授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。

【テキスト】  
M-Port に毎回の授業資料(ppt)を掲示する。その他、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

【参考文献】  
・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行(著)『はじめて出会う心理学(第3版)』有斐閣アルマ  
・その他、授業内で示す。

【コメント】  
①授業内容に関する考えや感想を書いて提出する。提出のタイミングと方法はその都度指示する。  
②学期末に期末試験を実施する。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
心理学 A 03<春>	火 2

【教員名称】

中村 隆行

【講義概要】

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②：記憶
- 第6回：心のしくみと認知③：学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④：知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①：動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②：情動と感情
- 第10回：個人と社会①：人格・性格
- 第11回：個人と社会②：他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

- ・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
- ・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみる。

【テキスト】

【参考文献】

- ・加藤伸司・山口利勝(編著) 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦 『はじめて出会う心理学改訂版』 有斐閣アルマ

【コメント】

小テストを10回行い、その中央値で評価する。

【留意事項】

講義名称	曜日
心理学 A 04<春>	火 3

【教員名称】

中村 隆行

【講義概要】

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②：記憶
- 第6回：心のしくみと認知③：学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④：知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①：動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②：情動と感情
- 第10回：個人と社会①：人格・性格
- 第11回：個人と社会②：他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

- ・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
- ・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみる。

【テキスト】

【参考文献】

- ・加藤伸司・山口利勝(編著) 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦 『はじめて出会う心理学改訂版』 有斐閣アルマ

【コメント】

小テストを10回行い、その中央値で評価する。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
心理学 A 05<春>	月 2

【教員名称】

小松 佐穂子

【講義概要】

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が「研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②：記憶
- 第6回：心のしくみと認知③：学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④：知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①：動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②：情動と感情
- 第10回：個人と社会①：人格・性格
- 第11回：個人と社会②：他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

授業情報(授業課題、レポート課題など)は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。

【テキスト】

テキストは使わないが、スライド(パワーポイント)、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

【参考文献】

- ・加藤伸司・山口利勝(編著)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行(著)『はじめて出会う心理学(第3版)』 有斐閣アルマ

【コメント】

- ①授業ごとにその内容に関するコメントの提出(M-Port を通じウェブ提出)を求め、授業への主体的・積極的な参加状況を確認する(20%)。
- ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める(40%)。
- ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める(40%)。
- ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。

【留意事項】

講義名称	曜日
スピリチュアルケア A <春>	水 2

【教員名称】

齋藤 かおる

【講義概要】

- 能は、650 年以上の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産に指定されている、現存最古の継続的に営まれ続けてきている舞台芸術です。
- そのように時代を越えて継続的に営まれ続けてきているのは、能が【魂の配慮】として機能する力を備えているからだと考えられます。
- 本講義は、能の個々の曲(演目)の考察を通して、そのような能の力の具体像を探り、そのような能の力の可能性を見定めてゆきます。

【学習目標】

- 能が提示する思考の方向性を把握し、その可能性(西欧的スピリチュアルケア概念の補完となる可能性)を理解しましょう。
- 能の知見を手がかりに、人間の三次元性(時間性・空間性・精神性)をめぐる思索を深めましょう。
- 国内外の様々な伝統文化にも、関心を広げましょう。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
  - 狭義のスピリチュアルケア概念が孕む西欧的思考の傾向性と、その諸問題について、概説します。
  - 能には西欧的思考とは異なる【魂の配慮】の方向性を見出せることと、その意義について、概説します。
- 第2回：●この世の無常 — 蝉丸
- 第3回：●弱さと恥じらい — 弱法師
- 第4回：●大人たちの過ち — 天鼓
- 第5回：●退治するもの・されるもの — 大江山
- 第6回：●老いと良心 — 卒塔婆小町
- 第7回：●老いと情愛 — 通小町
- 第8回：●思いの齟齬 — 清経
- 第9回：●信義と矜持 — 鉢木
- 第10回：●良識と矜持 — 江口
- 第11回：●絶望と孤独 — 隅田川
- 第12回：●命の繋がり — 夜討曾我
- 第13回：●共に生きる喜び — 松虫
- 第14回：●共に生きる不思議 — 杜若
- 第15回：総括と補足
  - 【魂の配慮】と能舞台・能楽師

【事前および事後学習の指示】

- 事前学習：講義で扱う能の曲(演目)の概略等を、事前に調べておきましょう。
- 事後学習：講義内容を手がかりに知見と思索を深めつつ、国内外の様々な伝統文化についても関心を広げましょう。

【テキスト】

【参考文献】

- 能楽事典(能楽協会のサイト) <https://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia>

【コメント】

- 成績評価は2回の課題レポートによって行います。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
若干の講義予定の変更はあり得ますので、その旨、ご了解願えますなら幸いです。

講義名称	曜日
政治学 A <春>	木 4

【教員名称】

塚田 鉄也

【講義概要】

世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、特に異なる価値観や利害の併存という点に注目して、政治の基本的な概念を学びながら、国内政治や国際政治において具体的にどのような問題が争点になっているのかを考察していきます。

【学習目標】

- ①政治の基本的な概念や対立軸について理解し、説明できる
- ②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる

【講義計画】

- 第1回：政治学を学ぶ意義
- 第2回：政治とは何か
- 第3回：権力論
- 第4回：自由論
- 第5回：平等論
- 第6回：デモクラシー
- 第7回：ポピュリズム
- 第8回：ネイションとナショナリズム
- 第9回：フェミニズム
- 第10回：環境と政治
- 第11回：国際政治①：対立と協調
- 第12回：国際政治②：主権と人権
- 第13回：国際政治③：文化とアイデンティティ
- 第14回：国際政治④：貧困と開発
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】

現代政治理論(新版補訂版) 川崎修・杉田敦編  
9784641177314 有斐閣

【参考文献】

村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ(第3版)』(有斐閣、2023年)

【コメント】

各回の内容について課される確認テスト(M-Portの「テスト」を利用)により評価する。  
なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

講義名称	曜日
税務会計論 <春>	金 2

【教員名称】

金光 明雄

【講義概要】

本講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額・法人税額の計算の仕組みとその背後にあるルール(税務法令等)を学び、税務会計情報の作成と分析に必要な基礎知識を身につけます。

【学習目標】

- (1)企業会計上の利益計算との異同を理解したうえで、税務会計における課税所得計算・税額計算の仕組みを体系的に説明できるようになること、(2)税務会計情報を作成・分析できるようになることを学習の到達目標とします。

【講義計画】

- 第1回：本講義の概要説明
- 第2回：法人所得課税制度の概要
- 第3回：課税所得計算の構造
- 第4回：益金計算の原則
- 第5回：損金計算の原則
- 第6回：収益の税務処理
- 第7回：費用の税務処理
- 第8回：資産の税務処理
- 第9回：負債・欠損金の税務処理
- 第10回：法人税額の計算
- 第11回：税務申告書の作成
- 第12回：法人税の申告と納付
- 第13回：グループ法人税制
- 第14回：国際税務
- 第15回：総括

【事前および事後学習の指示】

- 【事前学習】学内ポータルサイトから講義資料を入手し、講義テーマを確認する。
- 【事後学習】講義ノートを作成し、学習内容を整理する。小テストの問題に解答し提出する。

【テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

税務大学講本『法人税法(令和7年度版)』税務大学校、2025年。  
成道秀雄(監修)・坂本雅士(編著)『現代税務会計論(第7版)』中央経済社、2024年。

【コメント】

小テスト(計5回、各20%)で評価します。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
西洋経済史 I <春>	金 1

【教員名称】

豆原 啓介

【講義概要】

古代ローマ時代から、産業革命までの西洋経済史を学ぶ。  
『テルマエ・ロマエ』などの歴史映画や映像資料を頻りに視聴しながら、具体的なイメージを学生が持てるように留意しながら、授業を進める。  
また、狭い意味での経済のみならず、芸術(音楽、美術、建築など)や、食文化などをトピックとして扱う。  
受講生の学部・学年は問わない。

【学習目標】

- ・中世から近代に至る西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。
- ・経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。
- ・現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。

【講義計画】

- 第1回：映画『テルマエ・ロマエ』鑑賞
- 第2回：映画『テルマエ・ロマエ』から考える、古代ローマの経済と現代日本の経済
- 第3回：中世のヨーロッパ都市を映像散歩してみよう!!  
—現代の都市と何が違うだろうか?—
- 第4回：「商業の復活」と、ルネサンス  
—なぜヴェネツィアとフィレンツェは観光客を集めているのか?—
- 第5回：大航海時代の到来  
—ポルトガルとブラジルの海洋覇権競争—
- 第6回：映画『提督の艦隊』鑑賞
- 第7回：映画『提督の艦隊』から考える、近世オランダの経済と商業
- 第8回：前半のまとめと復習/  
ファッション大国フランスの起源
- 第9回：産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか? ①ふたつの市民革命
- 第10回：産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか? ②科学革命の背景
- 第11回：イギリス産業革命①繊維製品からのスタート
- 第12回：イギリス産業革命②機械化の進展
- 第13回：近世・近代の文化芸術(音楽など)と西洋経済史
- 第14回：後半部分のまとめと復習
- 第15回：期末テストの実施およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】

奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010年。  
須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012年。

【コメント】

試験は、ほぼ毎回、授業の最後に行う復習テストと、期末テストによって構成される。  
復習テストと期末テストの比率は半々の予定である。  
テストに際しては、各種プリント類などの参照・持ち込み可とする。  
「その他」は、授業への積極的参加を指す。

【留意事項】

講義名称	曜日
西洋法制史 A <春>	月 2

【教員名称】

鈴木 康文

【講義概要】

古代から中世までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。

【学習目標】

- ①各時代の政治・社会の状況を理解する。
- ②上記①を前提に、その時々法と法学のあり方を学び理解する。
- ③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：ローマ共和政期 ※テキスト第1講
- 第3回：ローマ帝政期 ※テキスト第2講
- 第4回：第2~3回の補足
- 第5回：民事訴訟 ※テキスト第3講
- 第6回：契約 ※テキスト第4講
- 第7回：法学 ※テキスト第5講
- 第8回：第5~7回の補足
- 第9回：中世法学のはじまり ※テキスト第6講
- 第10回：中世法学の展開 ※テキスト第7講
- 第11回：第9~10回の補足
- 第12回：法学部の登場と発展 ※テキスト第8講
- 第13回：訴訟手続と裁判機構 ※テキスト第9講
- 第14回：法学者と法学の広がり ※テキスト第10講
- 第15回：第12~14回の補足

【事前および事後学習の指示】

事前学習：テキストの該当箇所を読んでください。  
事後学習：授業で学んだことを思い出しながらテキストを再び読んでください。

【テキスト】

史料からみる西洋法史 宮坂渉・松本和洋・出雲孝・鈴木康文  
978-4589043399 法律文化社 2024年

【参考文献】

【コメント】

毎回の小テストなど：100% ※点数を合算して成績を評価します。  
※課題の詳細については第1回のガイダンスで説明します。

【留意事項】

講義名称	曜日
世界の市民-科学と社会の関係を考える <春>	木 3

【教員名称】

尾鍋 智子

【講義概要】

本学の教育目標である世界市民とは何かを考えるにあたり、本講義ではまず日本文化を理解し客観化することからはじめる。例として身近な科学や技術からはじめ、それらが文化から文化へ伝わるとき、社会や文化の相違により受容されたり、されなかったり、変化したりする様子を探る。生活、情報、軍事にかかわる科学技術と社会の関係を、日本に視点をおき考察をくわえ、多文化理解へのゲートウェイとする。

【学習目標】

日々のモノ・技術・科学から日本文化をより深く理解でき、世界市民的視野をもつことができる。

【講義計画】

- 第1回：コース説明及びイントロダクション
- 第2回：科学技術伝播と実学(1)
- 第3回：科学技術伝播と実学(2)
- 第4回：車両と文化(1)
- 第5回：車両と文化(2)
- 第6回：イスと座(1)
- 第7回：イスと座(2)
- 第8回：まとめと試験1(論述試験 1000 字)
- 第9回：暦と天文(1)
- 第10回：暦と天文(2)
- 第11回：暦と天文(3)
- 第12回：暦と天文(4)
- 第13回：印刷文化
- 第14回：銃と砲
- 第15回：まとめと試験2(論述試験 1000 字)

【事前および事後学習の指示】

配布資料を授業前後に読み、予習復習をすること。(事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

【コメント】

2 回の本格的論述試験(各 1000 字程度)で成績が決まるため、あらかじめ段落を適切に用いた論述の訓練をし、書き慣れておくことがのぞましい。詳細については初回に説明するので必ず出席すること。  
毎出席が原則。5 回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15 分以上の遅刻を 3 回した場合 1 回の欠席としてカウントする。

【留意事項】

講義名称	曜日
世界のメディア A <春>	月 3

【教員名称】

小池 誠

【講義概要】

この講義では、マンガ・アニメや音楽など日本から国境を越えて世界に広がるポピュラー・カルチャーを対象にして、現代世界におけるメディアのグローバル化の問題を考えます。授業のなかで映像資料などを使って、世界のメディアにアプローチしたいと思っています。この講義は、世界のメディアを通して、幅広く現代世界のさまざまな文化とグローバル化の動向に対する理解と関心を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」と「現代の諸問題への対応」につながることを目的としています。

【学習目標】

- 講義を通して、以下の 3 つの目標を達成できるようにします。
- ① 現代世界におけるメディアのグローバル化について理解し、正しい知識をもつ。
  - ② 授業で取り上げたテーマについての確に論じることができる。
  - ③ 講義で学んだことを正確にまとめ、それにもとづいて自分の意見を述べるができる。

【講義計画】

- 第1回：授業ガイダンス：現代世界におけるメディアのグローバル化
- 第2回：日本マンガの海外進出
- 第3回：日本マンガの海外進出：現状と問題点
- 第4回：フランスのマンガ喫茶
- 第5回：日本アニメの海外への広がり：歴史
- 第6回：日本アニメの海外への広がり：現状と問題点
- 第7回：日本アニメの新たなグローバル化
- 第8回：日本マンガとアニメの海外における実写化
- 第9回：アニメの世界的人気と J-POP
- 第10回：J-POP のグローバル化
- 第11回：世界の kawaii 人気
- 第12回：パリの Japan Expo
- 第13回：世界に広がるコスプレ
- 第14回：政府支援によるクールジャパン戦略
- 第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

次回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください(事前学習)。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する映像資料などを積極的に観るようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介します。

【コメント】

試験は授業内容に関する小テスト(3 点満点)を計 10 回実施する(計 30 点)。レポートは中間レポート(10 点)および最終レポート(30 点)の計 2 回実施する。その他は、5 回の課題(3 点)と毎回の授業中に書く質問またはコメント(1 点)によって授業への積極的な参加度を評価する(計 30 点)  
出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中に質問またはコメントを書いてください。

【留意事項】

講義名称	曜日
総合人間学 A <春>	水 1

インテ、遠隔授業(同時双方向型)

【教員名称】

梅山 秀幸

【講義概要】

20 世から今世紀にかけて専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれたが、しかし、個別の「学」では今日人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分に答えることができない。そこで、学際的な、人間に関する新たな総合学が必要とされる。そうした学問的要請に基づいて、この講義は複数の講師によって「インテグレーション」科目として実施される。特に、2020 年以後、世界はコロナウイルスに襲われ、次々と新種株が生まれ、すでに数波の感染拡大に襲われた。このウイルスの実態について専門家の説明をうかがうとともに、われわれはどう対処し、コロナ後の世界を構築すべきなのかを考えたい。

【学習目標】

自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育を目指す。ここで人間とは、生物種ヒトとその双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学、技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムは何かという人間学の目標に迫っていききたい。

【講義計画】

- 第 1 回： 授業の到達目標およびテーマ、授業の概要、授業計画、参考書、評価などについて説明
- 第 2 回： ヒトとゴリラのあいだ
- 第 3 回： Out of Africa
- 第 4 回： 地球環境と人間
- 第 5 回： エネルギーと人間
- 第 6 回： 疫病とどう立ち向かうか？
- 第 7 回： コロナ・ウイルスについて
- 第 8 回： 「心の理論」について
- 第 9 回： 脳・感情
- 第 10 回： 自然と共生する社会(1)ーシベリア、ウデハの場合ー
- 第 11 回： 自然と共生する社会(2)ー日本での取り組みー
- 第 12 回： 原子力とは何か
- 第 13 回： 福島で起こったこと
- 第 14 回： 女性が自立した人間として生きていくために
- 第 15 回： コロナ以後の社会について考える

【事前および事後学習の指示】

ゲスト講師が参考文献として挙げた書物および論文は読むことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

尾本恵市『ヒトと文明』（ちくま新書）・西原智昭『コンゴ共和国 マルミソウとホテルの行き交う森から』（現代書館）

【コメント】

毎回授業終了後に 200 字から 400 字のコメントを書いて提出してもらいます。それを見て授業の理解度をはかり、点数化することになります。「その他」というのはそれをいいます。

【留意事項】

アフリカのコンゴで長らく研究生を送り、環境保護の顧問をして来た方薬品会社に勤務していた方の授業を予定している。

講義名称	曜日
ソーシャルワーク論ⅢA <春>	月 5

【教員名称】

塩田 祥子

【講義概要】

制度としての社会福祉を具体的に実践するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と恐われる様々な知識の獲得を目的としている。具体的には、ソーシャルワークにおいて基本となる「人と環境との交互作用」の概念について、人と環境が相互に影響し合うという「全体的にとらえる見方」として、理解を促す。またその視点に基づいて、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程を理解することで、実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。利用者と出会うインテークから援助の終結にいたるまでの一連の援助過程を基本的な専門的技術として理解する。

【学習目標】

- ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論との交互作用に関する理論について理解する。
- ・援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。
- ・相談援助の過程に係る知識と技術について理解する。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際について理解する。

【講義計画】

- 第 1 回： オリエンテーション  
ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念
- 第 2 回： 実践モデルとアプローチ①
- 第 3 回： 実践モデルとアプローチ②
- 第 4 回： 実践モデルとアプローチ③
- 第 5 回： ソーシャルワークのための面接技術の実際①
- 第 6 回： ソーシャルワークのための面接技術の実際②
- 第 7 回： ソーシャルワークのための面接技術の実際③
- 第 8 回： アウトリーチによる相談援助の方法
- 第 9 回： アウトリーチによる相談援助の方法
- 第 10 回： スーパービジョンとコンサルテーション
- 第 11 回： コンサルテーションとネットワーク①
- 第 12 回： コンサルテーションとネットワーク②
- 第 13 回： 情報管理と情報通信技術
- 第 14 回： 社会資源の活用・調整・開発
- 第 15 回： まとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習では、新聞記事等を活用し、社会情勢を調べる。授業後、配布資料を用いて授業内容の確認をする

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを踏まえた講義としてのソーシャルワーク論の集大成であることを意識する。特に、演習、実習内容、日常生活に関連させたコメントシートの提出を求める。  
授業最終日にテストを行う。

【留意事項】

研修活動、社会福祉士会での活動をもとに、現場の実情に応じた授業を実施する  
障害者相談センターや、精神障害者領域におけるボランティア活動の経験を活かし、現場のリアルを伝えていく

社会人の方へ(聴講に際して)

3 年生対象なので、社会福祉士国家試験を意識した内容になります。

講義名称	曜日
地域研究ⅡA <春>	月 2

【教員名称】

塚田 鉄也

【講義概要】

近代以降、ヨーロッパ諸国は積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきました。現在のヨーロッパはかつてほど「世界の中心」とは見えなくなりましたが、それでも、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、ヨーロッパ諸国の中でも特に日本人に馴染みが深く、G7の構成国でもあるイギリス、フランス、ドイツ、イタリアを取り上げ、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点という三点にわたって検討していきます。

【学習目標】

- ①各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解し、説明できる
- ②各国が直面している問題やそうした問題への対応を理解し、説明できる

【講義計画】

- 第1回：ヨーロッパ研究の意義
- 第2回：世界の中のヨーロッパ
- 第3回：イギリス①：歴史的背景
- 第4回：イギリス②：政治の基本構造
- 第5回：イギリス③：現代の争点
- 第6回：フランス①：歴史的背景
- 第7回：フランス②：政治の基本構造
- 第8回：フランス③：現代の争点
- 第9回：ドイツ①：歴史的背景
- 第10回：ドイツ②：政治の基本構造
- 第11回：ドイツ③：現代の争点
- 第12回：イタリア①：歴史的背景
- 第13回：イタリア②：政治の基本構造
- 第14回：イタリア③：現代の争点
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】

データブック・オブ・ザ・ワールド 2025 二宮書店編集部  
9784817605276 二宮書店

【参考文献】

松尾秀哉ほか編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）

【コメント】

各回の内容について課される確認テスト(M-Portの「テスト」を利用)により評価する。  
なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

講義名称	曜日
地方財政論Ⅰ <春>	火 1

【教員名称】

田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言える。本講義では地方財政の制度や課題、そして、わが国の地方財政の実態について説明する。

【学習目標】

本講義の目的は、地方財政の基礎知識を習得することにある。具体的な地方自治体の財政データを示しながら、新聞報道の地方財政関連記事に興味を持たせ、わが国における地方財政問題について語る能力を身につけることにこの授業の狙いがある。地方財政論を学問領域とするため、当該科目履修後は将来公務員を目指す学生の基礎的な知識が身につくことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス。  
地方財政とは何か。  
成績評価についての説明。  
講義を受けるうえでの注意事項。
- 第2回：地方財政の現状(総務省統計に基づいて)
- 第3回：財政の役割(財政の三機能)
- 第4回：国と地方の役割分担(身近な公共サービスの提供)
- 第5回：地方財政計画(地方ガイドラインの設計)
- 第6回：地方の歳出構造(義務的経費と投資的経費)
- 第7回：地方の歳入構造(自主財源と依存財源)
- 第8回：地方税の原則(過去から現在まで)
- 第9回：地方税の制度(住民税・事業税・地方消費税・固定資産税)
- 第10回：地方税の課題(理想と現実の乖離)
- 第11回：地方交付税の制度(多様性と複雑化)
- 第12回：地方交付税の課題(ソフトな予算制約)
- 第13回：国庫支出金の制度と課題(失われた地方の自主性)
- 第14回：地方債の制度(求められる財政健全化)
- 第15回：地方債の課題(失われた財政規律)

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。

【テキスト】

新・地方財政 林 宜嗣  
9784641184565 有斐閣ブックス

【参考文献】

菅原宏太・松本 睦・加藤秀弥著『地方財政の見取り図』有斐閣、2023年。  
(ISBN9784641151161)  
林 宏昭・橋本恭之著『入門地方財政 第3版』中央経済社、2013年。(ISBN978450265)  
佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009年。(ISBN9784883841332)

【コメント】

【成績評価について】

M-Portによる課題提出が30%、学期末に出されるレポート課題が70%。

【留意事項】



講義名称	曜日
中国経済論Ⅰ <春>	火 4

**【教員名称】**

大島 一二

**【講義概要】**

改革・開放政策実施以降の 30 余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長率は年率 10% に達し、日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより 2010 年には世界第 2 位の GDP 大国となった。また外貨準備高はすでに世界第 1 位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。

しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5 億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。

本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHK などが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。

この中国経済論Ⅰでは、1949 年の新中国建国から現在に至る中国経済の展開と、香港、台湾の経済について取り扱う。

**【学習目標】**

日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解できるようになる。

**【講義計画】**

- 第 1 回： オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
- 第 2 回： 近現代から現在に至る中国、台湾、香港、マカオの展開
- 第 3 回： 社会主義計画経済体制の形成と課題。
- 第 4 回： 計画経済期の中国経済。人民公社、国営企業、戸籍制度を中心に。
- 第 5 回： 改革開放期の高度成長
- 第 6 回： 南巡講話と外資導入の促進。
- 第 7 回： 所有制改革と社会主義市場経済。
- 第 8 回： WTO 加盟と国際化。
- 第 9 回： 世界の工場から世界の市場へ。
- 第 10 回： 台湾の経済(1)台湾の歴史と社会
- 第 11 回： 台湾の経済(2)台湾経済の発展と開発モデル
- 第 12 回： 台湾の経済(3)ファブレス、ファウンドリ関係と台湾経済
- 第 13 回： 香港の経済
- 第 14 回： マカオの経済
- 第 15 回： まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。また、できるだけ参考文献を読んでもらうこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 大島一二編著(2007)『中国野菜と日本の食卓 一産地、流通、食の安全・安心』芦書房。
- 大島一二(2015)『日系食品産業における中国内販戦略の転換(日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房。
- 大島一二・山田七絵(2019)『朝日緑源、10年の軌跡』農林統計出版。

**【コメント】**

対面授業を想定し、以下のように配点する。  
M-Port によるレポート(必修、1 回、50 点)、課題(5 回各 10 点、50 点)を基本とする。  
さらに講義への出席を促進するため、出席点 20 点(4 回各 5 点)を加算する。  
合計 120 点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。  
59 点以下 D、60~69 点 C、70~79 点 B、80~89 点 A、90 点~120 点 S。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
中小企業論Ⅰ <春>	金 2

**【教員名称】**

義永 忠一

**【講義概要】**

金融危機以降、経済環境が激変している。さらに 2011 年には大震災やその後の津波を起因とする事故など、大きな変化が起こった。2020 年には、新型コロナウイルス感染拡大により、「新状態」への模索が続いている。そして 2022 年ロシアによるウクライナ侵攻、2023 年中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつある。日本経済の主要な担い手である中小企業は、大きな変化を迫られている。「新状態」への模索と共に大きく揺れ動いている地域経済の下、特に中小企業について本講義では講義していく。

**【学習目標】**

地域に根を張り、地域との関係をさまざまに強く持つことの多い中小企業が直面している大きな変化が、どのようなものかを理解・把握することを学習目標とする。

**【講義計画】**

- 第 1 回： 中小企業・ベンチャー企業を学ぶ一講義概要と評価の方法一
- 第 2 回： 日本経済と中小企業～明治期から 1970 年代まで
- 第 3 回： 日本経済と中小企業～1970 年代から 2010 年代まで
- 第 4 回： 大企業と中小企業
- 第 5 回： 地域経済と中小企業
- 第 6 回： 海外の中小企業
- 第 7 回： 下請システムとものづくり中小企業
- 第 8 回： 国際化と中小企業
- 第 9 回： 事業承継と中小企業
- 第 10 回： 集積・ネットワークを活かす中小企業
- 第 11 回： 地域と共に生きる中小企業
- 第 12 回： 中小企業金融
- 第 13 回： 国による中小企業政策
- 第 14 回： 自治体による中小企業政策
- 第 15 回： まとめと選択式試験

**【事前および事後学習の指示】**

教科書にあらかじめ目を通し、講義を受けて質問が出来るようにすること。

**【テキスト】**

中小企業・ベンチャー企業論 新版 グローバルと地域のはざままで 植田浩史編著  
978-4-641-16431-4 有斐閣

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義資料は、WebClass を通じて最終課題提示(第 15 回)の前日まで提示します。  
その他 【52%】 WebClass テストによる課題  
WebClass テストによる課題は、第 2 回～第 13 回まで講義後に実施する授業内容に関する「選択式の課題」です。  
第 2 回～第 14 回までの合計 13 回(合格<60 点以上>すれば 4 ポイント)13×4=52  
試験 【48%】 第 15 回に WebClass テストによる課題  
第 2 回～第 14 回までの内容から「選択式の課題」を課します。  
第 1 回講義内で詳細をお伝えします。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
デジタル・メディア論 <春>	木 3

【教員名称】

木島 由晶

【講義概要】

現代人の生活において、もはやスマートフォンはなくてはならない必需品だろう。しかしそれを「依存」の一言で片づけるのではなく、「なぜ私たちはスマートフォンを片時も手放せなくなったのか？」とつねに問いながら、スマホ利用の便利さとわずらわしさの両面に着目して考察していきたい。今や私たちは、スマホひとつで様々な用事と娯楽のほとんどを消費できる環境にあるけれども、そうしたデジタルな社会とどう向き合っていくのかを、受講生それぞれが一段深く考えられるような講義を心がけていく。

【学習目標】

情報通信技術の恩恵にあずからない人は、まずいないだろう。アフリカの片田舎にもケータイ電話が普及している昨今である。しかもそれはほんの短い時間に達成されてきたから、私たちはついつい、何かものすごい「革命」が立て続けに起こっているのだと期待してしまう。しかし、それで一喜一憂しているようでは大学生として心もとない。そこでこの授業では、すぐに判断をくだしたくなる気持ちをぐっとこらえ、まずは、現象をじっくりと眺める「観照」の姿勢を滋養したい。新しいものがすぐに古びてみえるこの世の中で、落ち着いて考える力をはぐくむこと。それはもちろん、時流に流されずに生きていく力を育むことでもある。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回： みんなの意見は案外正しい？
- 第3回： 個人に最適化する情報
- 第4回： ケアからセキュリティへ
- 第5回： 個人の監視からデータの監視へ
- 第6回： 匿名性と仮想空間
- 第7回： キャッシュレスと信用スコア
- 第8回： 現実に虚構を重ね
- 第9回： ゲームで現実と関わる
- 第10回： 二次元とどこまで恋愛できるか
- 第11回： ヴァーチャルなペットの癒し
- 第12回： ソシャゲが基本無料な理由
- 第13回： グローバル化とガラパゴス化
- 第14回： テレビの視聴から動画の視聴へ
- 第15回： まとめとふり振り返り

【事前および事後学習の指示】

学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。

【テキスト】

【参考文献】

土橋臣吾他編 『デジタルメディアの社会学：問題を発見し、可能性を探る』（北樹出版）  
辻泉他編 『メディア社会論』（有斐閣）  
その他、講義中に提示する。

【コメント】

期末試験(70%)のほかに、各回の授業終了後に提出するミニ・レポート(コメントバー)の出来栄を平常点(30%)として評価する。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
講義の性質上、現在の若者文化に寄り添った内容になる点にご留意ください。

講義名称	曜日
哲学 <通期>	金 3

【教員名称】

木下 昌巳

【講義概要】

哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その根源的なあり方を認識しようとする学問である。この講義では、哲学をはじめて学ぶ人々を対象として哲学という学問の問題意識と西洋の主要な哲学者の思想について講義する。

春学期は「哲学」という学問の萌芽が成立した古代ギリシアの哲学者たちの思想を取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の問題意識の理解を図ることを主眼に置いて講義をおこなう。秋学期は哲学の黄金期とも言えるべきヨーロッパの近世・近代の哲学思想を中心として、17世紀から20世紀に至るまでの主要な哲学者の思想を解説する。

この授業では、講義のテーマとして、哲学のなかでも「存在論(世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのかという問題)」と「認識論(人間は何をどこまで知ることができるのかという問題)」を中心的に解説する。哲学が取り扱うまた別の主要問題である「ひとはいかに生きるべきか？」という問題(道徳哲学)に関心のある人は、この授業とは別に開講される「倫理学」の受講を勧める。この「哲学」と「倫理学」と両方を選択することも可能である。

【学習目標】

「哲学」という学問を学ぶということは、ただ過去の哲学者の名前や難解な専門用語を暗記することではない。大切なことは哲学が取り組むさまざまな問題の本質を正確に把握したうえで、その問題に対して「自分はその問題に対してどのように考えるのか」ということを論理的に説明ができるようになることである。しかし、その考えが独りよがりなものにならないようにするためには、古代から現代に至るまでの過去の代表的な思想を学び、過去の哲学者たちがどのような問題に取り組み、その問題に対してどのような答えを出してきたのかを理解することが必要である。そして、そのうえで、その問題に対して各人が自分の頭によって論理的に考えて、問題の内容とそれに対する自分自身の考えを自分の言葉で自分以外の人も説明できるようになることを目指す。

【講義計画】

- 第1回： はじめて哲学を学ぶ人に向けての導入
  - ・「哲学」とはいかなる学問か
  - ・「哲学」という言葉の意味と成り立ち
  - ・哲学が扱う三つの領域
  - ・西洋哲学の流れとその時代区分
  - ・一年間の講義予定の説明
- 第2回： ソクラテス以前の哲学者たち①  
ミレトス派と万物の始源(アルケー)の探求
- 第3回： ソクラテス以前の哲学者たち②  
エレア派の哲学1ー「自分はその問題に対してどのように考えるのか？」
- 第4回： ソクラテス以前の哲学者たち③  
エレア派の哲学2ー「飛んでいる矢は止まっている？」
- 第5回： ソクラテスの生き方①  
哲学 対 弁論術
- 第6回： ソクラテスの生き方②  
「よく生きる」とはどういうことか？
- 第7回： プラトン①  
プラトンとソクラテス
- 第8回： プラトン②  
プラトンの「イデア論」とは何か
- 第9回： プラトン③  
プラトンの著書『国家』と「洞窟の比喩」
- 第10回： プラトン④  
哲人王とプラトンの民主制批判
- 第11回： プラトン⑤  
哲学とエロースー「プラトニック・ラブ」とは何か？
- 第12回： アリストテレス①  
「万学の祖アリストテレス」
- 第13回： アリストテレス②  
プラトンのイデア論批判
- 第14回： アリストテレス③  
アリストテレスの目的論的世界観
- 第15回： アリストテレス④  
アリストテレスの倫理思想ー「中庸」とは何か？
- 第16回： 西洋近世・近代哲学の概観  
16世紀から19世紀における哲学思想の展開
- 第17回： 大陸合理論とイギリス経験論  
17～18世紀の西欧における思想的状況
- 第18回： デカルト①  
デカルトの「方法的懐疑」
- 第19回： デカルト②  
「われ思う、ゆえに、われあり」の意味すること
- 第20回： バスカルの思想  
「バスカルの賭け」ー哲学と宗教の違い
- 第21回： イギリス経験論①  
大陸合理論に対するイギリス経験論
- 第22回： イギリス経験論②  
ロックによる生観念の否定
- 第23回： イギリス経験論③  
ヒュームによる観念の分類
- 第24回： イギリス経験論④  
ヒュームによる因果律の否定
- 第25回： カント①  
カントの批判哲学と「コペルニクスの転回」
- 第26回： カント②  
直観の形式
- 第27回： カント③  
判断の形式

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

第28回：ニーチェ① ニーチェの問題意識と「道徳の系譜学」
第29回：ニーチェ② 奴隷道徳と貴族道徳
第30回：ニーチェ③ 力への意志と超人思想

【事前および事後学習の指示】

シラバスで提示されたテーマに対応するテキストの箇所をできるだけ事前に読んでおくこと。独力でテキストを読んでその内容を理解することは難しいかもしれない。しかし、講義後に、再度読み直すことによって「そういうことが書いてあったのか」と納得することができる。さらに授業で取り上げた思想家の解説書や関連書物を授業内で紹介していくので、授業後や休職中にそれらの書物をすすんで読んでくれることを期待する。

授業で提示するスライドのファイルは、M-Portの授業資料欄に順次アップロードしていくので、各自ダウンロードして自己学習に利用してほしい。

【テキスト】

物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために 伊藤邦武  
978-4121021878 中央公論新社

【参考文献】

内山勝利他『哲学の歴史』(全13巻)(中央公論新社、2007-2008)  
ISBN: 978-4124801415  
現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史である。内容は細かいが、講義で取り上げた哲学者とその思想、さらに参考文献についてさまざまな知識や情報を得ることができる。  
さらに桃山学院大学の図書館には哲学関係の蔵書が揃っている。指示された本を読むだけでなく、自分で書架の前に立ち、自分の目から見て興味を持ってそうな本を手にとり開き、面白そうと思ったら、自分には難しそうだと思って借りて読んでみてほしい。書物、とくに哲学の書物は一度読んだだけで理解できるものではない。このことを繰り返しているうちに、自分はどんなことに興味があるのか、自分は何をどこまで理解できているのかということがわかるようになる。

【コメント】

春学期配点 50 点、秋学期配点 50 点として通年で 100 点満点で成績評価をおこなう。  
春学期・秋学期配点 50 点の成績評価は、両学期とも  
・授業内で告知する小レポート 5 回(5 点×5 計 25 点)  
・学期末レポート(25 点)とする。

【留意事項】

講義名称	曜時
ドイツの文化A <春>	木1

【教員名称】

高田 里恵子

【講義概要】

この講義のキャッチコピーは「ドイツを知ると日本が見えてくる!」というものです。近代ドイツの歴史や文化を辿りながら、その影響を受けた近代日本の歩を振り返っていきましょう。

講義は第1部と第2部に分かれています。第1部は1900年前後のエリート教育について、ドイツの近代史を踏まえながら考察します。日本とアメリカ合衆国、ドイツとを比較しながら、各国の歴史的背景を見ていきます。

第2部では、1900年前後のドイツ社会の構造的な変化を、当時流行した学校小説を取りあげながら分析します。ブルジョア階級の特徴を「ホモソーシャル」という切り口で見つめながら、現代社会の分析にも踏み込んでいく予定です。同性社会であった当時の学校世界を、男性ホモソーシャルという視点からだけでなく、女性ホモソーシャルという観点を導入して分析していきます。

【学習目標】

文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とします。ドイツとアメリカの相違点、ドイツと他のヨーロッパの国との相違点、近現代日本と欧米諸国の相違点に注目しながら、ドイツおよび日本の近代史を知ることを目指します。

この講義では、授業内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたいと思います。講義前に「予習用スライド」を、講義後に「授業スライド」をアップロードします。詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「パワーポイント・スライドの配布について」をよく読んでください。

また、小テストやコメントシートなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をします。この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではありません。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となります。

【講義計画】

- 第1回：講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。  
また、講義のテーマを概観する。
- 第2回：第1部 ドイツ・日本・アメリカ、彼らはどのようにエリートを作ったか？  
19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツ史、その「特殊性」について概観する。
- 第3回：ドイツの中等教育制度について  
ギムナジウム体制の成立
- 第4回：近代日本の中等教育制度と高等教育制度について  
日本はどのようにドイツを手本としたか
- 第5回：アメリカのハイスクール制度とその特殊性
- 第6回：ドイツの敗戦とエリート教育の変化
- 第7回：日本の教育制度がドイツ型からアメリカ型へ変化していくときに生じたこと
- 第8回：第2部 ドイツ学校小説をとおして「ジェンダー」を考える！  
ドイツ教養市民層の構造
- 第9回：教養市民層の男らしさとその衰退
- 第10回：学校小説の構造と社会の動き
- 第11回：学校小説と同性間の関係
- 第12回：ドイツ学校小説の特徴について
- 第13回：日本におけるドイツ学校小説の受容について
- 第14回：学校小説とホモソーシャル性を考える応用問題  
女性ホモソーシャル性の特徴について
- 第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】

予習として、授業で扱う文学作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめます。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦することは重要です。  
また、復習として講義のノートをよく整理しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』(講談社学術文庫)  
M. クラウラ『ドイツ・ギムナジウム 200 年史——エリート養成の社会史』(ミネルヴァ書房)  
トマス・キューネ『男の歴史——市民社会と「男らしさ」の神話』(柏書房)

【コメント】

「試験」は、対面の小テスト(1回10点)を2回行ないます。問題はその日の講義の内容に基づいています。記述式で一問のみ。200字以上300字以内の解答となります。  
「レポート」は、期末レポートとして最後の授業の終了後に課題を出します。ウェブ提出になります。だいたい1000字から1200字程度のレポートにする予定です。  
「その他」については、ほぼ毎回提出していただくコメントシートや(小テスト実施日にはコメントシート提出はありません)、挙手での発言などを総合的に判断します。コメントシートに書いてもらう内容は、講義の最後に出す課題の解答です。コメントシートに感想や授業のまとめを書いていただくことはありませんので、ご注意ください。この言わば平常点が評価の中心となります。つまり、一番重要なのはこのコメントシート提出です。  
詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「コメントシート、レポート、テストの採点基準について、及びコピペに対する処置について」をよく読んでください。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
1年生も受講できる科目のため、基本的な事項(ノートテイキング、受講態度など)の指導が講義に含まれる可能性があります。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
統計学総論 I 01<春>	水 2

【教員名称】

吉田 茂一

【講義概要】

記述統計(=統計データの整理と記述の方法)について概説し、推測統計(=確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法)の基礎的な考え方について、講義を進めていく。講義の中では Excel を用いた基本的な統計分析の方法も解説する。

「統計学総論 I」と「統計学総論 II」では、大きな流れはどちらも共通しており、I で十分に扱えないトピックスを II で扱う。

【学習目標】

記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計(学)的なものの考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

【講義計画】

- 第 1 回: ガイダンス  
(各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)
- 第 2 回: 記述統計と推測統計
- 第 3 回: 代表値(平均値、中央値、最頻値)
- 第 4 回: ちらばりの指標(分散、標準偏差)
- 第 5 回: 偏差値
- 第 6 回: 度数分布とヒストグラム
- 第 7 回: 確率
- 第 8 回: 正規分布
- 第 9 回: 母集団と標本
- 第 10 回: 推定と検定
- 第 11 回: 平均の区間推定
- 第 12 回: 比率の区間推定
- 第 13 回: 平均に関する検定
- 第 14 回: 相関係数
- 第 15 回: 試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

教科書の練習問題等での予習・復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

【テキスト】

よくわかる統計学-I 基礎編-(第 2 版) 金子治平・上藤一郎編  
978-4-623-06111-2 ミネルヴァ書房(¥2600+税)

【参考文献】

郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社(税込 ¥1365) ISBN:978-4534026620

【コメント】

授業内で 2,3 回程度、Excel を用いて実際に計算を行えるかを確認するレポートを課す。

【留意事項】

シンクタンク[アジア太平洋研究所]勤務における調査分析の実務経験も反映させた講義内容

講義名称	曜日
東洋史 01<通期>	月 3

【教員名称】

濱野 亮介

【講義概要】

東アジア世界の中心であった中国王朝の変遷を軸に、モンゴル高原、中央アジア、極東地域、一部東南アジアの通史を概観する。なお、本授業では授業回ごとに予習的課題を課す。授業時以外での作業時間を要するので注意すること。

【学習目標】

東アジアの歴史を通史的に概観することによって関連する地域の歴史と文化の変遷の流れを理解し、それぞれが歴史を学ぶ意義について考えることを目標とする。

【講義計画】

- 第 1 回: 《授業外ダイナミクス》  
・授業の方法・予習・課題についての説明  
・全体の流れ  
・「東洋史」とは
- 第 2 回: 《歴史とはなにか》  
歴史の定義・なぜ歴史を学ぶのか
- 第 3 回: 《神話～夏殷時代》  
中華文明の発祥・神話から歴史へ
- 第 4 回: 《殷～西周時代》  
殷周革命・西周による封建制・周の東遷
- 第 5 回: 《春秋～戦国時代》  
覇者の時代・戦国七雄と各国の競争
- 第 6 回: 《秦代》  
秦による天下統一事業
- 第 7 回: 《楚漢争覇時代～前漢成立～武帝期》  
秦の滅亡・楚漢戦争・前漢の成立・武帝の積極政策
- 第 8 回: 《前漢末～後漢時代》  
外戚の専横・王莽と後漢成立・後漢朝の対外関係・宦官の跳梁
- 第 9 回: 《漢代の文化と周辺諸国》  
漢代の文化・北方の騎馬民族・古朝鮮～四郡設置、西南地域における国家の発祥
- 第 10 回: 《後漢末～西晋時代》  
黄巾の乱・三国鼎立・三国統一・八王の乱
- 第 11 回: 《五胡十六国時代(前期)》  
「五胡」と「十六国」・鮮卑族の勃興・前秦と苻堅
- 第 12 回: 《五胡十六国時代(後期)・六朝時代》  
淝水の戦い・華北の再統一・南朝貴族制の成立
- 第 13 回: 《南北朝～隋時代》  
非漢民族による「漢地支配」・仏教道教の発展・隋朝の成立
- 第 14 回: 《隋末～唐初時代》  
煬帝の即位・隋末騒乱・唐の成立・隋唐の政治改革
- 第 15 回: 《春秋内容の確認と復習》
- 第 16 回: 《秋期授業内容の概観》
- 第 17 回: 《唐朝と国際関係》  
隋唐と長安・シルクロードの成立・テュルク系民族・朝鮮半島と倭国・朝貢冊封と羈縻政策
- 第 18 回: 《唐時代(中期)》  
武周朝の成立・玄宗と黄金時代・安史の乱
- 第 19 回: 《唐末～五代十国時代》  
三国同盟・黄巢の乱と唐朝滅亡・「五代」と「十国」・燕雲十六州
- 第 20 回: 《五代末～宋時代》  
後周の世宗と宋朝・宋朝の中央集権体制・科挙の整備・王安石の改革
- 第 21 回: 《契丹(遼)・西夏・女真(金初)》  
沿海州と渤海国・契丹族の伸張・タングート族と西夏の成立・女真族の勃興・靖康の変・民族と文字
- 第 22 回: 《金・南宋時代》  
紹興の和議・海陵王と金朝の政治・南宋の専権宰相・都市と経済の発展・朱子学の成立・高麗の成立と中央アジアの動向
- 第 23 回: 《モンゴル帝国時代》  
チンギス=ハーンの登場・ウルスと大ハーン・モンゴル軍の遠征・四大ウルスの成立・クビライの即位
- 第 24 回: 《元朝～明朝時代》  
モンゴル帝国の解体・紅巾の乱・明朝の成立・靖難の変と永楽帝・経済の発展と商人の活動・明朝の皇帝たち
- 第 25 回: 《近世東アジアの国際関係と海》  
市舶司の設置・海禁と前期倭寇・「海禁=朝貢」システムの完成・銀の流入と後期倭寇・朝貢から五市へ・大航海時代と中国
- 第 26 回: 《内陸アジアの国際関係》  
モンゴル勢力の北走・ダヤン=ハーンとアルタン=ハーン・女真族の再興
- 第 27 回: 《明末～清朝時代》  
秀吉の朝鮮出兵・李自成の乱と明朝滅亡・ヌルハチと清朝入関・清朝黄金時代・条約の締結・「中国」の完成
- 第 28 回: 《清末～辛亥革命》  
帝国の斜陽と西洋諸国・アヘン戦争・続く内乱・「瓜分危機」・ロシアの伸張と朝鮮半島・近代化への道
- 第 29 回: 《中華民国～現代》  
国民党と共産党・ソ連と共産党・第二次大戦と日中戦争・大戦の終結・朝鮮戦争と東西冷戦・ソ連の解体と現在の東アジア
- 第 30 回: 《授業全体のまとめ》

【事前および事後学習の指示】

【授業外学習】

事前学習を目的とした課題の提出必須。授業終了後すくなく、M-Port にて次回の授業資料(PDF)を配布する。週末までに授業資料の内容を確認し、M-Port でそこに記された課題に解答・提出すること。授業時にはその解答の理解度に従って必要な部分を解説する。成績に直結するため、課題は毎回の提出を求める。

【テキスト】

【参考文献】

講談社『中国の歴史』シリーズ(全12巻)、2004年～2005年  
ほか、授業中に適宜紹介する。

【コメント】

《レポート》  
春・秋学期末それぞれにレポートを課す。  
《その他》  
授業回ごとに、事前に配布した授業資料に基づく授業前の予習課題を課す。  
※レポートおよび授業課題において、引用ルールを守らない盗用剽窃を行った者については厳正に対処する。

【留意事項】

本授業では、課題やレポートの作成時における、ChatGPTをはじめとする各種チャットツールなどの使用及びインターネット上の情報を根拠にすることを全面的に禁止する。明らかな使用が認められた場合だけでなく、課題やレポートの記述内容に明確な根拠が示せない場合などについても大幅な減点対象となるため、十分注意すること。なおこれらの詳細は初回の授業時に説明する。

講義名称	曜 時
東洋美術史 <通期>	月 4

【教員名称】

打本 和音

【講義概要】

本科目では、各時代・各地域の東洋美術の優品をテーマごとに確認することで、東洋美術の歴史を概観し、それらが日本にどのような影響を与えたのかを考えていく。

【学習目標】

本講義では、各回に東洋美術あるいは東洋美術と関連の深い日本美術の優品を取り上げ、他作品との比較を通して、その作品が持つ意味合いと東洋美術史上における意義についてみていく。よって受講者には、これらの作品の様子を記憶し、その記憶を繋いで東洋美術史に対する各自のイメージを作り上げてもらいたい。また少なくとも前期に3点、後期に3点の作品について、その歴史的価値と魅力について具体的に述べられるようにする。

【講義計画】

- 第1回： ガイダンス  
本講義の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明
- 第2回： 東洋美術史とは何か  
東洋美術史の基本的な考え方とシルクロード
- 第3回： シルクロードの美術①  
仏塔とその美術
- 第4回： シルクロードの美術②  
仏像の誕生
- 第5回： シルクロードの美術③  
仏教美術の基本的な主題と造形
- 第6回： シルクロードの美術④  
仏教美術の基本的な主題と造形の各地における展開
- 第7回： シルクロードの美術⑤  
仏伝と仏伝図
- 第8回： シルクロードの美術⑥  
仏伝図の各地における展開：インドでの展開を中心に
- 第9回： シルクロードの美術⑦  
仏伝図の各地における展開：中国での展開を中心に
- 第10回： シルクロードの美術⑧  
仏伝図の各地における展開：日本での展開を中心に
- 第11回： 石窟寺院の美術①  
石窟寺院概説
- 第12回： 石窟寺院の美術②  
石窟寺院の意義と構造(アジャンター石窟、エローラ石窟)
- 第13回： 石窟寺院の美術③  
石窟寺院の意義と構造(キジル石窟、パーミヤーン石窟)
- 第14回： 石窟寺院の美術④  
石窟寺院の意義と構造(龍門石窟、雲岡石窟)
- 第15回： まとめと試験
- 第16回： ガイダンス  
前期の復習と後期の講義の概要
- 第17回： 異界の美術  
天界・地獄・極楽の造形の概要
- 第18回： 地獄の造形①  
地獄の概要
- 第19回： 地獄の造形②  
地獄をあらわす美術の概要
- 第20回： 地獄の造形③  
地獄をあらわす美術とその地域的展開：インドから日本まで
- 第21回： 天界と神々の造形①  
天に関する概要
- 第22回： 天界と神々の造形②  
天をあらわす美術とその地域的展開：インドから西方へ
- 第23回： 天界と神々の造形③  
天をあらわす美術とその地域的展開：インドから東方へ
- 第24回： 極楽の造形①  
極楽の概要
- 第25回： 極楽の造形②  
極楽をあらわす美術とその地域的展開：群像表現を中心に
- 第26回： 極楽の造形③  
極楽をあらわす美術とその地域的展開：単独像を中心に
- 第27回： 生と死の美術①  
性と死をめぐる美術の地域的展開
- 第28回： 生と死の美術②  
聖と死をめぐる美術の地域的展開
- 第29回： 生と死の美術③  
生と死をめぐる美術の地域的展開
- 第30回： 総まとめと試験

【事前および事後学習の指示】

事後に紹介した作品の図版を掲載する図録や美術全集をみて、作品についての解説を読んだ上で、自らの作品に対する感想を述べられるようにする。目標として、前後期に各3点の作品について、このような作業をできるようにする。

【テキスト】

【参考文献】

高濱秀ほか責任編集『世界美術大全集 東洋編』 第1-17巻、小学館、1997-2000年。  
青柳正規ほか編『日本美術館』小学館、1997年。ほか

【コメント】

春学期試験を20%、秋学期試験を20%とする。  
その他の60%は受講態度とする。

【留意事項】

講義名称	曜日
図書館・博物館への誘い <春>	水 3

インテ

【教員名称】

藤間 真

【講義概要】

図書館・博物館・文書館で実際に働いている司書・学芸員・アーキストの口から、実際の活動および現状を聞くことにより、市民社会における社会の記憶機関とそれを支える専門職への理解を目指します。なお、講義計画執筆段階で講師のスケジュール調整が終わっていないため、下記に示すものはあくまで予定である。疑問のある人は、担当者までメールで問い合わせること。

【学習目標】

図書館・博物館・文書館に勤務する専門職の口から現状と展望を聞くことにより、市民社会における社会の記憶機関を支える専門職というロールモデルを提供すること、そのような社会的機関に対する関心・素養のない学生を含め、そのような機関を必要に応じて利用できる用意をすることが本講義のねらいである。

素養のある学生に、提供された専門職と言うロールモデルによって司書課程・学芸員課程に積極的に参加すること、また、受講したすべての学生が市民として社会の記憶機関の利用する能力を身につけることが本講義の到達目標である。

【講義計画】

- 第1回： 第一回はオリエンテーションと基礎知識の確認を行います。  
履修する予定の人、履修するか迷っている人は、視聴することを強く推奨します。  
第一回のアドレスは M-Port で提示予定ですが、わからない人は担当者までメール(m. tohma@andrew. ac. jp)で問い合わせてください。
- 第2回： 桃大生を支える桃大図書館  
第3回： 日本の博物館界の現状と展望  
第4回： 博物館の現状と展望：美術館の立場から  
第5回： 博物館の現状と展望：歴史博物館の立場から  
第6回： 博物館の現状と展望：企業博物館の立場から  
第7回： 博物館の現状と展望：科学博物館の立場から  
第8回： 博物館の現状と展望：水族館の立場から  
第9回： 日本のアーカイブの現状と展望  
第10回： 市立図書館の現状と展望  
第11回： 市立図書館の色々なサービス  
第12回： 学校図書館の新しいサービス  
第13回： 図書館関連企業の現状と展望：  
第14回： 専門図書館の現状  
第15回： 専門図書館の展望

【事前および事後学習の指示】

事後学習として、毎回の講義後、講義内容をまとめる宿題を課す。  
最寄りの図書館、博物館、公文書館等を事前に見学しておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

備考 出席した上で真剣に聴講し、しっかり復習しないと書けないレポートを課す予定です。なお、当初想定した受講人数から大幅に変動した場合、成績評価の方法を変換することがあります。詳細は第一回に説明します。

【留意事項】

原則として現在図書館・博物館で勤務されている実務家をゲスト講師として招聘予定である。

講義名称	曜日
日中ビジネス論 <春>	金 3

インテ

【教員名称】

大島 一二

【講義概要】

この講義は、日本および大阪を代表する企業、機関の担当者がゲスト講師となるインテグレーション講座です。「日中ビジネスの最前線」をテーマとし、日本と中国のビジネス事情について解説していただきます。

- 講義は、大きく以下の内容からなっています。  
(1)中国への企業進出や中国での事業展開について  
(2)日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係について  
(3)中国ビジネスの実際について

本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く日本経済・業界に関心のある学生にも興味を持てる内容となるでしょう。

【学習目標】

講義は、毎回異なるテーマについて、第一線で活躍しないし経験豊富な実務家をゲスト講師として進められます。本講義の目的は、日本経済と中国経済との関わりを理解し、日本の対中国ビジネスへの関心を深めていくことです。また、各回の講義で述べられる事例から、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を進めていくこともできると考えられます。

【講義計画】

- 第1回： ガイドンスおよび大島一二「中国における食品安全問題」  
講師日程と各回のテーマは確定次第あらためて連絡します。ただし、講師都合による日程変更時は別のテーマで行うこともあります。以下の日程は 2024 年度の予定です。
- 第2回： 林 千野氏(双日)「中国ビジネスの心構え」  
第3回： 和田芳明氏(N T T データ)「中国の IT ビジネス」  
第4回： 金子あき子氏(龍谷大学)「中国・香港・台湾における日系外食企業の戦略」  
第5回： 野崎由紀子氏(三井物産戦略研究所)「中国の農業・食品事業」  
第6回： 山田七絵(アジア経済研究所)「中国の食品ビジネス」  
第7回： 浜口夏帆(香港貿易発展局)「香港ビジネス」  
第8回： 竹内健氏(丸一鋼管)「企業のグローバル展開」  
第9回： 岡野寿彦氏(NTT データ経営研究所)「中国経済の発展と日本企業」  
第10回： 高村幸典氏(諏訪大連会)「中国の自動車産業」  
第11回： 辻維周氏(岡山理科大学)「中国・台湾からの訪日観光と課題」  
第12回： 繁実建史(日清食品)「中国での食品ビジネス」  
第13回： 森山たつを氏(スパイスアップ)「中国・香港・台湾への企業進出」  
第14回： 濱島敦博氏(桃山学院大学 ビジネスデザイン学部)「香港への食品輸出と課題」  
第15回： 齋藤幸則氏(テイジン)「中国での事業展開」、まとも

【事前および事後学習の指示】

日々の中国経済関係の報道に関心を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

対面授業を想定し、以下のように配点する。  
M-Port によるレポート(必修、1回、50点)、課題(5回各10点、50点)を基本とする。  
さらに講義への出席を促進するため、出席点20点(4回各5点)を加点する。  
合計120点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。  
59点以下D、60~69点C、70~79点B、80~89点A、90点~120点S。

【留意事項】

本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。

上記は 2024 年度の予定日程です。多数の講師にお願いしている講義の性格上、講師の都合により変更もあり得ます。ガイドンス時に、あらためて日程とテーマを提示しますので確認してください。また、対面授業の場合、授業中に私語をするなど、聴講の態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命じることがあります。悪質な場合、その場で「不合格」を宣告することがありますので、くれぐれも注意してください。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
日本近代史Ⅰ <春>	木 4

【教員名称】

島田 克彦

【講義概要】

「東アジアの中の近代日本」というテーマの下、幕末・維新期から日露戦争後に至る時期の歴史について講義を行います。

19世紀、発達した資本主義国である欧米列強は、アフリカ・アジアを植民地として分割し、さらに東アジアに迫ってきます。このような国際情勢の中、武力で江戸幕府を倒して成立した明治政府は、急速な近代化を推し進めていくこととなります。

このような近代国家の構築過程は、日本社会や、周辺地域との関係をどのように特徴づけ、どのような矛盾を生み出していったのでしょうか。授業では、明治期の日本が東アジアの植民地帝国となっていく過程を、①東アジアの中の日本、②大阪をはじめとする地域、という2つの視点から学んでいきます。

【学習目標】

東アジアにおける植民地帝国・日本の構築過程で形成される、日本社会や、近隣諸地域との関係の特質を理解すること。

【講義計画】

- 第1回：東アジアの中の近代日本 ―開講にあたって―  
第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
- 第2回：東アジアの伝統的国際秩序  
第3回：開国と幕末・維新期の社会  
第4回：明治政府の外交路線と国際関係 ―対ヨーロッパ外交・対東アジア外交―  
第5回：明治政府と国家・国民 ―アイヌ・沖縄にとっての近代―  
第6回：大村益次郎の兵制構想と徴兵規則  
第7回：軍隊の創設と徴兵令  
第8回：近代日本の国家体制 ―地方制度と学校教育―  
第9回：近代日本の国家体制 ―大日本帝国憲法―  
第10回：近代工業都市大阪の成立と社会変動  
第11回：日清戦争後の社会  
第12回：日露戦争と国民  
第13回：日露戦争後の社会  
第14回：アジアにおける植民地帝国・日本  
第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】

各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。

【テキスト】

使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

【参考文献】

- ※講義の中で適宜紹介します。
- 山口啓二『鎖国と開国』岩波書店、1993年  
中塚明『近代日本と朝鮮』三省堂、1994年  
石井寛治『日本の産業革命』朝日新聞社、1997年  
加藤陽子『戦争の日本近現代史』講談社、2002年  
原田敬一『戦争の日本史 19 日清戦争』吉川弘文館、2008年  
山田朗『戦争の日本史 20 世界史の中の日露戦争』吉川弘文館、2009年  
趙景達『近代朝鮮と日本』岩波書店、2012年  
宮地正人『幕末維新変革史』上・下、岩波書店、2012年  
中塚明・井上勝生・朴孟洙『東洋農民戦争と日本』高文研、2013年  
奥田春樹『維新と開化』吉川弘文館、2016年  
飯塚一幸『日清・日露戦争と帝国日本』吉川弘文館、2016年  
大日方純夫『「主権国家」成立の内と外』吉川弘文館、2016年

【コメント】

成績評価の配分は、毎回の確認・まとめ課題 45%、レポート(2回を予定)55%。  
毎回の確認・まとめ課題は、授業への出席とセットで評価します。  
レポートは2回とも提出すること。1回の提出がなければ単位を認めません。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本経済史Ⅰ <春>	木 1

【教員名称】

見浪 知信

【講義概要】

近世から1900年代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表もとに具体的に説明します。また、現代社会への接続を意識しつつ、国際比較や国際関係といった観点を取り入れて講義します。

【学習目標】

- ① 日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。
- ② 日本経済を、国際比較および国際関係といった観点で捉えることができる。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス 日本経済のあゆみ  
第2回：近世① 近世の貿易  
第3回：近世② 近世の農業発展  
第4回：近世③ 国内市場の形成  
第5回：近世④ 近世の物価・財政  
第6回：幕末・維新期① 開港の経済的影響  
第7回：幕末・維新期② 明治維新  
第8回：幕末・維新期③ 地租改正と株權処分  
第9回：幕末・維新期④ 殖産興業政策  
第10回：幕末・維新期⑤ 松方デフレ  
第11回：産業革命期① 企業勃興と産業革命  
第12回：産業革命期② 企業勃興の制度的基盤  
第13回：産業革命期③ 日清・日露戦争と日本経済  
第14回：産業革命期④ 明治期の国際経済関係  
第15回：期末試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。  
授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。

【テキスト】

【参考文献】

タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著  
出版社：有斐閣、ISBN：9784641164888、備考：2016年出版

【コメント】

この講義の成績は、第15回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
日本経済論Ⅰ <春>	月 1

【教員名称】

澤田 鉄平

【講義概要】

日本経済は、第二次世界大戦後の対米従属・安保体制を前提とした日本特有の資本蓄積および外需依存によって発展したが、今日まで内在する矛盾を温存・強化しており、また世界経済の変化の中で日本経済はバブル崩壊以降、深刻な長期不況が続いている。そこで本講義では戦後日本経済の歴史的發展過程を経済・政策の視点に立脚して振り返り、内在する諸矛盾の検討を通じて、今日求められる日本経済再生の糸口を探っていく。日本経済論Ⅰは戦後日本の復興期から経済成長期を経て長期不況に至る前夜であるバブル崩壊までを、日本経済論Ⅱはバブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察していく。

【学習目標】

- 本講義に積極的に取り組むことを通じて
  - 戦後からバブル期までの日本経済についての体系的な理解。
  - 今日日本経済の諸現象についての要因の考察。を獲得するのが目標である。

【講義計画】

- 第1回：日本経済の学びとは何か？(イントロダクション)
- 第2回：米ソ冷戦構造の発展とGHQによる戦後民主化改革、財閥解体、農地改革、労働改革
- 第3回：朝鮮戦争と特需、高度成長を迎えるための資本蓄積
- 第4回：重化学工業育成政策と企業集団・系列化
  - ：高度成長期(その1)
- 第5回：国際競争力強化、70年代への足がかり
  - ：高度成長期(その2)1962~70年
- 第6回：都市流入と地方過疎化
  - ：高度成長期の弊害(その1)
- 第7回：公害発生と公害闘争
  - ：高度成長期の弊害(その2)
- 第8回：プレントゥス体制の崩壊と日本経済
  - ：高度成長の終焉(その1)1970年代
- 第9回：2度のオイルショック、狂乱物価、輸出競争力を増す製造業
  - ：高度成長の終焉(その2)1970年代
- 第10回：米国双子の赤字、輸出競争力のピーク
  - ：安定成長期(その1)1978~1983年
- 第11回：日米貿易摩擦とその解決方法、多国籍化の萌芽
  - ：安定成長期(その2)1984~1986年
- 第12回：プラザ合意、前川リポートと政策転換
  - ：バブル経済(その1)
- 第13回：過剰流動性、実体経済と金融経済の乖離
  - ：バブル経済(その2)
- 第14回：公定歩合引き上げ、金融経済の急速な収縮と不良債権問題
  - ：バブル崩壊
- 第15回：戦後日本経済の振り返り・ゆがみの頂点
  - ：失われた25年への道

【事前および事後学習の指示】

参考文献のうちのいずれかを選び、第二次世界大戦後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。  
M-Portに資料をアップするので、講義内容を繰り返し読み、わからない部分については自分で調べ、それでも理解できない場合は教員にM-Portで質問すること。

【テキスト】

【参考文献】

- 中村隆英(1986)『昭和経済史』岩波書店。
- 三和良一(2012)『概説日本経済史 近現代 第3版』東京大学出版会。
- 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直(2011)『現代日本経済 第3版』有斐閣。

【コメント】

課題6回;10点=60点  
期末レポート1回;40点=40点  
の合計100点満点で評価します。

【留意事項】

講義名称	曜日
日本語学概論 <春集>	月3/木3

【教員名称】

有川 康二

【講義概要】

ONE PIECE のルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいるよ！」。「る。」って変。何故？大学応援歌の「青空」は[aozora]だけど、[aosora]は変。でも、大学学歌では「大空」は[loosora]で[loozora]ではない。何故？「瘦せた猫の飼い主」と「瘦せた猫と飼い主」では意味が違う。何故？「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。何故？「が」とか「を」って何？格助詞って何？格って何？「が」とか「を」について徹底的に考える。「が」とか「を」は母なる自然がつくった情報処理の臓器(脳)に発生したウイルス(エラー)。ホモ・サピエンス語を生み出す言語システムは、このウイルスと共生して構造を創る。ヒト脳の言語システムは母なる自然がつくったウイルス・チェック・システム。授業を受けると意味が分かります(驚)。「が」とか「を」について徹底的に考えるのは、あなたの人生の中で最初で最後。日本語の母語話者は文法など意識せずに使う。日本語はアホほど当たり前(阿呆)。日本語のことは何でも知っていると思ひ込む。しかし、日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できない。全部知っていると思ひ込んでいることが、何にも分かっていないという戦慄！誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。経験科学の方法で言語システムの法則とメカニズムを探る(科学は、当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まる)。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主(科学者)。長年の学校教育と受験勉強で抹殺されたこのすばらしい能力を取り戻してみませんか？「自然言語(ことばをしゃべる)」というアホらしい現象は、物理学の最先端の問題である「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」というようなアホらしい現象と同様、科学の格好の対象。鳥は飛びまくり、魚は泳ぎまくり、花は咲きまくり、犬は吠えまくり、カエルはジャンプしまくり、私たちヒトはしゃべりまくり。言葉とは何か？その言葉をしゃべりまくる生物である私達とは、一体、如何なる生物なのか？授業をちゃんと聞かない人、勉強する気がない人には全て無駄話に聞こえます(危険)。向学心豊かな真の大学生になる気のない人は受講しないでください(願)。

【学習目標】

日本語を三つの視点から概論。(1)生物言語学：ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とは？何故、ホモ・サピエンス語はこんな形なのか？(2)日本語教育学：日本語を外国語として学ぶ人にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とは？地球上の数千の言語は、同じホモ・サピエンス語の方言。日本語を外国語、ホモ・サピエンス語として考える。(3)哲学：今この瞬間も時速10万8千km(弾丸速度の約19倍)で公転している地球。その表面に重力でへばりついて、今ここで何をしているのか？約138億年前にできたこの宇宙の中で、46億年前にできた地球上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をしながら、老いて、死んでいくのか？お寺とか大学とか超暇な時間が流れる時空間で考えます。宇宙市民となって徹底的に考えてみませんか？(驚愕)

【講義計画】

- 第1回：イントロ
  - 履修要項とシラバスの確認。
  - 勉強とは？単位とは？何故、英語の教科書を使用するか？
- 第2回：私たちホモ・サピエンスの脳の中に約200万年前に突然変異的に出現した自然言語システムの本質とは？言語とは？言語の牢獄に閉じ込められた人間とは、いかなる生物か？
- 第3回：ヒト脳の中の言語計算システムの説明とは？「説明」とは何か？
- 第4回：古典物理学の説明の方法とは何か？
- 第5回：ガリレオ、ニュートンらが約500年前に開始した古典物理学、約120年前に開始された量子力学では説明できない自然現象の説明とは？(あなたの脳内の自然言語システムは、母なる自然が約200万年前に創造した自然物。)
- 第6回：言語に関する常識(ドグマ)を疑う(1)
- 第7回：言語に関する常識(ドグマ)を疑う(2)
- 第8回：言語に関する常識(ドグマ)を疑う(3)
- 第9回：言語に関する常識(ドグマ)を疑う(4)
- 第10回：ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？(1)
- 第11回：ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？(2)  
あなたが言葉を聴いたり、発したりしている時、脳の中で何が起きている？
- 第12回：ミツバチ語を生み出すミツバチ脳の計算とは？何故、ミツバチ語？ミツバチはピタゴラスの定理を本能的に利用！
- 第13回：数百年の研究の歴史がある連濁現象は、慣性の法則に従う自然現象！
- 第14回：「仲間がいるよ！！！」何故、「る」は、普通ではないのか？
- 第15回：複数を示す音素/s/が三種類に変化することは中学英語で勉強した。cakes, dogs, boxesでは、音素/s/は、[s], [z], [i:z]。何故か？日本語の連濁と同様、慣性の法則に関わっている！連濁が阻止される音韻環境を決定するライマンの法則とは？
- 第16回：ヒト脳の言語計算システムで、どのような素性(情報、英語で、features)が関わっているか？言語にとって本質的な素性とは構造素性(形態統辞素性)！
- 第17回：言語システムの計算とは何か？文の構造、ウイルス・チェックの構造を紹介。
- 第18回：言語システムで決定的に重要な操作「結合」(英語では、MERGE)(1)  
結合操作は、一見、単純だが、言語計算の本質的な操作。
- 第19回：「結合」(MERGE)(2)
- 第20回：言語システムの基本性質(basic property)(1)  
キーワードは、「構造的最近距離」。
- 第21回：言語システムの基本性質(basic property)(2)
- 第22回：言語システムの基本性質(basic property)(3)
- 第23回：言語システムの基本性質(basic property)(4)
- 第24回：「言語システムはウイルス・チェック・システム」という仮説をより詳しく。  
あなたの体は、ウイルス・チェック・システム(免疫システム)。あなたの言葉を生み出す言語システムは、あなたの頭蓋骨という自然の創造したヘルメットの中の脳という情報処理の臓器(典型的な免疫システム)の中。
- 第25回：言語システム内で起こる構造素性(エラー、ウイルス)の消去を、数学のガウスの消去法と生物の免疫機構と比較、考察。あなたのスマホの中の全てのソフトは、ガウスの消去法を四六時中、使用。

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
日本史 02<通期>	火 3

- 第26回：言語システムにおいて、数学でいう交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？(1)  
 (「結合法則」(associative law)の「結合」(associative)と、言語操作「結合」(MERGE)は別。)
- 第27回：言語システムにおいて、交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？(2)
- 第28回：自然法則、物理法則である「最小計算の法則」(principle of minimal computation (MC))の詳細。ミツバチが本能的に駆使するピタゴラスの定理が再登場。
- 第29回：MC(続き)  
 第30回：MC(続き)

#### 【事前および事後学習の指示】

内容を順次理解しなければ、珍糞漢糞になります。特定の教員に「授業内容を説明して」と質問された場合、皆さんが説明する義務はありません。授業を聞いただけで最先端の内容を説明できなくて当然。皆さんが授業ノートを取りながら懸命に勉強する。それで十分。もし、そのような質問にストレスを感じた場合、本学のハラスメント委員会、または、私に相談して下さい。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

Jenkins, L. (2000) *Biolinguistics: Exploring Biology of Language*. Cambridge University Press.  
 酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生み出すか』中公新書  
 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版  
 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版

#### 【コメント】

講義中に自筆でノートをとってください。毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。自筆でのノート取りは基本の基。基本の基で評価します。ここでは剽窃援助AIシステム ChatGPTも無能です。

#### 【留意事項】

日本語教師としての実務経験あり  
 毎回の講義の録画データを M-Port にアップします。自筆ノートの補正に利用して下さい。

#### 【教員名称】

吉村 智博

#### 【講義概要】

日本史を履修するにあたり、歴史学および人文地理学の最新の研究成果を反映させた内容とする。春期は、日本史の視点や認識を概観する研究入門からはじめ、文献資料を中心とした前近代史および近現代史について講義する。秋期は、画像資料を中心に前近代を中心とする地図に関する内容とする。その際、原史料(文字と地図)をできるだけ参照しつつ進めていく。春期・秋期ともにおこなう授業内レポートでは、受講生自身の独自の意見・見解・論理などを問う内容となる。なお、レポートをもって「試験」に替えることとする。

#### 【学習目標】

義務教育段階あるいは高等学校段階までで基本的に履修した歴史的事項はもちろんのこと、個別テーマについて掘り下げて考察することで、日本史における多様な側面を深く理解することを目標とする。ゆえに、受講生自身の関心や考究の態度など学習の到達度がわかるような授業内レポートを実施する。また、本講義を受講することによって、最新の日本史学界の動向やその研究状況、さらには、日本史のみならず日本地理に関する基本的な事柄を履修することができる。それは、すなわち、歴史総合をベースにした日本史探求を実践することにつながる。

#### 【講義計画】

- 第1回：日本史入門-日本史学の現在  
 通期の授業計画およびガイダンスを含め、日本史研究の現段階について概説する。
- 第2回：日本史の見方①-民衆史・社会史  
 1970年代以降に注目されるようになった民衆史と1980年代にヨーロッパ社会論の影響を受けて導入された社会史について
- 第3回：日本史の見方②-国民国家論・帝国論・グローバリスティクス  
 1990年代に社会主義国の崩壊以降に問題となった国民国家、コロナリズムを必然的に内包する帝国主義の歴史と現段階、および近年のグローバルヒストリーの基本的考え方について
- 第4回：古代社会と律令制  
 記紀神話に代表される古代の歴史観と社会観、さらに律令国家の社会構成および身分制度について
- 第5回：中世社会と権門体制  
 荘園公領制を基本として展開される中世の政治的・経済的社会について
- 第6回：近世社会と身分制  
 近世の特徴である幕藩・大名領国・旗本知行を基本とする身分制社会(都市・農村)における生活の諸相について
- 第7回：明治維新と地方自治  
 日本近代化の転換点となった明治維新期の外交と政治、および国内自治の内実について
- 第8回：自由民権と帝国憲法  
 民選議員設立建白に端を発する国会開設、憲法制定運動の内実と帝国憲法について
- 第9回：日清戦争と日露戦争  
 近代化路線を進進する日本が東アジアにおいておこなった戦争とその意味について
- 第10回：第1次世界大戦と民力涵養  
 ヨーロッパにおける戦争にアジアを舞台に参戦した日本の意図とその新たな分析視角について
- 第11回：米騒動と社会政策  
 富山に端を発した米騒動の通説的理解の見直しと、その後の都市型社会政策について
- 第12回：大正デモクラシーと民本主義  
 「大正」期に隆盛したデモクラシーの状況とその思潮・文化の内容について
- 第13回：アジア・太平洋戦争  
 昭和恐慌後におこった15年におよぶ対中国戦争(アジア)と、対米・英・蘭戦争(太平洋)の意味と現在性について
- 第14回：春期のまとめとレポートについて  
 春期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、春期のレポートについての注意事項
- 第15回：春期の到達度確認のためのレポート提出  
 春期の学習到達度を確認するため、期限を設けてレポートの提出を課す(注意事項は第14回に明示)
- 第16回：古代社会と荘園絵図  
 班田制から荘園公領制に移行していく古代・中世の社会の諸相と現存する荘園絵図について(あわせて古地図・絵図の歴史的位置づけの外観)
- 第17回：中世社会と行基図  
 一般的に「行基図」と称されている絵図の特徴と東アジアにおける日本の地理的位置、および中世の世界観について
- 第18回：戦国大名と洛中洛外図  
 京の街並みを鳥瞰した洛中洛外図屏風が描き出す日常の空間と人々の生活、さらに武家文化と公家文化との相違について
- 第19回：外国との接触と世界図  
 大航海時代に「到達・発見」されたことによって、高い関心を寄せた多くの地理学者・地図作成者の手になる世界図と日本図について
- 第20回：測量への挑戦と伊能図  
 歩測における日本地図を完成させた伊能忠敬を取り巻く人間関係と測量方法およびシーボルト事件について
- 第21回：徳川の権威と国絵図  
 将軍家が日本全国の諸大名や旗本などの領国・知行地などを一括支配するために命じた国絵図の編纂意図について
- 第22回：松前・薩摩と蝦夷図・琉球図  
 松前藩を通じて交易のありながら長くその存在を明記されなかった「蝦夷」、尚氏による王朝として栄えた「琉球」を描いた地図について
- 第23回：共同体生活と村絵図  
 近世身分制社会を支える経済生活の基礎となっていた在地共同体(農村)の

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜時
日本文化研究-科学と思想 A <春>	月 1

## 【教員名称】

尾鍋 智子

## 【講義概要】

日本に西洋科学が本格的に輸入され出した近代以前にも日本に科学的思想が存在したことは一般にあまり知られていない。本講義では古代の宇宙観から幕末に至る天文知識まで、日本における科学と思想の関係を考える。仏教に代表されるように、他国から思想が伝播する際、科学も思想の一部として移入されることが多い。文化や社会的土壌の相違から取捨選択と変化を経て受容されるわけだが、この変化の様相に映し出される日本文化の特質を調べる。

## 【学習目標】

日本における科学と思想の関係を探ることにより、その受容の過程や変容から、日本文化の特質を見つめることができ、日本文化へのより深い理解ができる。

## 【講義計画】

- 第1回：コース説明及びイントロダクション
- 第2回：日本の自然観(1)詩歌にみる自然観(吉田1章)
- 第3回：日本の自然観(2)叙情と叙事
- 第4回：古代日本の宇宙観(1)北辰から太陽へ
- 第5回：古代日本の宇宙観(2)日本的宇宙観の確立
- 第6回：仏教と科学(1)日本仏教概観
- 第7回：仏教と科学(2)密教と錬金術
- 第8回：仏教と科学(3)『空海の風景』唐への留学
- 第9回：仏教と科学(4)『空海の風景』空海と錬金術
- 第10回：朱子学と科学(1)理気二元論と科学
- 第11回：朱子学と科学(2)西洋科学受容へと向かった朱子学者
- 第12回：キリスト教と西洋科学(1)その相克について
- 第13回：キリスト教と西洋科学(2)キリスト教と共に入ってきた科学
- 第14回：キリスト教と西洋科学(3)日本における受容
- 第15回：まとめと復習試験

## 【事前および事後学習の指示】

配布した資料を授業前後に読み、予習復習すること。取り上げるトピックについての基礎知識は、事前に学習しておくことが望ましい。  
(事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間)

## 【テキスト】

プリントを配布する

## 【参考文献】

## 【コメント】

「その他」は毎回の授業に関する課題。課題は出席者のみが回答することができる。毎回出席が原則。5 回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15 分以上の遅刻を 3 回した場合 1 回の欠席としてカウントする。

## 【留意事項】

- 水利・入会などを記した村絵図について
- 第24回：出版文化と大坂町絵図  
近世の三大都市のひとつある大坂市中を描いて出版された大坂町絵図の特徴と変遷について
- 第25回：伝統都市と京都町絵図  
洛中洛外図以来、衆目をさらっていた京の街並みを描いて出版された京都町絵図の特徴と変遷について
- 第26回：首都建設と江戸町絵図  
家康の入部以来本格化する江戸の街づくりに関する絵図の変遷とその特徴について
- 第27回：明治維新と基本図  
内務省地理局と陸軍参謀本部との 2 系列で作成されていく基本図の法制的な位置づけとその特徴について
- 第28回：遊覧図と外邦図  
デモクラシーの思潮とともに整備されていく諸都市を描いた吉田初三郎、美濃部政治郎に代表される遊覧図について、および植民地支配を軸に帝国の版図を拡大していくなかで作成された外邦図について
- 第29回：秋期のまとめとレポートについて  
秋期 13 回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
- 第30回：秋期および通期の到達度確認のためのレポート提出  
本講義の秋学期および通期にわたる学習到達度を最終確認するため、授業内でレポートを実施(注意事項は第 29 回に明示)

## 【事前および事後学習の指示】

事前・事後とも 30 分程度

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- 春期および秋期のはじめに詳細なものを提示するが、さしあたり、全体にかかわる以下のものを提示する。
- ①永原慶二『20 世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2003
  - ②桂島宣弘『思想史で読む史学概論』文理閣、2019
  - ③大日方純夫ほか編『日本近現代史を読む・増補改訂版』新日本出版社、2019
  - ④佐々木潤之介ほか編『概論・日本歴史』吉川弘文館、2000
  - ⑤金田章裕・上杉和央『日本地図史』吉川弘文館、2011

## 【コメント】

基本的には教室での講義であるため、毎回作成するプレゼンテーション(ppt 音声入り)あるいはレジュメ(いずれにしても基本的に M-Port よりダウンロード)をもとに授業を進める。春期および秋期の最後に論述中心のレポート(試験に相当)を課すことになる。また、春期・秋期とも毎回「コミュニケーションカード」のようなものを記入してもらう。

なお、レポートを提出しない、レポートの内容が到達点に達していない、コミュニケーションカードの提出がない、などの場合には単位を認定することは難しい。

## 【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)

授業のレジュメなどは各自で DL できる環境で聴講してください。

講義名称	曜日
日本文化研究-文化財保護修復と日本文化A <春>	月 1

【教員名称】

山内 章

【講義概要】

主に江戸時代から明治時代前期の建造物彩色や絵画を対象として、文化財保存修復の視点から日本文化について解説します。江戸時代の絵具類については、担当教員が葛飾北斎の作品調査で得た情報を基に、絵具の使い方の演習を交えて講義します。

【学習目標】

①江戸時代に使用された絵具類と基本的な技法を理解する。②彩色された文化財、資料の破損劣化の原因や状態を理解する。③社寺建造物彩色や絵画の保存修復の目的・原則・基本的な修復方法を理解する。④文化遺産を活用して我が町をPR(町おこし)するアイデアを練る。

【講義計画】

- 第1回: ガイドンスー彩色文化財の保存修復を通じて日本文化を学ぶ
- 第2回: 有形文化財の破損・劣化と原因①
- 第3回: 有形文化財の破損・劣化と原因②-彩色文化財・資料の破損・劣化-
- 第4回: 江戸時代の絵画材料
- 第5回: 彩色文化財の基礎-伝統材料の膠(にかわ)と漆(うるし)-
- 第6回: 膠の作り方と使い方
- 第7回: 彩色文化財の保存と修復①-彩色の剥落止め処置-
- 第8回: 彩色文化財の保存と修復②-彩色の補彩と復元-
- 第9回: 葛飾北斎の絵具類
- 第10回: 葛飾北斎筆 岩松院本堂天井絵鳳凰図
- 第11回: 葛飾北斎筆 祭り屋台天井絵「怒涛図」と縁絵
- 第12回: 葛飾北斎作品を活用した日本文化の発信
- 第13回: 文化遺産を活用した地域社会活性化の取り組み
- 第14回: 我が町の歴史ヒーローを活用した地域社会活性化アイデアを創る
- 第15回: 授業内試験-レポート作成-

【事前および事後学習の指示】

授業日前に M-port に授業資料を配信します。資料を読み、事前学習を行ってください。また、授業資料は春学期終了まで M-port に掲示します。事後学習に活用してください。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

授業の終わりにレポートを作成します。出席を重視しますが、授業内試験(レポート)の点数を総合して成績を評価します。

【留意事項】

文化財修復の現場で絵画や彩色資料の調査と保存修復に取り組んでいます。

講義名称	曜日
日本文化史 A 01<春>	土 4

遠隔授業(オンデマンド型)

【教員名称】

梅山 秀幸

【講義概要】

『源氏物語』は「ものあはれ」を書いたものだ、本居宣長はいう。「ものあはれ」とは心の奥底の感情の動きだと考えていいが、原文を味わいながら、以後の日本人に影響を与えてきた美意識について考えていく。「色好み」は今の社会では悪徳だが、平安時代の貴族社会がつかったセクシュアリテが鎌倉以降の武士社会で起こした相克、近松門左衛門の「妻敵討ち」などについても言及したい。

【学習目標】

一般的な学生は高校の古典の授業など敬遠して過ぎてきたと思われるが、煩瑣な古典文法にこだわることなく、できるだけかみ砕いて解釈していくことで、「苦手意識」を払拭して、おもしろいと思うところまでたどり着きたいと思う。

【講義計画】

- 第1回: 『竹取物語』一物語の誕生一
- 第2回: 『伊勢物語』(1)一「みやび」という美意識一
- 第3回: 『伊勢物語』(2)一「ゆめ」か「うつつ」か一
- 第4回: 『源氏物語』「葵」を読む(1)一“いとこ”との結婚一
- 第5回: 『源氏物語』「葵」を読む(2)一レヴィ=ストロース『親族の基本構造』の紹介一
- 第6回: 『源氏物語』「葵」を読む(3)一レヴィ=ストロース「あちこちに読む」の紹介一
- 第7回: 『源氏物語』「葵」を読む(4)一齋宮と齋院一
- 第8回: 『源氏物語』「葵」を読む(5)一賀茂(鴨)のまつり一
- 第9回: 『源氏物語』「葵」を読む(6)一車争い一
- 第10回: 『源氏物語』「葵」を読む(7)一恋愛における三者関係一
- 第11回: 『源氏物語』「葵」を読む(8)一生霊、あるいはドッベルゲンガー一
- 第12回: 『源氏物語』「葵」を読む(9)一ドッベルゲンガー、村上春樹の場合一少女期の終焉一
- 第13回: 『源氏物語』「葵」を読む(10)一喪失 少女期の終焉一
- 第14回: 能の「葵」を見る一世阿弥はどう換骨奪胎したか一(1)
- 第15回: 能の「葵」を見る一世阿弥はどう換骨奪胎したか一(2)

【事前および事後学習の指示】

難解な原文については丁寧に解説するつもりですが、自分でもくりかえし読んで理解するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

『源氏物語(一)』(岩波文庫)

【コメント】

毎回、授業に関わって簡単な課題を出します(300字前後)。それを「レポート」とします。「その他」はそのレポートの内容による+αです。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
日本文化史 A 02<春>	木 2

【教員名称】

南郷 晃子

【講義概要】

日本の説話や伝承の世界には、「ウチ」と「ソト」という空間認識が反映されているものが多くあります。「ソト」は村の外であることもあれば、海のむこう、他界であることもあります。そしてその間にはウチとソトをわけける「境界」があります。そして物語はしばしば境界を越えるものにより伝えられています。本授業では、ウチとソト、そして境界をキーとして伝承世界を細解いていきます。また伝承を伝えるものとしての境界を行き交う人々にも焦点を当てます。講義形式ですが、コメント・意見をもとめず。授業を通して活発に議論をしていきたいと思っています。

【学習目標】

説話、伝承世界を中心にウチとソトの認識について理解をする。その上で物語世界のみならず社会のあちこちに引かれる「境界」を意識化できるようになる。また表象と境界について自分で考察し分析できるようになる。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：境界と説話、伝承
- 第3回：境界をみつめる
- 第4回：ウチからソトへ虫を送る
- 第5回：境界のソトからくるもの①-疫神
- 第6回：境界のソトからくるもの-来訪神
- 第7回：境界のソト①-海のむこうの世界
- 第8回：境界のソト②-山中他界
- 第9回：ウチとソトの葛藤①-歓待と殺人の伝承
- 第10回：ウチとソトの葛藤②-共同体と憑きもの
- 第11回：ウチとソトをつなぐもの①-憑かれるもの
- 第12回：ウチとソトをつなぐもの②-供儀、生贄
- 第13回：ウチとソトをつなぐもの③-芸能者
- 第14回：身近な説話世界
- 第15回：まとめと試験

【事前および事後学習の指示】

授業用に配布するレジュメに含む説話をあらかじめ読み、内容を把握しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

赤坂憲雄『境界の発生』(講談社学術文庫、2002年)小松和彦『異人論』(青土社、1985年)

【コメント】

試験は記述を中心とします。授業をふまえて A4,1 枚程度の論述を行なってもらいます。持ち込みは不可です。  
また「その他」の50%は、毎回の授業内で課題を出すためその回答です。ChatGPT など生成 AI の利用はみとめません。5 回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。

【留意事項】

講義名称	曜日
ネットワーク論 01<春>	木 1

【教員名称】

中崎 修一

【講義概要】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。さらにセキュリティの観点から、情報通信ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術を中心に、現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】

現代社会と情報通信ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、情報通信ネットワークを活用するという観点から、各種活用法や、更には新しいサービス提供やビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

- 第1回：現代社会と情報通信
- 第2回：情報通信の基礎知識 n 進数の基礎、データとは、通信の方向
- 第3回：情報通信のしくみ(1) ネットワークの基本
- 第4回：情報通信のしくみ(2) プロトコル、階層構造、IP(1)
- 第5回：情報通信のしくみ(3) IP(2)、TCP、UDP
- 第6回：情報通信のしくみ(4) WWWのしくみ、DNS
- 第7回：情報通信のしくみ(5) HTTP
- 第8回：情報通信のしくみ(6) Web ブラウザ、ネットワーク機器
- 第9回：インターネット(1) サービス基盤
- 第10回：インターネット(2) コミュニケーションツール
- 第11回：ネットワーク設計と構築
- 第12回：ネットワークセキュリティ(1) 基礎知識、安全な運用
- 第13回：ネットワークセキュリティ(2) 事例考察
- 第14回：情報通信技術の活用(1) ネットワーク形態、有線・無線接続
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習及び事後学習については、その都度配布資料等で指示する予定である。普段から情報通信ネットワーク(携帯電話を含む)について、利便性や安全面を意識しながら利用してもらいたい。  
パソコンやインターネット関連の基本的な用語理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。

【テキスト】

クラウド時代のネットワーク入門 要素技術、設計運用の基本、ネットワークパターン  
大喜多利哉  
978-4-7981-6603-2 翔泳社

【参考文献】

適宜紹介

【コメント】

レポート課題(またはそれに準ずる課題)を計7回実施予定である。  
『その他』の内訳は、授業参加(出席に近い)14%、授業中の成果物提出 30%とする。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
PC が必須となります。

講義名称	曜日
農業経済論Ⅰ <春>	水1

【教員名称】

大島 一二

【講義概要】

近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐる各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。

本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。

農業経済論Ⅰでは、農業経済、フードシステムに关する理論的な学習を行う。

【学習目標】

本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

【講義計画】

- 第1回：序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
- 第2回：経済発展と農業、農業部門の縮小、エンゲルの法則
- 第3回：世界人口の急増と食料
- 第4回：食料自給率の低下と影響
- 第5回：農地と地代、農業技術の進歩、農業機械化
- 第6回：農業の経営組織、大規模経営の育成
- 第7回：高齢化と新たな農業の担い手
- 第8回：農業と協同組合(1)日本の農協組織
- 第9回：農業と協同組合(2)中国の農民專業合作社
- 第10回：農産物貿易と貿易保護
- 第11回：フードシステムの発展と食品産業
- 第12回：食品産業のグローバル化(1)農業企業
- 第13回：食品産業のグローバル化(2)食品加工産業
- 第14回：食品産業のグローバル化(3)外食産業、食品小売業
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】

- 1)速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』(岩波書店)
- 2)荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学[第4版]』岩波書店 2015年
- 3)生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会 1993年
- 4)時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社 1998年
- 5)大島一二・山田七絵『朝日緑源, 10年の軌跡 - 中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版, 2019年
- 6)大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換 (日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房, 2015年

【コメント】

対面授業を想定し、以下のように配点する。  
M-Portによるレポート(必修、1回、50点)、課題(5回各10点、50点)を基本とする。  
さらに講義への出席を促進するため、出席点20点(4回各5点)を加算する。  
合計120点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。  
59点以下D、60~69点C、70~79点B、80~89点A、90点~120点S。

【留意事項】

講義メモや講義で用いた資料については、M-Portで配布する。

講義名称	曜日
比較文学A <春>	水3

【教員名称】

岩野 久仁子

【講義概要】

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字文化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物(特に日本のイソップ寓話)との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【学習目標】

イソップ伝(イソップの生涯の物語)を中心に、講義を進めていく。  
2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション  
どういった視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
- 第2回：イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説①
- 第3回：イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説②
- 第4回：①原典イソップ伝の紹介 (第1部)
- 第5回：②原典イソップ伝の紹介 (第2部)
- 第6回：③原典イソップ伝の紹介 (第3部)
- 第7回：④原典イソップ伝の紹介 (第4部)
- 第8回：⑤原典イソップ伝の紹介 (第5部)
- 第9回：⑥原典イソップ伝の紹介 (第6部)
- 第10回：⑦原典イソップ伝の紹介 (第7部)
- 第11回：⑧原典イソップ伝の紹介 (第8部)
- 第12回：日本に伝播したイソップ寓話(明治期以後)
- 第13回：難題解決譚 蟻通明神縁起
- 第14回：難題解決譚 賢者アヒカル物語
- 第15回：まとめのテスト

【事前および事後学習の指示】

詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「イソップ寓話集」を読む。「イソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。

【テキスト】

【参考文献】

- 『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円
- 『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

【コメント】

レポート 33%→こちらが指定するテーマでレポートを必ず提出。未提出の場合は、単位認定しません。  
レポートは、提出すれば「合格」ではありません。厳しい条件をクリアしたレポートのみ、レポートの内容を評価します。  
試験 33%→講義の総まとめとして春学期の終わりに行います。試験を受けない場合は、単位認定しません。  
その他 34%→講義中に課す小課題についてのコメント(皆さんの意見・感想等)を11回以上提出すること。それ以下であれば、単位認定しません。

【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)  
授業資料は全てM-Portでの配布、毎回のコメントもM-Portでの提出となります。学生に、試験・レポートの書き方などの説明のため、講義内容以外の解説に時間を要することがありますので、ご了承ください。

講義名称	曜日
比較文化研究-インドネシアと日本の音楽文化 A <春>	金 4

【教員名称】

由比 邦子

【講義概要】

インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽文化には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、音楽の演奏形態と楽器に特に焦点を当てて、両国の古典音楽の諸相を対比させて論じる。加えて古典音楽とポピュラー音楽の関わりについても取り上げる。

【学習目標】

音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということを説明できるようにする。

【講義計画】

- 第1回：音楽から見たインドネシアと日本の文化的背景
- 第2回：多様な楽器から成る日本の合奏形態(雅楽)
- 第3回：音の同質性を特徴とする日本の合奏形態(長唄)
- 第4回：音の同質性を特徴とするインドネシアの合奏形態(ガムラン)
- 第5回：ゴングの生成と発展
- 第6回：ゴングの組み合わせ奏という発想
- 第7回：金属楽器と竹楽器の関係
- 第8回：ドレミファソラドではない音階
- 第9回：型の組み合わせによる"創作"
- 第10回：戦争を媒介とする音楽の伝播
- 第11回：ポピュラー音楽をも巻き込む古典音楽のパワー
- 第12回：一直線にやってきた弦楽器
- 第13回：幻の弓形ハーブ
- 第14回：日本とインドネシアの交差点としての木琴
- 第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

前回の授業内容の確認を事前学習とし、授業ノートの整理および授業内容に関連する音楽チェック(YouTube など)を事後学習とする。

【テキスト】

【参考文献】

- 月溪恒子『日本音楽との出会い 日本音楽の歴史と理論』(東京堂出版)
- 皆川厚一編『インドネシア芸能への招待 音楽・舞踊・演劇の世界』(東京堂出版)
- 福岡まどか『インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』(大阪大学出版会)

【コメント】

第15回に実施する試験 70%、不定期に計5回実施するミニテスト 30%

【留意事項】

楽器博物館で民族楽器の調査・研究に携わった経験を持つ教員が、インドネシアと日本の楽器について解説する。

講義名称	曜日
比較文化研究-近現代の日本と朝鮮半島 A <春>	水 3

【教員名称】

西村 直登

【講義概要】

戦争と植民地支配の歴史をめぐる、日本と朝鮮半島のあいだでは、「過去」の歴史をどのように克服していくのかをめぐる論争が「現在」もなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」といわれるような論争は、政治やナショナリズム、記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネットを含むメディアによっても増幅されている。そのような「過去」をめぐる対立や葛藤、そして交流の歴史は、単に国家間のみならず、日本と朝鮮半島の人びとの「現在」の課題であり続けている。

そこで本講義では、戦前における日本と朝鮮半島とのあいだの基本的な歴史を概観する。そして、日本と朝鮮半島を単に「比較」するのではなく、たがいの「関係」性を重視し、その関係のなかで生じたさまざまな人びとの対立・葛藤・交流などの意味を歴史的に考えたい。その際、視聴覚資料(パワーポイント・映像・写真・史料など)を積極的に用いて、授業内容に対する理解を深め、想像力を高める工夫を行う。

【学習目標】

- 朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な知識を習得する。
- 近現代の日朝、日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。
- 国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：「開国」をめぐる日本と朝鮮
- 第3回：日清・日露戦争と朝鮮① 東学農民戦争と日清戦争
- 第4回：日清・日露戦争と朝鮮② 日露戦争と朝鮮の「保護国」化
- 第5回：日本の朝鮮植民地支配① 「韓国併合」
- 第6回：日本の朝鮮植民地支配② 「武断政治」と3.1独立運動
- 第7回：日本の朝鮮植民地支配③ 「文化政治」と「協力」体制
- 第8回：日本の朝鮮植民地支配④ 戦時期朝鮮における総動員体制
- 第9回：日本の朝鮮植民地支配⑤ 「同化」と「排除」
- 第10回：日本の朝鮮植民地支配⑥ 植民地朝鮮で生きた日本人
- 第11回：戦前における在日朝鮮人① 朝鮮人の渡日と社会の形成
- 第12回：戦前における在日朝鮮人② 関東大震災と朝鮮人
- 第13回：戦前における在日朝鮮人③ 広島・長崎と朝鮮人
- 第14回：戦前における在日朝鮮人④ 京都と朝鮮人
- 第15回：戦前における在日朝鮮人⑤ 大阪と朝鮮人

【事前および事後学習の指示】

毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献を読んだり調べたりしておくこと。  
日々、日本と朝鮮半島に関する新聞記事やニュースに関心を持って、読んだり見たりしておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

- 『日韓交流の歴史：先史から現代まで』(明石書店、2007年)
- 『在日朝鮮人ってどんなひと?』(平凡社、2012年)
- 『在日朝鮮人：歴史と現在』(岩波新書、2015年)
- 『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』(彩流社、2017年)
- 『だれが日韓「対立」をつくったのか：徴用工、「慰安婦」、そしてメディア』(大月書店、2019年)
- 『調べ・考え・歩く 日韓交流の歴史』(明石書店、2020年)
- 『日韓の歴史をたどる：支配と抑圧、朝鮮蔑視観の真相』(新日本出版社、2021年)
- 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』(大月書店、2021年)
- 『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』(大月書店、2023年)

【コメント】

レポート：本授業の内容についての理解を問う期末レポートを作成・提出する。  
その他：毎回、授業終了後に、授業内容に関するコメントペーパーを作成・提出する。  
※出席率が70%未満の場合、成績評価の対象としない。

【留意事項】

春・秋学期に開講する「比較文化研究-近現代の日本と朝鮮半島 A・B」(戦前・戦後編)をそれぞれ受講することが望ましい。

講義名称	曜時
ファイナンス I <春>	水 2

【教員名称】

北野 友士

【講義概要】

英語のことわざに “A fool and his money are soon parted” (「愚者の金は身につかない」) というものがあるそうです。お金に関する知識がないと生きていけないわけではありませんが、人生とお金との関係を理解し、お金に関して賢くなることは、豊かな人生を歩むうえで非常に重要です。なお、「豊かな人生」とは必ずしも「お金持ちになる」ことを意味しません。

本講義では、お金に関する意思決定の学問といえる「ファイナンス」について学びます。ファイナンスの対象としては企業や政府も想定できますが、この講義では家計の意思決定を中心に扱います。

【学習目標】

- ・ライフデザインおよびライフプランに基づくファイナンシャルプランニング能力を身につける。
- ・貨幣の時間的価値などファイナンス論の基礎的な考え方を身につける。
- ・ファイナンシャルプランニングおよびファイナンス論に基づいて、借金、リスク管理、税金・社会保険、および投資手法を使いこなす。

【講義計画】

- 第 1 回： イントロダクション
- 第 2 回： ライフデザイン・ライフプランとファイナンシャルプランニング(1)FP の基礎
- 第 3 回： ライフデザイン・ライフプランとファイナンシャルプランニング(2) 学生生活と FP
- 第 4 回： ファイナンス論の基礎(1) 貨幣の時間的価値
- 第 5 回： ファイナンス論の基礎(2) ファイナンスにおける「年金」と現在価値
- 第 6 回： ファイナンス論の基礎(3) ファイナンス論に基づく FP
- 第 7 回： ファイナンシャルプランニングと借金(1) 借入による資金の異時点間の移動
- 第 8 回： ファイナンシャルプランニングと借金(2) 借入の活用事例と FP
- 第 9 回： ファイナンシャルプランニングとリスク管理(1) リスクマップに基づくリスク管理
- 第 10 回： ファイナンシャルプランニングとリスク管理(2) 学生生活で気を付けたいトラブル
- 第 11 回： ファイナンシャルプランニングと税金および社会保険(1) 税金および社会保険が所得に与える影響
- 第 12 回： ファイナンシャルプランニングと税金および社会保険(2) 税金および社会保険を考慮した FP
- 第 13 回： ファイナンシャルプランニングと投資の基礎(1) 投資の基礎と FP
- 第 14 回： ファイナンシャルプランニングと投資の基礎(2) FP に基づく投資手法の活用
- 第 15 回： ファイナンス I のまとめ

【事前および事後学習の指示】

受講前にテキストに目を通し、受講後はしっかり復習したうえで毎回の小テストに挑戦してください。また事後学習の延長として、ファイナンス II と合わせて受講し、FP(ファイナンシャル・プランニング)技能士 3 級、ひいては FP 技能士 2 級に合格できる力をつけ、ぜひ検定に挑戦してください。

【テキスト】

学生に読んで欲しいお金の攻略本<第 2 版>—Money Strategies for Students ゼミ生と考える金融リテラシーのすゝめ— 北野友士  
バブファッセルフ  
2025 年 1 月下旬頃発行予定

【参考文献】

- ・ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン、デーヴィッド・L・クリートン(著)、大前 恵一朗(訳)(2011)『現代ファイナンス論 原著第 2 版』ピアソン桐原。
- ・手嶋宣之(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
- ・ジョン・ケイ(著)、藪井真澄(訳)(2018)『世界最強のエコノミストが教える お金を増やす一番知的なやり方 賢明なる投資家のためのパーソナル・ファイナンス読本』ダイヤモンド社。

【コメント】

毎回の授業の内容理解を問う小テスト：70%(対面授業か遠隔授業かを問わず web 上で実施)  
全体の復習テスト：30%(第 15 回のまとめ後の web テスト)  
※本科目が対面授業となるか遠隔授業となるかはシラバス執筆時点では未定ですが、M-Port のテスト機能を全面的に使います。

【留意事項】

対面授業となる場合、私語は周りに対する迷惑行為であり、感染症対策の観点からも厳しく対処します。  
遠隔授業となる場合、通信環境の不具合による提出遅れは社会に出たら言い訳になりませんので、必ず余裕をもって取り組むようにしてください。

講義名称	曜時
文学 [2] -説話文学を中心に 01<春>	木 3

【教員名称】

南郷 晃子

【講義概要】

「説話」とは、口承(口伝)や書承(書いて伝えられること)で伝えられた、短い話とされます。すなわち、あるモチーフや物語の構造が受け継がれていくのです。説話世界は現代にまで続く、世界認識の一部を作っています。この講義ではそのような説話の世界へと、古文を味わいながら没入しようと思います。説話を中心にしますが、神話や歌舞伎などからも関連する要素を読み込み、多様な作品に触れる場にします。基本的には少し「不思議」な物語を扱い、宗教的・文化的な背景についても学んでいきます。日本の古典文学作品を扱います。

【学習目標】

まずは古文の読解に馴染みを持つ。そのうえで説話についての知見を得るとともに、説話を通じて、日本の社会文化の基層について見通しを持つことができるようになる。最終的には得た知見を通じて、日本文化について構造的に捉えることができるようになることを目指す。

【講義計画】

- 第 1 回： イントロダクション
- 第 2 回： 記紀神話の世界：はじまりの物語
- 第 3 回： 風土記の世界：出雲国風土記
- 第 4 回： 日本霊異記の世界：祭祀と説話
- 第 5 回： 今昔物語集：鬼と人と京都
- 第 6 回： 宇治拾遺物語：昔話と説話
- 第 7 回： 平家物語：語り物文芸の世界
- 第 8 回： 太平記：武の物語と怪異譚
- 第 9 回： お伽草子の世界
- 第 10 回： 版本のインパクトと西鶴
- 第 11 回： 近世説話と怪談
- 第 12 回： 近世演芸をみる：歌舞伎、浄瑠璃
- 第 13 回： 古典文学と近代文学：再創作を考える
- 第 14 回： 古典とアダブテーション：アニメ、ポップミュージックから
- 第 15 回： まとめとテスト

【事前および事後学習の指示】

授業で配布したレジュメを使い復習をすること。また授業内で紹介する関連文献を読むこと。

【テキスト】

【参考文献】

小峯和明『説話の森 中世の天狗からイソップまで』(岩波現代文庫、2001 年)、兵藤裕己『王権と物語』(岩波現代文庫、2010 年)

【コメント】

「その他」：小テスト 1 回 20%、授業内コメント 30%  
小テストは抜き打ちで行います。ChatGPT など生成 AI の利用はみとめません。5 回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。

【留意事項】

講義名称	曜日
文化人類学 B <春>	木 3

【教員名称】

小池 誠

【講義概要】

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査(フィールドワーク)、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では宗教と儀礼を中心テーマに取り上げます。とくにイスラームと、インドネシア東部のスンバ島の儀礼、日本の神道と祭を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。

【学習目標】

講義をとおして、以下の3つの目標を達成できるようにします。

- ① 文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。
- ② 文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べるができる。
- ③ 講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べるができる。

【講義計画】

- 第1回：授業ガイダンス：文化人類学の宗教研究
- 第2回：宗教研究とフィールドワーク
- 第3回：神とイスラーム
- 第4回：イスラームの暦と礼拝
- 第5回：日本の仏教
- 第6回：インドネシア・スンバの祖先とマラブ(カミ)
- 第7回：インドネシア・スンバの家屋と儀礼
- 第8回：インドネシア・スンバの死者儀礼と巨石墓
- 第9回：日本の神道と伊勢神宮
- 第10回：日本の靈魂観と葬送
- 第11回：現代日本の葬送儀礼と墓
- 第12回：日本の神と神社
- 第13回：日本の祭：神事としての天神祭
- 第14回：日本の祭：風流としての天神祭
- 第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

今回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください(事前学習)。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

小池誠、2005、『東インドネシアの家社会——スンバの親族と儀礼』晃洋書房  
 山下晋司編、2005、『文化人類学入門』弘文堂  
 関一敏・大塚和夫編、2004、『宗教学人類学入門』弘文堂  
 このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。

【コメント】

試験は授業内容に関する小テスト(3点満点)を計10回実施する(計30点)。  
 レポートは中間レポート(10点)および最終レポート(30点)の計2回実施する。  
 その他は、5回の課題(3点)と毎回の授業中に書く質問またはコメント(1点)によって授業への積極的な参加度を評価する(計30点)  
 出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中に質問またはコメントを書いてください。

【留意事項】

講義名称	曜日
法学 A 01<春>	土 5

遠隔授業(オンデマンド型)

【教員名称】

楠本 敏之

【講義概要】

社会生活を送っている以上、わたしたちは法と無縁でありえません。現代社会を生きるために、その基本的枠組みを理解し、とくに民主主義国家では、わたしたちがわたしたちのために法を作っているという観点から法の世界にふれていきます。課題をみつけその解決のための知識の習得とその活用を内容とします。

【学習目標】

1. 基礎的な法律知識を身につけ、法的な思考力を獲得する
2. 具体的な事例を通して、課題を解決するための基礎的な力を身につける
3. 国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会の一員として生きるために必要な能力を養う

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス(法学の初歩)
- 第2回：法学の基礎(法の意義・体系・裁判手続など)
- 第3回：憲法の基礎①(基本原理と人権)
- 第4回：憲法の基礎②(統治機構)
- 第5回：民法の基礎①(総則・契約法など)
- 第6回：民法の基礎②(不法行為など)
- 第7回：民法の基礎③(家族法など)
- 第8回：刑法の基礎①(犯罪と刑罰の基本原則・機能など)
- 第9回：刑法の基礎②(犯罪と刑罰の総論・各論)
- 第10回：企業活動と法の基礎
- 第11回：行政と法の基礎
- 第12回：国際法の基礎①(国際社会の法的規律(条約、慣習法、国連など))
- 第13回：国際法の基礎②(国際私法など)
- 第14回：国際法の基礎③(その他の問題)
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

事前および事後学習の範囲については、講義日前までに M-Port で配信する授業資料により具体的に提示します。

【テキスト】

【参考文献】

松井茂記ほか『はじめての法律学(第6版)』(有斐閣・2020)  
 池田真朗ほか『法の世界へ(第9版)』(有斐閣・2023)

【コメント】

備考 学期末の2回のレポートのみで評価します(各50%)。ただし、毎回の授業に関し定められた形式で M-Port を通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】

特記事項なし。

講義名称	曜日
マクロ経済学 02<春集>	水1/金4

**【教員名称】**

中村 勝之

**【講義概要】**

マクロ経済学の主要な課題は、一国経済の動向を規定する GDP(国内総生産)の決定メカニズム、およびそこから派生する経済成長、失業、インフレーションといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策(景気対策とほぼ同義)の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づく。そこにはいくつかの理由があるのだが、その1つとして確実に言えそうなのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象していることが問題を見えにくくしているのである。

そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の1つのゴールである IS-LM 分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論(マンデル=フレミング・モデル)を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。

なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いです。

**【学習目標】**

学部初級レベルのマクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、

- ① 背後にある前提
- ② 論理を追求した際の整合性
- ③ 政策上の帰結と含意

これらを理解していただきたい。

**【講義計画】**

- 第1回: ガイダンス  
(このときに成績評価基準の詳細を通知する。)
- 第2回: 文法としての経済数学 I (関数と方程式)
- 第3回: 文法としての経済数学 II (微分法)
- 第4回: GDP I (三面等価の原則)
- 第5回: GDP II (さまざまな指標)
- 第6回: GDP III (名目と実質)
- 第7回: 主要関数一覧 I (需要面の諸関数)
- 第8回: 主要関数一覧 II (供給面の諸関数)
- 第9回: 乗数理論 I (ノーマルケース)
- 第10回: 乗数理論 II (均衡財政主義)
- 第11回: IS-LM 分析 I (均衡の導出)
- 第12回: IS-LM 分析 II (ノーマルケース)
- 第13回: IS-LM 分析 III (経済政策論争の入り口)
- 第14回: AD-AS 分析 I (ノーマルケース)
- 第15回: AD-AS 分析 II (新古典派ケース)
- 第16回: AD-AS 分析 III (ケインズ革命の核心)
- 第17回: AD-AS 分析 IV (ケインズ本人のケース)
- 第18回: AD-AS 分析 V (ケインズ派ケース)
- 第19回: 失業とインフレーション I (データの観察)
- 第20回: 失業とインフレーション II (メタリストのケース)
- 第21回: 失業とインフレーション III (新しい古典派のケース)
- 第22回: ここまでの講義まとめ
- 第23回: 乗数理論の拡張 I (ノーマルケース)
- 第24回: 乗数理論の拡張 II (2 国間貿易)
- 第25回: 為替制度と国際金融のあらまし
- 第26回: マンデル=フレミング・モデル I (3 つの曲線の導出)
- 第27回: マンデル=フレミング・モデル II (固定相場制でのマクロ経済政策の効果)
- 第28回: マンデル=フレミング・モデル III (変動相場制でのマクロ経済政策の効果)
- 第29回: マンデル=フレミング・モデル IV (閉鎖経済との比較考察)
- 第30回: 総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・特段の事前学習の指示はない。
- ・桃山トップレベルの難易度を誇っているので、やりきりだけの覚悟を持って事後学習に励むこと。

**【テキスト】**

使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

**【参考文献】**

中村勝之(2021)『大学院へのマクロ経済学講義』(新装版)現代数学社

**【コメント】**

- ①講義時間中に行われる小レポート(5 回実施(1 回につき 10 点満点)。獲得合計を 100 点満点に換算)
  - ②講義期間中に行われる中間大レポート
  - ③期末大レポート
  - ④単元末のレスポンスシート
- ※上記①~④の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、60 点以上であれば合格。

**【留意事項】**

受講生数や能力等に応じて、講義進行を変更することがある。

社会人の方へ(聴講に際して)

結構多くのレポートを出していますが、ぜひチャレンジしてみてください。

講義名称	曜日
マス・コミュニケーション論 03<春>	火1

**【教員名称】**

戸松 幸一

**【講義概要】**

今日私たちは、新聞、ラジオ、映画、テレビ、インターネットといったコミュニケーション・ツールに囲まれて生きている。たえず大量の情報にさらされ、大勢の人々とつながっている、あるいはつながっている「気がしている」感覚は日常生活にすっかり馴染んでしまっているため、それがなかった時代を忘れがちである。本講義では、社会学の知見をもとに「マス・コミュニケーション」の歴史と変遷を考察し、現代のコミュニケーションに対するリテラシーと理解を促す。

人々と情報を同時的につなぐコミュニケーション・ツールがいかなる歴史的な背景から生まれたのか。そうしたツールは人々のコミュニケーションのあり方をどう変えたのか。これらの問いを紐解いていくことによって、今日のメディア・コミュニケーションを省察的に振り返ることが本講義の目的である。

**【学習目標】**

我々が日常的に接している「マス・コミュニケーション」の成り立ちや背景を知ることによって、現代におけるメディアとコミュニケーション文化に対する学生の理解を深め、それらに対する批判的な思考力を身につける。なお、本講義は「マス・コミュニケーション」の歴史がメインであるため、各コミュニケーション・ツールの実務状況やその事例については深く扱わない。

**【講義計画】**

- 第1回: ガイダンス: メディアの定義とメディア史の意義
- 第2回: マス・コミュニケーション論—その起源と強力効果論
- 第3回: マス・コミュニケーション論—限定効果論
- 第4回: マス・コミュニケーション論—新たな強力効果説(前編)
- 第5回: マス・コミュニケーション論—新たな強力効果説(後編)
- 第6回: メディアはメッセージである—技術決定論と構成主義的技術論
- 第7回: 復習および中間課題の回(必ずしも第7回で行うわけではなく、前後する場合があります)
- 第8回: 近代とはどういう時代?—宗教革命、産業革命、そして、印刷革命
- 第9回: 市民社会とコーヒーマウス—「市民的公共性」とはなにか
- 第10回: 国家と国民とは?—「想像」でつながる共同体
- 第11回: 情報化社会とメディア史—中間課題から深める
- 第12回: テレ・コミュニケーションの大衆化と場所感覚の喪失
- 第13回: 最後の国民メディア—テレビは「一億総白痴化」をもたらしたか
- 第14回: 観光の近現代—「擬似イベント」から「観光のまなざし」へ
- 第15回: フィードバックおよび講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

なるべく講義で全ての話ができるようにするが、時間的な制約上、どうしても説明不足な箇所が出てくるかもしれない。講義でわからなかった箇所は、講義後のアンケートで質問を受け付ける。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 佐藤卓己(2018)『現代メディア史 新版』岩波書店  
 吉見俊哉(2016)『メディア文化論: メディアを学ぶ人のための 15 話 改訂版』有斐閣アルマ  
 ※上記のテキストを基本的な参考文献とするが、講義の進行に応じて追加的な参考文献を適宜提示する。

**【コメント】**

- 中間課題 30%、期末課題 50%、その他を 20%として成績評価を行う。  
 中間課題は書評(課題図書 3 つのなかから 1 つを選ぶ)。  
 期末課題は講義内容に関するレポート課題。  
 授業後にフィードバックを含めた簡単なアンケート課題を出すことがある。  
 出席状況およびアンケート課題の提出状況をその他 20%の成績評価を行う。なお 7 回以上欠席した者は単位取得を認めない。

**【留意事項】**



講義名称	曜日
マルチメディア論 01<春>	火1

【教員名称】

松田 いりあ

【講義概要】

本講義では、現代社会の中核をなす情報メディアが、政治、経済、社会、文化に与える影響を多角的に分析します。特に、インターネット、ソーシャルメディア、AIといった現代の情報技術がもたらす変化に着目し、情報社会における課題と可能性を探ります。初学者を対象に、メディア論の基礎から最新の動向までを幅広く学び、情報社会を生き抜くための批判的思考力と情報リテラシーを育成します。

【学習目標】

現代情報社会におけるメディアの役割と影響を理解する。  
 情報メディアと政治、経済、社会、文化との相互作用を分析できる。  
 情報倫理、情報リテラシー、デジタルデバインドなどの現代的な課題を認識し、考察できる。  
 情報技術の進展がメディアに与える影響を予測し、議論できる。  
 情報社会における自身の役割と責任を認識し、行動できる。

【講義計画】

- 第1回： イントロダクション：情報社会とメディアとは何か
  - ・ 授業の目的、進め方、評価方法の説明
  - ・ 情報、メディア、コミュニケーションの定義と変遷
  - ・ 情報社会の概念と特徴
  - ・ 現代社会におけるメディアの重要性と課題
- 第2回： メディアと政治：デジタル時代の情報操作と民主主義
  - ・ インターネットと政治参加
  - ・ フェイクニュース、誤情報、ディスインフォメーション
  - ・ アルゴリズムによる情報操作とフィルターバブル
- 第3回： メディアと経済：プラットフォームビジネスとデータ資本主義
  - ・ プラットフォームビジネスの構造と影響
  - ・ データ収集、分析、利用とプライバシー
  - ・ アルゴリズム経済と労働
- 第4回： メディアと社会：ソーシャルメディアと人間関係
  - ・ ソーシャルメディアの普及と影響
  - ・ オンラインコミュニティとアイデンティティ
  - ・ サイバーいじめ、炎上、ネット依存
- 第5回： メディアと文化：デジタルコンテンツと表現の自由
  - ・ デジタルコンテンツの多様性と表現の自由
  - ・ 著作権、知的財産権、海賊版
  - ・ ネットミーム、バイラルコンテンツ
- 第6回： 情報倫理：ネット社会における倫理と責任
  - ・ 情報倫理の基本原則
  - ・ プライバシー、セキュリティ、表現の自由
  - ・ 情報格差(デジタルデバインド)
- 第7回： メディアリテラシー：情報を見極める力
  - ・ 情報リテラシーの重要性
  - ・ 情報の真偽を見抜く方法
  - ・ 批判的思考と情報分析
  - ・ 情報源の検証と評価
- 第8回： ジャーナリズムの変容：デジタル時代の報道と課題
  - ・ オンラインジャーナリズムの発展
  - ・ 市民ジャーナリズムとフェイクニュース
  - ・ メディアの偏向とバイアス
- 第9回： インターネットとデジタルメディア：技術革新と社会への影響
  - ・ インターネットの歴史と構造
  - ・ ウェブ、モバイル、IoTなどの技術
  - ・ 情報社会における技術の役割と課題
- 第10回： ソーシャルメディアとコミュニケーション：繋がりと分断
  - ・ ソーシャルメディアのコミュニケーション特性
  - ・ 情報拡散と影響力
  - ・ エコーチェンバー現象と分極化
  - ・ オンラインコミュニティの可能性と課題
- 第11回： メディアとジェンダー：オンライン空間におけるジェンダー表現と課題
  - ・ ネットにおけるジェンダー表現とステレオタイプ
  - ・ オンラインハラスメントとジェンダーバイアス
  - ・ デジタル空間におけるジェンダー平等
- 第12回： メディアとグローバル化：情報伝達と文化交流
  - ・ グローバルメディアと情報伝達
  - ・ 多文化主義とメディア
  - ・ グローバリゼーションの課題とメディアの役割
- 第13回： AIとメディア：人工知能がもたらす変化
  - ・ AI技術とメディア
  - ・ AIによる情報生成、編集、配信
  - ・ AIと倫理、プライバシー、バイアス
  - ・ メディアの未来におけるAIの役割
- 第14回： 公開資料にみるメディア利用
  - ・ 資料からわかるメディア利用の実態
  - ・ 資料からわかるメディア利用の課題
- 第15回： まとめ

【事前および事後学習の指示】

- ・ 事前学習：授業資料に目を通しておいてください。
- ・ 事後学習：期限までに授業課題を提出してください。

【テキスト】

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【コメント】

その他(50%)は毎回指示する課題提出です。

【留意事項】

授業ツールをMicrosoft Teamsとし、Teams上で授業資料配布、出欠確認、課題提出、レポート提出を行います。  
 授業計画は授業進捗および受講状況によって変更することがあります。

講義名称	曜日
マルチメディア論 02<春>	火 2

【教員名称】

松田 いりあ

【講義概要】

本講義では、現代社会の中核をなす情報メディアが、政治、経済、社会、文化に与える影響を多角的に分析します。特に、インターネット、ソーシャルメディア、AIといった現代の情報技術がもたらす変化に着目し、情報社会における課題と可能性を探ります。初学者を対象に、メディア論の基礎から最新の動向までを幅広く学び、情報社会を生き抜くための批判的思考力と情報リテラシーを育成します。

【学習目標】

現代情報社会におけるメディアの役割と影響を理解する。  
 情報メディアと政治、経済、社会、文化との相互作用を分析できる。  
 情報倫理、情報リテラシー、デジタルデバイドなどの現代的な課題を認識し、考察できる。  
 情報技術の進展がメディアに与える影響を予測し、議論できる。  
 情報社会における自身の役割と責任を認識し、行動できる。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション：情報社会とメディアとは何か
  - ・授業の目的、進め方、評価方法の説明
  - ・情報、メディア、コミュニケーションの定義と変遷
  - ・情報社会の概念と特徴
  - ・現代社会におけるメディアの重要性と課題
- 第2回：メディアと政治：デジタル時代の情報操作と民主主義
  - ・インターネットと政治参加
  - ・フェイクニュース、誤情報、ディスインフォメーション
  - ・アルゴリズムによる情報操作とフィルターバブル
- 第3回：メディアと経済：プラットフォームビジネスとデータ資本主義
  - ・プラットフォームビジネスの構造と影響
  - ・データ収集、分析、利用とプライバシー
  - ・アルゴリズム経済と労働
- 第4回：メディアと社会：ソーシャルメディアと人間関係
  - ・ソーシャルメディアの普及と影響
  - ・オンラインコミュニティとアイデンティティ
  - ・サイバーいじめ、炎上、ネット依存
- 第5回：メディアと文化：デジタルコンテンツと表現の自由
  - ・デジタルコンテンツの多様性と表現の自由
  - ・著作権、知的財産権、海賊版
  - ・ネットミーム、バイラルコンテンツ
- 第6回：情報倫理：ネット社会における倫理と責任
  - ・情報倫理の基本原則
  - ・プライバシー、セキュリティ、表現の自由
  - ・情報格差(デジタルデバイド)
- 第7回：メディアリテラシー：情報を見極める力
  - ・情報リテラシーの重要性
  - ・情報の真偽を見抜く方法
  - ・批判的思考と情報分析
  - ・情報源の検証と評価
- 第8回：ジャーナリズムの変容：デジタル時代の報道と課題
  - ・オンラインジャーナリズムの発展
  - ・市民ジャーナリズムとフェイクニュース
  - ・メディアの偏向とバイアス
- 第9回：インターネットとデジタルメディア：技術革新と社会への影響
  - ・インターネットの歴史と構造
  - ・ウェブ、モバイル、IoTなどの技術
  - ・情報社会における技術の役割と課題
- 第10回：ソーシャルメディアとコミュニケーション：繋がりと分断
  - ・ソーシャルメディアのコミュニケーション特性
  - ・情報拡散と影響力
  - ・エコーチェンバー現象と分極化
  - ・オンラインコミュニティの可能性と課題
- 第11回：メディアとジェンダー：オンライン空間におけるジェンダー表現と課題
  - ・ネットにおけるジェンダー表現とステレオタイプ
  - ・オンラインハラスメントとジェンダーバイアス
  - ・デジタル空間におけるジェンダー平等
- 第12回：メディアとグローバリゼーション：情報伝達と文化交流
  - ・グローバルメディアと情報伝達
  - ・多文化主義とメディア
  - ・グローバリゼーションの課題とメディアの役割
- 第13回：AIとメディア：人工知能がもたらす変化
  - ・AI技術とメディア
  - ・AIによる情報生成、編集、配信
  - ・AIと倫理、プライバシー、バイアス
  - ・メディアの未来におけるAIの役割
- 第14回：公開資料にみるメディア利用
  - ・資料からわかるメディア利用の実態
  - ・資料からわかるメディア利用の課題
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

- ・事前学習：授業資料に目を通しておいください。
- ・事後学習：期限までに授業課題を提出してください。

【テキスト】

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【コメント】

その他(50%)は毎回指示する課題提出です。

【留意事項】

授業ツールをMicrosoft Teamsとし、Teams上で授業資料配布、出欠確認、課題提出、レポート提出を行います。  
 授業計画は授業進捗および受講状況によって変更することがあります。

講義名称	曜日
ミクロ経済学 02<春集>	火/金 3

【教員名称】

西崎 勝彦

【講義概要】

市場経済では財・サービスが市場で取引され、市場を通じて財・サービスが生産・消費される。こうした市場を通じた財・サービスの配分の過程を分析するための学問がミクロ経済学である。ミクロ経済学は公共経済論や財政論、労働経済論、国際経済論、産業組織論といった経済学の応用分野の基礎となっている。この授業ではミクロ経済学の基礎について説明し、市場経済の仕組みについて考える。

この授業では、ミクロ経済学を構成する「均衡理論」と「ゲーム理論」による基本的な分析を説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う(スライドは授業資料として履修者に配布する)。履修者にはいくつかの授業で課題(計算問題を含む)に取り組んでもらい、その解答を提出してもらう(授業の最初に前回の課題を解説する)。

【学習目標】

- (1) ミクロ経済学で使われている分析方法を習得する。
- (2) 部分均衡理論・一般均衡理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。
- (3) ゲーム理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。

【講義計画】

- 第1回：授業内容の説明およびミクロ経済学の概説
- 第2回：需要と供給
- 第3回：需要曲線の構造
- 第4回：消費者行動と需要曲線
- 第5回：供給曲線の構造
- 第6回：短期費用曲線と長期費用曲線
- 第7回：生産者行動と供給曲線
- 第8回：市場の均衡と効率性
- 第9回：効用と無差別曲線
- 第10回：予算制約と消費者行動
- 第11回：所得の変化と需要
- 第12回：価格の変化と需要
- 第13回：生産関数と企業
- 第14回：費用最小化行動と総費用曲線
- 第15回：利潤最大化行動
- 第16回：交換の利益
- 第17回：生産活動における資源配分
- 第18回：授業内容の総括1：均衡理論
- 第19回：ミクロ経済学の展開
- 第20回：標準型ゲーム
- 第21回：最適反応とナッシュ均衡
- 第22回：囚人のジレンマ
- 第23回：クールノー競争
- 第24回：展開型ゲーム
- 第25回：後ろ向き帰納法
- 第26回：部分ゲーム完全均衡とナッシュ均衡
- 第27回：空脅しとコミットメント
- 第28回：シュタッケルベルク競争
- 第29回：ゲーム理論の展開
- 第30回：授業内容の総括2：ゲーム理論

【事前および事後学習の指示】

テキストに掲載されている演習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことでミクロ経済学への理解を一層深めてもらいたい。

【テキスト】

ミクロ経済学 第3版 伊藤元重  
978-4535558441 日本評論社  
本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として履修者に配布する。本書で不足している部分については、参考文献をもとに適宜補足する。  
ミクロ経済学－戦略的アプローチ－ 梶井厚志、松井彰彦  
978-4535552029 日本評論社  
上記のテキストではゲーム理論の説明が不十分であるため本書で補足する。

【参考文献】

- 天谷研一(2011)『図解で学ぶゲーム理論入門』日本能率協会マネジメントセンター。  
伊藤元重、下井直毅(2023)『ミクロ経済学パーフェクトガイド』日本評論社。  
奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会。  
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社。  
武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社。  
船木由喜彦(2014)『はじめて学ぶゲーム理論』新世社。  
松井彰彦(2010)『高校生からのゲーム理論』筑摩書房。  
武藤滋夫(2001)『ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社。

【コメント】

第3-17回と第20-28回の授業内で毎回課題(短答式、計算問題を含む)を出す(上記「その他」に該当)。対面授業を基本とし、授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい、その解答を任意の用紙に記入して写真に収め、その写真データを授業日の翌日までにM-Port 経由で提出してもらう(Word ファイルなどその他の電子媒体でも構わない)。

第17回および第28回の授業が終わった段階で、いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て(履修者によってレポート課題が異なる場合がある)、そのレポート(論述式)をM-Port 経由で提出してもらう(上記「レポート」に該当、それぞれ40%ずつで評価)。なお、第17回後については第3回から第17回までの中から、第28回後については第20回から第28回までの中からレポート課題を割り当てる。

授業内の課題およびレポート課題の詳細については第1回の授業で説明するので、履修者は必ず確認すること(授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること)。

【留意事項】

- (1) 対面授業を予定しているが、遠隔授業(Zoom を使用予定)になった場合に備えて履修環境を整えておくこと。
- (2) スライドは授業の要点をまとめたものであり、内容を十分に理解するためには配布した授業資料を参考にテキストを熟読することを勧める。
- (3) 授業内の課題はレポート作成の勉強を兼ねているため、それを意識して取り組んでもらいたい。
- (4) 授業内の課題およびレポート課題に関して困ったことがあれば、早めに担当教員に相談すること。

講義名称	曜日
民俗学 A <春>	木 1

【教員名称】

大野 啓

【講義概要】

本講義は民俗学とはどのような学問であるのかについて、その成り立ちや学問としての特徴について講義する。その際、民俗学がどのような「知」を構築してきたのか、そして、それがどのような問題を内包し、どのような可能性を持ちうるのかなどについて検討していく。

【学習目標】

1. 講義中に解説した用語を理解すること(必須)
2. 講義の内容を理解して説明することができること(必須)
3. 民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを学史を通じて考えることができる

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：近代国家の形成と「文化」
- 第3回：ナショナリズムと国民 1 民族・文化・言語と国家
- 第4回：ナショナリズムと国民 2 「国民」の同質性と周縁の存在
- 第5回：国家が規定する「民俗」
- 第6回：前近代における「日本」へのまなざし
- 第7回：民俗学前史 - 「伝統」を対象化すること
- 第8回：民俗学の形成
- 第9回：民俗学の成立
- 第10回：柳田以降の民俗学 1 「常民」の歴史へのまなざし
- 第11回：柳田以降の民俗学 2 「常民」の文化へのまなざし
- 第12回：「常民」概念の可能性について
- 第13回：「伝統」を対象化する意味について
- 第14回：民俗学の限界と可能性
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。  
また、講義内容で理解できない用語などがある場合には、『日本民俗大辞典』（吉川弘文館）などで調べること。

【テキスト】

【参考文献】

ベネディクト・アンダーソン著、白石隆／白石さや訳『増補 想像の共同体－ナショナリズムの起源と流行』NTT 出版

【コメント】

レポートを2回課します。  
講義時間中に課すリアクションペーパーも評価の対象に入れます。なお、遠隔授業の場合には M-Port の掲示板にリアクションペーパーに記すべき内容と提出先を指示します。

【留意事項】

講義名称	曜日
メディア文化特論-ドキュメンタリーを作る・観る・読む <春集>	月 1/月 2

【教員名称】

鈴木 隆史

【講義概要】

本講義ではテレビ・映画のドキュメンタリー作品を鑑賞しながら、それぞれの作品はどのようにして生まれ、何を観るものに伝えようとしているのかについて共に考え、ドキュメンタリーの多様性とその魅力について学びます。一般的にドキュメンタリーは、「制作者の意図や主観を含みぬ「事実の描写」と考えられていますが、必ずしもそうではありません。カメラで同じ出来事を捉えていても、そこには同じ映像が写っているわけではありません。映像の編集過程では制作者(ディレクターや映画監督)の意図が必ず反映されます。いわゆる客観的な映像というのではないと言えるでしょう。社会問題や政治問題などを扱ったドキュメンタリーが問題の本質を観るものに気づかせてくれることも多いのは、制作者の問題意識が反映されているからでもあるのです。私たちはこうして作品から知らなかったことを知るだけでなく、改めて考えさせられたり、共感したり、怒ったり、感動するのだと言えます。ドキュメンタリーの海に共に漕ぎ出しましょう。

【学習目標】

ドキュメンタリー映画の多様性について理解する。様々なドキュメンタリーが存在することを知る。ドキュメンタリーは社会や自然を描くだけでなく、人間を描くものである。ドキュメンタリーは制作者の意図が反映される。ドキュメンタリーから世界が直面する課題や歴史、知らなかった事実を知ることができる。ということを理解し、ドキュメンタリーの魅力に気づく。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション。森達也「ドキュメンタリーは嘘をつく」  
森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』  
佐藤真「ドキュメンタリーはフィクションである」  
事実をもとに制作者が伝えたいことを描いたものであることをまず理解しよう。
- 第2回：世界初のドキュメンタリー映画を観る  
フラハティ監督『極北の怪人』 探検家が撮った記録映画、住民参加によって作られた、社会派たちから批判を受けたのはなぜか？
- 第3回：テレビドキュメンタリーを観る 1)  
大島渚監督『忘れられた皇軍』映画に描かれた事実は何かを知るために当時の社会について学ぶ  
なぜ大島は怒りをぶつけたのかについて考える
- 第4回：テレビドキュメンタリーを観る 2)  
TBS 報道特集から現代の社会・政治問題について学ぶ 今世界で何が起きているのか？ 私たちの日常生活に目を向ける
- 第5回：ドキュメンタリー映画を観る 1)  
原一男監督『ゆきゆきて神軍』  
カメラの暴力性について考える
- 第6回：ドキュメンタリー映画を観る 2)  
原一男監督『ゆきゆきて神軍』続きを観る  
映画評、シナプスを読んで内容について議論する
- 第7回：ドキュメンタリー映画を観る 2)  
土本典昭監督『ある機関助手』  
国鉄の宣伝映画だが、監督はどのようにしてこの作品を作り上げたのか？撮られる人たちの関係をどのようにして築くのか？
- 第8回：ドキュメンタリー映画を観る 3)  
亀井文夫監督『戦心兵隊』、日中戦争下、戦意高揚を目的に陸軍省支援によって制作された映画。しかし上映が認められなかった。それはなぜか？  
亀井文夫が映画に込めた思いとは何か？映像の中から探し出す。
- 第9回：ドキュメンタリー映画を観る 4)  
土本典昭監督と水俣病 徹底して一つのテーマを掘り下げる  
『水俣一患者さんとその世界』
- 第10回：ドキュメンタリー映画を観る 5)  
土本典昭監督と水俣病 続き  
患者さんにカメラを向けるということの覚悟と責任とは
- 第11回：テレビドキュメンタリーを観る 3)  
現代社会が抱える問題について捉えた作品を観る  
沖縄基地、原発、自殺、差別、セクハラ、いじめ、コロナ、外国人労働者など
- 第12回：テレビドキュメンタリーを観る 4)  
テーマを選んで観る 続き
- 第13回：ドキュメンタリー映画を観る 6)  
佐藤真監督『阿賀に生きる』スタッフとともに撮影現場に住んで映画を撮る側と撮られる側の共犯関係について考える
- 第14回：ドキュメンタリー映画を観る 7)  
佐藤真監督『阿賀に生きる』続き  
佐藤真のドキュメンタリー論を読む 映画についているんな見方がある 何を読み取るかは観る人によって異なる
- 第15回：ドキュメンタリー映画を観る 8)  
ヤン・ヨンヒ監督『ディア・ビヨンヤン』(ドキュメンタリー)  
自身の家族、特に父カメラを向ける
- 第16回：ドキュメンタリー映画を観る 9)  
ヤン・ヨンヒ監督『かぞくのくに』(劇映画)  
同じテーマを描いた2つの映画、劇映画に描かれた家族の姿  
ドキュメンタリーと劇映画との違いはあるのだろうか？
- 第17回：ドキュメンタリー映画をつくる 1)  
インドネシアにおける日本軍性暴力(性奴隷制)を描く  
取材、インタビュー、編集のプロセスを具体的に話す
- 第18回：ドキュメンタリー映画をつくる 2)  
インドネシアにおける日本軍性暴力を描く  
続き 何を伝えようとするのか、何を感じ取ることができるか
- 第19回：ドキュメンタリー映画を観る 10)  
ルイ・シホヨス監督『ザ・コーヴ』が描く捕鯨問題  
同じテーマでも制作者の視点が異なると違う作品が生まれることを知る
- 第20回：ドキュメンタリー映画を観る 11)

八木景子監督『ビハインド・ザ・コーヴ』は反コーヴ？
第21回：ドキュメンタリー映画を観る 12) 佐々木芽生監督『おくじらさま』 一人のアメリカ人ジャーナリストの目線で太地のクジラ漁を捉える
第22回：ドキュメンタリーテレビを観る 6) NHK 『鯨と生きる』
第23回：ドキュメンタリーを読む 1) 太地町の捕鯨を巡る問題を映画が描き出す 異なる視点、異なる印象、あなたはどうか考える？
第24回：ドキュメンタリーテレビを観る 5) NHK 『灼熱の海にクジラを追う～インドネシア・ロンバタ島』 鯨と人との命がけの闘い
第25回：ドキュメンタリー映画を観る 13) 観察映画とは？ナレーション、音楽を省くと何が見える？ 想田和弘監督『精神』『選挙』
第26回：続き 観察映画とは？
第27回：ドキュメンタリー映画を観る 7) フレデリック・ワイズマン監督『ニューヨーク・ジャクソンハイツへようこそ』
第28回：ドキュメンタリー映画を読む 2) 観察映画の魅力 観る力・読み解く力を養う
第29回：ドキュメンタリー映画の魅力 1) ナチスドイツのプロパガンダ映画 レニ・リーフェンシュタール監督『意志の勝利』
第30回：ドキュメンタリー映画の魅力 2) ヒアース・ラファティ監督他『アトミック・カフェ』 原子爆弾や実験の記録映画、プロパガンダ映画を編集によってつなぎ合わせた作品 さてその内容は？
<b>【事前および事後学習の指示】</b> 本講義では事前学習の通知がない場合は、その必要がない。ただし、作品を見損ねた場合は自身でネットなどで作品を鑑賞してほしい。採集レポート作成には必要になることもある
<b>【テキスト】</b>
<b>【参考文献】</b> 森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』草思社、2005年、ISBN4794213891、 想田和弘著『なぜ僕らはドキュメンタリーを撮るのか』講談社新書、2011年、ISBN 978-4-06-288113-5 佐藤真著『ドキュメンタリー映画の地平』凱風社、2009年、ISBN978-7736-3313-9 土本典昭著『不敗のドキュメンタリー 水俣を撮り続けて』岩波現代文庫 2019年
<b>【コメント】</b> 本授業では採点はレポート提出で行う。授業毎に提出する短いレポートが30%。出欠にかえる。また授業最終日を目処に提出してもらうレポートが70%とする 授業は二コマを連続して行う。映画を上映することが多いので授業開始 20分以降の入室は認めない。変則的に休憩時間を設けるが、一つの作品をすべて鑑賞しないでレポートを書くことは認めない。 授業時間に間に合わない(列車の遅延などを除く)場合は、二時間目から出席することも認めないので一時間目から出席すること。
<b>【留意事項】</b>

講義名称	曜時
メディアリテラシー論A <春>	火4

**【教員名称】**

土屋 祐子

**【講義概要】**

本授業ではメディアリテラシーの基礎を学ぶ。メディアリテラシーは、文字の読み書き能力を発展させた「多様なメディアを読む(理解する)書く(表す・伝える)」ための個人の社会的なコミュニケーション力である。スマートフォンが普及し、ソーシャルメディアなど多面的・拡散的なコミュニケーションが常態化している中、メディア情報を批判的・能動的に受け取り、メディアで表現、発信することがより重要になっている。さらに、メディア環境自体を批判的に眼差し、新しいメディア・コミュニケーションのあり方を考える力も必要となっている。授業ではこうしたメディアリテラシーの基本的な考え方、知識、手法について講義する。また、映像分析やコンテンツ作成などワークショップ(体験学習)を取り入れて受講者の理解を深める。

**【学習目標】**

- (1)メディアリテラシーとは何かについて自分の言葉でまとめられる。
- (2)メディアリテラシーの歴史的展開について理解し、説明できる
- (3)基本概念の「メディアウムフレーム」について自分の経験と重ねて説明できる。
- (4)メディアリテラシーにどう取り組めばよいのか、自分なりの意見を持つ。

**【講義計画】**

- 第1回： オリエンテーション：メディアリテラシーとニューテクノロジー
- 第2回： 私たちのメディア環境(1)世論調査にみる必要なメディア・信頼できるメディア
- 第3回： 私たちのメディア環境(2)今日的課題
- 第4回： 歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ(1)保護・分析
- 第5回： 歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ(2)創造
- 第6回： 歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ(3)日本で育まれた協働と気づきのワークショップ
- 第7回： 中間確認テスト
- 第8回： メディアリテラシーを身につける(1)生活行動から考える
- 第9回： メディアリテラシーを身につける(2)メディア論と「メディアウムフレーム」
- 第10回： メディアリテラシーを身につける(3)「メディアウムフレーム」とメディアリテラシーの地平
- 第11回： ワークショップ(1)メディアコンテンツの作成
- 第12回： オルタナティブな表現とメディア・コミュニケーション(1)身体拡張とデジタルの可能性
- 第13回： ワークショップ(2)メディアコンテンツのふり返し
- 第14回： オルタナティブな表現とメディア・コミュニケーション(2)多様なストーリーテリング
- 第15回： まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み疑問点などをまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み授業の内容を自分のメディアとの関わりに結び付け、学んだことを発展的に考えること。

**【テキスト】**

「メディアウムフレーム」からの表現—創造的なメディアリテラシーのために 土屋祐子 978-4-902619-18-8 広島経済大学出版会 2019年

**【参考文献】**

- 中橋雄・NHK 学園編(2024)『世界は切り取られてできている—メディア・リテラシーを身につける』NHK 出版  
デビッド・バッキンガム(2023)『メディア教育宣言—デジタル社会をどう生きるか』水越伸他訳、世界思想社  
坂本旬・山脇岳志(2022)『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社  
水越伸(2014)『改訂版 21世紀メディア論』放送大学教育振興会  
水越伸・東京大学情報学環メテプロジェクト編(2009)『メディアリテラシー・ワークショップ』東京大学出版会  
長谷川一・村田麻里子編(2015)『メディアリテラシー・トレーニング』三省堂

**【コメント】**

試験10%(中間確認テスト1回)、期末レポート45%、作業課題45%で評価する。

**【留意事項】**

オンラインニュースの取材や編集、制作経験を持つ教員が、社会的なメディアリテラシーの意義について考察する。

講義名称	曜日
モダニティの社会学 <春>	木 4

【教員名称】

名部 圭一

【講義概要】

モダニティ(modernity)とは「近代」のことである。およそ18世紀半ばのヨーロッパに起源をもつ近代社会はこの数十年で大きく変容し、この新しい近代を社会学者は「後期近代(late modernity)」と呼んでいる。この講義では、この後期近代の特質を前期近代(early modernity)と対比しながら明らかにする。前半では、主に再帰的近代化論に依拠しながら、前期近代から後期近代への移行過程で生じた人々の意識、ライフスタイル、ライフコース、人間関係、社会制度の変容を捉える。後半では、メディア論的観点から、新聞、出版、ラジオ、テレビといったマスメディアがモダニティの形成に対していかなる影響があったのか、さらには近年のインターネットと携帯電話の急速な発展と普及がモダニティをどのように変えつつあるのか、という問題について考察する。

【学習目標】

前期近代から後期近代へと移行することによりどのような社会変化が生じたのか、そしてこうした変化にともなう個人にとってのプラスとマイナスの側面はそれぞれ何なのかを理解すること。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：伝統社会から近代社会へ／前期近代から後期近代へ
- 第3回：再帰的近代化
- 第4回：リスク社会
- 第5回：再帰的プロジェクトとライフ・ポリティクス
- 第6回：愛の変容：ロマンチック・ラブからコンフルエント・ラブへ
- 第7回：やさしい人間関係と「空気」という規範
- 第8回：「若者」の消滅
- 第9回：想像の共同体とマスメディア
- 第10回：疑似環境と暴走する世論(せろん)
- 第11回：疑似イベントからハイパーリアリティへ
- 第12回：電子メディアと(子供)の消失
- 第13回：音楽消費のメディア学：物質化と脱物質化の相克
- 第14回：ウェブとマスメディア
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

日本の元号を用いて言い換えれば、前期近代は「戦後昭和」に、後期近代は「平成」「令和」に対応する。2019年に平成が終わったことで、テレビ、新聞、出版などで数々の平成特集が組まれた。そうした番組、記事、出版物に積極的に接することで、自らが(生まれる前の時代を含む)生きてきた時代とは、どのような時代なのかについて、ある程度の知識とイメージを持っておくこと。また日ごろから、情報をインターネットだけでなく、テレビ、新聞、雑誌といった複数のメディアを通して知るように心がけてほしい。

【テキスト】

【参考文献】

- 浜日出夫『戦後日本社会論』有斐閣
- 大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版
- 小川伸彦・山泰幸(編)『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- 辻泉・南田勝也・土橋臣吾『メディア社会論』有斐閣
- 南出和余・木島由晶(編)『メディアの内と外を読み解く』セリが書房
- 佐藤卓己『メディア論の名著30』筑摩書房(ちくま新書)

【コメント】

期末レポート：70% 課題レポート：30% ※レポートはいずれもM-Portで提出  
 ・課題レポートにはテーマに即した自身の考えを書いてもらう。なお、課題レポートの点数は出席点ではない。提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので、しっかりと考え内容のあるレポートを出すこと(無内容なものを提出するぐらいなら、出さない方がまし)。  
 ・期末レポートは大きめのテーマを与え、1500~2000字で書いてもらう。成績評価は厳しめ。いわゆる「楽単」や「カモ」ではないので、覚悟して履修するように。

【留意事項】

講義名称	曜日
流通論 [2] <春>	水 3

【教員名称】

福田 晴仁

【講義概要】

流通とは、生産と消費を結びつけるものであり、商的流通(商取引)と物的流通(物流)から構成されます。本講義は2部構成となっており、第1部は経済活動における流通の重要性と、卸売業、小売業の役割を解りやすく解説します。第2部は物流に焦点を当て、その基礎的な内容について講義します。具体的には物流の定義および分類、物流活動の諸要素(輸送、保管、荷役、包装、物流情報管理および流通加工)について説明します。とりわけ物流活動の中心的な要素である輸送部門については、主要な輸送機関であるトラック、海運、鉄道を取り上げて説明します。

【学習目標】

- ・流通の基礎的な内容を理解する。
- ・卸売業、小売業の役割について説明できる。
- ・物流活動が複数の要素から成り立っていることを理解する。
- ・わが国の物流業における諸課題を具体的に説明できる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：流通の定義
- 第3回：流通政策
- 第4回：卸売業
- 第5回：小売業
- 第6回：物流の定義と分類
- 第7回：物流活動の諸要素①(輸送・保管)
- 第8回：物流活動の諸要素②(荷役・包装)
- 第9回：物流活動の諸要素③(物流情報管理・流通加工)
- 第10回：わが国の物流市場の動向①
- 第11回：わが国の物流市場の動向②
- 第12回：トラック
- 第13回：海運・航空
- 第14回：鉄道
- 第15回：授業のまとめ

【事前および事後学習の指示】

流通・物流分野に関心を持って、インターネット、新聞、雑誌等の記事や当該分野の著書を事前に読むようにしてください。講義中に挙げた要点については、必ず復習し理解を深めてください。

【テキスト】

【参考文献】

- 鷲尾紀吉(2004)『新版 現代流通の潮流』同友館。
- ジェイアール貨物・リサーチセンター[2007]『変貌する産業とロジスティクス』成山堂書店。
- 上羽博人 他 編著[2008]『交通と物流システム』成山堂書店。
- 齊藤実・矢野裕児・林克彦[2015]『物流論』中央経済社。

【コメント】

試験は中間試験50点、期末試験50点とします。なお、授業中は静粛にしてください。授業中に私語を止めない受講生は、発見次第成績を減点します(1回につき10点)。

【留意事項】

講義名称	曜日
倫理学 <通期>	金 4

【教員名称】

木下 昌巳

【講義概要】

われわれは日々生きていくなかで、誰もがさまざまな事柄に関して「これは善いことだ」、「それは悪いことだ」というような価値的な判断を積み重ねながら生きている。しかし、その「善い」や「悪い」という判断はそもそもどういふことを意味しているのだろうか。

倫理学は、「善と悪」とはそもそもどういふことなのか、善悪の判断にはどのような根拠があるのか、さらにそれと深くかかわる「幸福」や「正義」とはどのようなことなのかという問題を哲学的に考察して、その本性をあらわかにしようとする学問である。この授業では、日常生活のなかで直面するさまざまな具体的問題を例として取り上げながら、①過去の思想家たちは「善と悪」についてどのような捉え方をしてきたのか、②現代に生きる私たちは「善と悪」についてどのように考えればよいのか、ということ倫理学を初めて学ぶ人に対してわかりやすく解説する。

【学習目標】

近年の社会においては、安楽死の是非、男女差別、人間と AI の関わりというような事柄が問題とされ、これらの問題についてさまざまな意見が述べられている。しかし、これらの問題は、最終的には「われわれは何を善として何を悪とするか」という倫理的判断を前提として初めて答えられる問題である。この講義では、以上のようなトピックを取り上げながら、これらの問題を分析して、その根本にある倫理的問題をあらわかにする。さらに、日常生活から新しいテクノロジーの分野にいたるまで、われわれがこれから直面するであろうさまざまな倫理的問題について、他者の言うことを鵜呑みにするのではなく、問題となっていることが自らの力で整理・分析して、各人が主体的で自立的な判断をする態度と見識を養う。

【講義計画】

- 第 1 回：倫理学の基礎 1  
「倫理学」とは何か
- 第 2 回：倫理学の基礎 2  
①記述と規範  
②「倫理学に正解はない」のか
- 第 3 回：倫理学の基礎 3  
①倫理学の下位分類  
②直観に基づく倫理と理由に基づく倫理
- 第 4 回：死刑は存続させるべきか、廃止すべきか 1  
死刑制度の存廃論①－賛成論
- 第 5 回：死刑は存続させるべきか、廃止すべきか 2  
死刑制度の存廃論②－反対論
- 第 6 回：嘘をつくこと・約束を守ることの倫理 1  
・義務論の考え方
- 第 7 回：嘘をつくこと・約束を守ることの倫理 2  
・功利主義の考え方
- 第 8 回：自殺と安楽死 1  
・自殺することは常に悪いことか
- 第 9 回：自殺と安楽死 2  
・自殺に関するヒュームとカントの議論
- 第 10 回：自殺と安楽死 3  
・安楽死は倫理的に許されるか
- 第 11 回：自殺と安楽死 4  
・治療中止をどう考えるか
- 第 12 回：他者危害原則と喫煙の自由 1  
・他者危害原則とバターナリズム
- 第 13 回：他者危害原則と喫煙の自由 2  
・喫煙は個人の自由であるため公共空間では規制しないという主張
- 第 14 回：他者危害原則と喫煙の自由 3  
①公共空間では規制し、私的空間でしか喫煙はできないという主張  
②私的空間でも公共空間でも喫煙は認められるべきという主張
- 第 15 回：春学期のまとめと総括
- 第 16 回：ベジタリアニズム 1  
①秋学期の講義計画  
②動物の愛護と肉食
- 第 17 回：ベジタリアニズム 2  
①肉食を正当化する論理  
②いくつかの反論と応答
- 第 18 回：善いことをする義務 1  
・「善行」の倫理的な位置づけ
- 第 19 回：善いことをする義務 2  
・「義務」とは何か
- 第 20 回：善いことをする義務 3  
・カントによる善行の正当化
- 第 21 回：善いことをする義務 4  
・シンガーの援助義務論
- 第 22 回：善いことをする動機 1  
・利他主義についての懐疑
- 第 23 回：善いことをする動機 2  
・動機は無関係という立場
- 第 24 回：善いことをする動機 3  
・人々は「やりたいことをやっている」のか
- 第 25 回：善いことをする動機 4  
・利他主義について懐疑的に答える
- 第 26 回：災害時の倫理 1  
①「津波でんでんこ」とは何か  
②二つの批判
- 第 27 回：災害時の倫理 2  
①「津波でんでんこ」は利己的な教えか  
②「津波でんでんこ」と心理的困難さ
- 第 28 回：法と道徳 1

- ①現代日本の法と道徳に関する理解
- 第 29 回：法と道徳 2  
①法と道徳の教科書的区別とその問題点  
②法と道徳に関するベンタムの見解
- 第 30 回：秋学期のまとめと総括

【事前および事後学習の指示】

授業前に、テキストの該当箇所を一読しておくこと。テキストを独力で読みこなすことは初めて倫理学を学ぶ学生には困難かもしれない。しかし、講義を受けた後で読み返してみると「なるほど、そういうことが書いてあるのか」と腑に落ちるはずである。授業後、テキストを繰り返し熟読すること。  
授業で使用したスライドファイルは授業後に M-Port にアップロードする。各自ダウンロードして復習に利用してほしい。

【テキスト】

実践・倫理学 児玉聡  
978-4326154630 勁草書房

【参考文献】

倫理的問題に対する判断は社会と時代の変化に伴って変化するものであり、とくに時事的な問題については必ず賛否両論が並立する。授業で取り上げた具体的な事例、またその他の時事的な倫理的な諸問題については、インターネットで最新の情報や意見を収集することが不可欠である。検索やリンクをたどっていけば、さまざまな主張や論争がいたるところで展開されていることと見て取れるだろう。大切なことは、あるところで書かれていることを鵜呑みにするのではなく、反対の意見にも耳を傾けて、双方の主張を整理し、自分とはどのような立場を採るかということをつねに考える習慣を身に着けることである。倫理学を学ぶことの意義はここにある。

【コメント】

春学期配点 50 点、秋学期配点 50 点として通年で 100 点満点で成績評価をおこなう。  
春学期・秋学期配点 50 点の成績評価は、両学期とも  
・授業内に告知して提出してもらったレポート 5 回(5 点×5 計 25 点)  
・学期末レポート(25 点)  
によっておこなう。

【留意事項】

講義名称	曜日
歴史学 [2] -アジア経済史 <春>	月 2

【教員名称】

見浪 知信

【講義概要】

近世から 1900 年代にかけてのアジア経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、中国、日本、朝鮮といった東アジア諸地域の経済について統計データや図表もとに具体的に説明します。また、現代社会への接続を意識しつつ、国際比較や国際関係といった観点を取り入れて講義します。

【学習目標】

- ① アジア経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。
- ② アジア経済を、国際比較および国際関係といった観点で捉えることができる。

【講義計画】

- 第 1 回： ガイダンス アジア経済をどう捉えるか
- 第 2 回： 近世① アジアの近世社会
- 第 3 回： 近世② ウェスタン・インパクトと近代化－開港と制度変化－
- 第 4 回： 近世③ ウェスタン・インパクトと近代化－工業化の始動－
- 第 5 回： 近代① 中国の社会変化
- 第 6 回： 近代② 産業革命の伝播
- 第 7 回： 近代③ 重化学工業の展開
- 第 8 回： 近代④ 戦時・戦後のアジア経済－日本の事例－
- 第 9 回： 近代⑤ 戦時・戦後のアジア経済－東アジアの復興・成長－
- 第 10 回： 現代① 高度成長期のアジア－日本の経済成長－
- 第 11 回： 現代② 高度成長期のアジア－東アジアの発展類型－
- 第 12 回： 現代③ アジアの経済発展 I－中国の急成長－
- 第 13 回： 現代④ アジアの経済発展 II－東アジアから東南アジアへ－
- 第 14 回： 現代⑤ これからのアジアの経済
- 第 15 回： 期末試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。  
授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。

【テキスト】

【参考文献】

タイトル：『東アジア経済史』、著者：堀和生・木越義則  
出版社：日本評論社、ISBN：4535558043、備考：2020 年出版

【コメント】

この講義の成績は、第 15 回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。

【留意事項】

講義名称	曜日
歴史学 [2] -近代日本社会に「生きること」を考える <春>	水 3

【教員名称】

島田 克彦

【講義概要】

この授業では、近代の日本社会について「生きること」という観点から学びます。歴史の学びには、現代を生きることにどこかつながっていて、そのことがわたしたちに生きる力をもたらすという側面があります。みなさんが歴史を学ぶ動機はさまざまだと思いますが、このような側面に、少し注意深くみてはどうでしょうか。この授業では、19 世紀後半から 20 世紀はじめの日本社会と現代を往復しながら、人びとが「生きること」、または人びとの「生きづらさ」について考えていきましょう。そして、授業を通じて、「歴史学」とはどういう学問なのか、という問いに向き合って、考察を深めてほしいと思います。授業の形態は講義ですが、出席メンバー同士で話し合ってもらう機会を設けたいと考えています。

【学習目標】

- ①19 世紀後半から 20 世紀はじめの日本社会の特徴を、授業で学んだ素材を用いて説明できる。
- ②「歴史学」とはどういう学問であるのか、授業で学んだ素材を用いて説明できる。

【講義計画】

- 第 1 回： イントロダクション この授業の進め方について説明します。
- 第 2 回： 明治政府の成立と社会の変化
- 第 3 回： 日本における資本主義社会の形成(1)－突然景気が悪くなる－
- 第 4 回： 日本における資本主義社会の形成(2)－負債農民騒擾とは何か－
- 第 5 回： 貧困と救済(1)－都市下層社会－
- 第 6 回： 貧困と救済(2)－恤救規則(じゅっきゅうきそく)とは何か－
- 第 7 回： 江戸時代から明治時代へ－変貌する社会を生きる－
- 第 8 回： 中間まとめ
- 第 9 回： 東アジアのなかの大日本帝国(1)－大日本帝国憲法－
- 第 10 回： 東アジアのなかの大日本帝国(2)－日清戦争と植民地支配－
- 第 11 回： 「家」と女性(1)－女性がはたらくということ－
- 第 12 回： 「家」と女性(2)－「家」とは何か－
- 第 13 回： 日露戦争の時代(1)－都市民衆騒擾－
- 第 14 回： 日露戦争の時代(2)－東アジアの植民地帝国・日本－
- 第 15 回： 全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストをよく読んで出席すること。次の授業で取り上げる部分を指示します。また、わからない用語は辞典類で調べる習慣をつけましょう。

【テキスト】

生きづらい明治社会－不安と競争の時代 松沢裕作  
978-4-00-500883-4 岩波書店 岩波ジュニア新書 883

【参考文献】

テキスト末尾の「参考文献」を参照してください。その他に、以下の文献を挙げておきます。  
井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科 未来を語るために』有斐閣、2017 年  
和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史 8 和泉市の近現代』和泉市、2021 年  
井上勝生『明治日本の植民地支配』岩波書店(岩波現代全書 011)、2013 年  
和田春樹ほか『東アジア近現代通史 19 世紀から現代まで(上)』岩波書店(岩波現代全書 043)、2014 年

【コメント】

レポートは 2 回を予定しています。また、毎回の授業へのコメントや課題提出を評価します。

【留意事項】

※【コメント】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

講義名称	曜日
労働法A <春>	木1

【教員名称】

楠本 敏之

【講義概要】

近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「長時間労働」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際、日本の労働現場では、非正規雇、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善するべきなのかを考えることができるようにします。

【学習目標】

労働法の全体像を体系的に示した上で、労働契約に関する諸規定や賃金に関する規制などについて解説します。労働法の基本知識をしっかりと習得していくことから始め、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することができる法的能力を身に付けることができるようにすることが目標です。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス～講義の進め方・方針など
- 第2回：労働法の意義－労働法の発生とその歴史など
- 第3回：労働法における登場人物－労働者・使用者・労働組合など
- 第4回：労働法の法源－労働法のルールの所在～労働契約・労働契約・労働法規など
- 第5回：採用・採用内定・試用など
- 第6回：人事異動－配転・出向・転籍など
- 第7回：懲戒など
- 第8回：労働契約の終了①～解雇・整理解雇など
- 第9回：労働契約の終了②～解雇・整理解雇以外の終了事由
- 第10回：労働条件の変更など
- 第11回：非正規労働者の労働契約など
- 第12回：雇用平等・人権擁護①(男女平等を中心に様々な平等・人権問題)など
- 第13回：雇用平等・人権擁護②(その他の様々な平等・人権問題)など
- 第14回：賃金規制など
- 第15回：まとめと今後の労働法の課題について

【事前および事後学習の指示】

労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。

【テキスト】

ブレップ労働法(第7版) 森戸英幸  
9784335313332 弘文堂

【参考文献】

村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選(第10版)』(有斐閣)

【コメント】

備考 学年末の2回のレポート(各50%)のみで評価します。ただ、毎回の授業に關し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】

『実務経験のある教員による授業(元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する)』